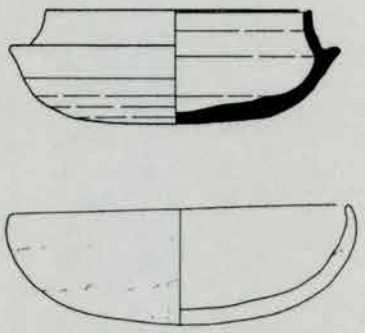
潮 津 遺 跡 群

県営ほ場整備事業（潮津地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書



1997

石川県立埋蔵文化財センター

潮　津　遺　跡　群

県営ほ場整備事業（潮津地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

石川県立埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は石川県加賀市潮津町地内に所在する潮津スワンヤブ下遺跡、潮津ドウダン遺跡、潮津金場遺跡、潮津出村Ｂ遺跡の発掘調査報告書である。本書名はこの４遺跡を包括するために便宜的に潮津遺跡群としたものである。

2　潮津遺跡群の発掘調査は県営ほ場整備事業（潮津地区）に係るもので、石川県農林水産部農地整備課、加賀農林総合事務所（当時耕地整備課、大聖寺土地改良事務所）の依頼を受け、石川県立埋蔵文化財センターが実施した。事業に要した費用は同課が負担したほか、一部文化庁の補助金を得ている。

3　現地調査は平成５、６年に実施し、本田秀生（石川県立埋蔵文化財センター主任主事　当時主事）土屋宣雄（社団法人石川県立埋蔵文化財保存協会主任調査員　当時石川県立埋蔵文化財センター主事）が担当した他、大藤雅男（石川県立埋蔵文化財センター調査補助員）がこれを補佐した。出土品の整理作業は平成５年度から社団法人石川県立埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。

4　潮津金場遺跡と潮津出村Ｂ遺跡の一部については空中写真測量を実施しているが、これについては㈱太陽測地社に委託して行った。

5　本書の編集は本田が担当し、越田純子、山本登美子、池村ひとみがこれを補佐した。本書の執筆は第１章第１節、第２～４章を本田が、第１章第２節は福海貴子（平成７年度石川県立埋蔵文化財センター嘱託調査員現小松市教育委員会）が行った。

6　現地作業、出土品整理、報告書の作成に当たっては次の方々や諸機関から御助言、御指導、御協力をいただいた。深謝の意を表する。

潮津町　加賀市教育委員会　小松市教育委員会　太田和夫　石川農林水産部農地整備課
加賀農林総合事務所　東出組　㈱太陽測地社

7　本書における挿図の扱いは下記の通りである。

(1)　平面図の方位には座標北（第Ⅶ系）を用いた。
(2)　断面図の水準線に付した数値は海抜高である。
(3)　遺物実測図の表現の内、断面黒塗は須恵器、内面細網は黒色処理を表す。

8　本調査の出土品、記録資料等は、石川県立埋蔵文化財センターが一括して保管している。

目　　次

第１章　遺跡の位置と環境 …… 1
　第１節　遺跡の位置 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 2

第２章　調査に至る経緯と経過 …… 7
　第１節　調査に至る経緯 …… 7
　第２節　調査経過 …… 7

第３章　遺構と遺物 …… 9
　第１節　潮津スワンヤブ下遺跡 …… 9
　第２節　潮津ドウダン遺跡 …… 14
　第３節　潮津金場遺跡 …… 20
　第４節　潮津出村B遺跡 …… 45

第４章　まとめ …… 65

挿 図 目 次

第１図　県営ほ場整備事業潮津地区と周辺の遺跡 …… 3
第２図　潮津スワンヤブ下遺跡発掘調査区 …… 9
第３図　潮津ドウダン遺跡発掘調査区 …… 10
第４図　潮津スワンヤブ下遺跡遺構図 …… 11
第５図　潮津ドウダン遺跡遺構図 …… 12
第６図　潮津スワンヤブ下遺跡出土土器（１）…… 13
第７図　潮津スワンヤブ下遺跡出土土器（２）・潮津ドウダン遺跡出土土器 …… 14
第８図　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器（１）…… 15
第９図　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器（２）…… 16
第10図　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器（３）…… 17
第11図　潮津金場・潮津出村Ｂ遺跡発掘調査区と竪穴住居跡・掘立柱建物分布図 …… 20
第12図　潮津金場・潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区全体図・潮津金場遺跡基本土層 …… 21
第13図　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡（１）…… 22
第14図　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡（２）…… 23
第15図　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器（１）…… 24
第16図　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器（２）…… 25
第17図　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器（３）・石器 …… 26
第18図　潮津金場遺跡２号竪穴住居跡 …… 29
第19図　潮津金場遺跡２号竪穴住居跡出土土器・石器 …… 30
第20図　潮津金場遺跡３号竪穴住居跡・１号掘立柱建物 …… 32
第21図　潮津金場遺跡３号竪穴住居跡出土土器・石器 …… 33
第22図　潮津金場遺跡２・３号土坑 …… 35
第23図　潮津金場遺跡３号土坑出土土器（１）…… 36
第24図　潮津金場遺跡３号土坑出土土器（２）…… 37
第25図　潮津金場遺跡３号土坑出土土器（３）・１・２・４・５号土坑出土土器 …… 38
第26図　潮津金場遺跡３号土坑出土石器 …… 39

第27図　潮津金場遺跡出土遺物 …… 44
第28図　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡 …… 46
第29図　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器（１） …… 47
第30図　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器（２） …… 48
第31図　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器（３） …… 49
第32図　潮津出村Ｂ遺跡'94年度調査区（Ａ～Ｆトレンチ）全体図 …… 54
第33図　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号竪穴住居跡 …… 55
第34図　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ２号竪穴住居跡・Ｂトレンチ１号掘立柱建物・
２号掘立柱建物 …… 56
第35図　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ出土遺物 …… 57
第36図　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡 …… 60
第37図　潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ４・５・６号竪穴住居跡 …… 61
第38図　潮津出村Ｂ遺跡Ｂ～Ｅトレンチ出土遺物 …… 62
第39図　潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ・道路南側斜面・北側斜面出土土器 …… 65

図 版 目 次

図版１　潮津金場遺跡全景
図版２　潮津金場遺跡Ｂ区全景
図版３　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡全景
図版４　潮津金場遺跡２号竪穴住居跡全景
図版５　潮津金場遺跡３号竪穴住居跡・３号土坑・１号掘立柱建物全景
図版６　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡全景
図版７　潮津スワンヤブ下遺跡全景
図版８　潮津スワンヤブ下遺跡全景
図版９　潮津スワンヤブ下遺跡１号竪穴住居跡完掘状態
図版10　潮津スワンヤブ下遺跡４区土層断面
図版11　潮津スワンヤブ下遺跡２区遺構完掘状態
図版12　潮津スワンヤブ下遺跡２号土坑土器出土状況
図版13　潮津スワンヤブ下遺跡３号溝完掘状態
図版14　潮津スワンヤブ下遺跡３区遺構完掘状態
図版15　潮津ドウダン遺跡全景
図版16　潮津ドウダン遺跡５区土層断面
図版17　潮津ドウダン遺跡２区遺構完掘状態
図版18　潮津ドウダン遺跡３区遺構完掘状態
図版19　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡完掘状態
図版20　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡遺物出土状況
図版21　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡遺物出土状況
図版22　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡遺物出土状況
図版23　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡完掘状態
図版24　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡遺物出土状況
図版25　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡遺物出土状況
図版26　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡遺物出土状況
図版27　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡遺物出土状況
図版28　潮津金場遺跡２号竪穴住居跡完掘状態
図版29　潮津金場遺跡２号竪穴住居跡床面除去後状態
図版30　潮津金場遺跡２号竪穴住居跡遺物出土状況
図版31　潮津金場遺跡３号竪穴住居跡完掘状態
図版32　潮津金場遺跡３号竪穴住居跡床面除去後状態
図版33　潮津金場遺跡２号土坑遺物出土状況
図版34　潮津金場遺跡３号土坑遺物出土状況
図版35　潮津金場遺跡３号土坑遺物出土状況

図版36　潮津金場遺跡３号土坑完掘状態
図版37　潮津金場遺跡Ａ区調査状況
図版38　潮津金場遺跡基本層序
図版39　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ全景
図版40　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号竪穴住居跡完掘状態
図版41　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号竪穴住居跡床面除去後状態
図版42　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号竪穴住居跡土層断面
図版43　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ２号竪穴住居跡完掘状態
図版44　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ２号竪穴住居跡土層断面
図版45　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号土坑遺物出土状況
図版46　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号土坑完掘状態
図版47　潮津出村Ｂ遺跡Ｂトレンチ１号掘立柱建物全景
図版48　潮津出村Ｂ遺跡Ｂトレンチ完掘状態
図版49　潮津出村Ｂ遺跡Ｃトレンチ完掘状態
図版50　潮津出村Ｂ遺跡Ｃトレンチ完掘状態
図版51　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡完掘状態
図版52　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡完掘状態
図版53　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡土層断面
図版54　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡ａ遺物出土状況
図版55　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡ａ遺物出土状況
図版56　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡ｃ遺物出土状況
図版57　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡ｂ遺物出土状況
図版58　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡ｂ遺物出土状況
図版59　潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ完掘状態
図版60　潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ４号竪穴住居跡完掘状態
図版61　潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ４号竪穴住居跡遺物出土状況
図版62　潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ４～６号竪穴住居跡完掘状態
図版63　潮津出村Ｂ遺跡ＥトレンチＰ－１遺物出土状況
図版64　潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ完掘状態
図版65　潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ完掘状態
図版66　潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ完掘状態
図版67　潮津出村Ｂ遺跡道路南側斜面
図版68　潮津出村Ｂ遺跡道路北側斜面
図版69　潮津金場遺跡調査区外竪穴住居跡ａ
図版70　潮津金場遺跡調査区外竪穴住居跡ｂ
図版71　潮津スワンヤブ下遺跡・潮津ドウダン遺跡出土土器
図版72　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器
図版73　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器
図版74　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡・２号竪穴住居跡出土遺物
図版75　潮津金場遺跡３号竪穴住居跡出土遺物
図版76　潮津金場遺跡３号土号出土土器
図版77　潮津金場遺跡１～３号土坑出土遺物
図版78　潮津金場遺跡２～５号土坑出土遺物・その他出土遺物
図版79　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器
図版80　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器
図版81　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器
図版82　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ出土遺物
図版83　潮津出村Ｂ遺跡Ｂ～Ｅトレンチ出土遺物
図版84　潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ・道路南側斜面・北側斜面出土土器

表　目　次

表１　遺跡地名表
表２　潮津スワンヤブ下遺跡出土土器観察表
表３　潮津ドウダン遺跡出土土器観察表
表４　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器計測表
表５　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器観察表・石器計測表
表６　潮津金場遺跡２号竪穴住居跡出土土器観察表・石器計測表
表７　潮津金場遺跡３号竪穴住居跡出土土器観察表・石器計測表
表８　潮津金場遺跡３号土坑出土土器観察表
表９　潮津金場遺跡出土石器計測表
表10　潮津金場遺跡１・２・４・５号土坑出土土器観察表
表11　潮津金場遺跡出土土器観察表・石器計測表
表12　潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器観察表
表13　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ出土土器観察表・石器計測表
表14　潮津出村Ｂ遺跡Ｂ～Ｅトレンチ出土土器観察表・石器計測表
表15　潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ・道路斜面出土土器観察表・石器計測表

第１章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置

潮津遺跡群は石川県加賀市潮津町に位置する。加賀市は山中町と共に石川県の西南端に位置し、隣県福井県と接している。加賀市の中央部は、白山から続く江沼丘陵、海岸部の洪積台地である橋立丘陵、そして小松市との境にある月津台地に囲まれた、通称江沼盆地と呼ばれる平野である。ここには大日山を源とする大聖寺川、動橋川が、この盆地の東西を流れている。

加賀市はこの中央部を中心として古来から栄えてきたが、潮津町はこの中央部とは橋立丘陵を挟んだ海側に位置している。橋立丘陵は、海岸線に平行した尾根と谷の連続帯であるが、遺跡はこの谷に面した丘陵尾根の縁や裾に立地したものが多い。現在の集落も同様である。潮津町はこの丘陵の海側から２本目の尾根の北裾に位置する。柴山潟湖畔の片山津の温泉街に近い方では、その発展に伴って都市化、住宅化が進んでいるが、本遺跡群の位置するあたりは、温泉街の喧噪からは少し離れ、静かな佇まいを見せている。

かつては集落の前面に柴山潟に続く潮津潟が広がっており、やしわの湊と呼ばれていが、明治の初め頃に東出長四郎の努力によりに埋め立てられ水田化された。中世には文献に潮津在住の僧衆、尼衆の名前が頻出し、時衆道場として潮津西光寺の名がみえる事から、日本海航路を利用して、臨海港湾集落である当地に時衆等が拠点を求めたと考えられている。さらに遡れば古代北陸道が通り、文献に見える潮津の駅がこのあたりに置かれていたと考えられている。小松市の安宅の関から船で今江潟、柴山潟を進み来るとこの潮津あたりが最奥となり、樹枝状にのびる支谷の突き当たりに白鳳寺院の宮地廃寺が位置している。今回の調査では古代の遺跡は潮津スワンヤブ下遺跡のみで、大きく展開した遺跡ではないと思われるが、潟の周辺にはこの時期の遺跡が展開している。

片山津温泉の湧き出し地は、近世潮津村と片山津村の境のあたりで、大聖寺藩二代藩主前田利明が鷹狩りに来て発見したと伝えられている。明治９年に潟の埋め立てにより本格的に開発が行われ、同30年には旅館数11軒を数えるに至っている。同22年の町制で潮津村は塩津村に、片山津村は作見村に含まれたため温泉街が２分されたが、昭和17年に両村が合併し片山津町となった。温泉街は潟の干拓によりやや片山津よりに展開していったが、潮津地内でも旅館の建設や従業員の住宅の建設などが進んだ。近年では県道山中・伊切線の開通で、温泉街を通り抜けずに橋立丘陵を横断して江沼盆地へぬけることが出来る様になり、温泉街から続く丘陵地の開発が一段と盛んになった。また、北陸自動車道片山津インターチェンジから市役所のある大聖寺へつながる道路の整備が進められ、この間に位置する潮津町の周辺も変容しつつある。

参考文献

竹内理三編　1981　『角川地名辞典17　石川県』　角川書店
平凡社地方資料センター　1991　『石川県の地名』日本歴史地名体系１７　平凡社
田島正和他　1983　『篠原シンゴウ遺跡発掘調査報告』　加賀市教育委員会
小森修三　1977　『宮地廃寺範囲確認発掘調査報告』　加賀市教育委員会

第２節　歴史的環境

本遺跡周辺に分布する遺跡の様相を時代毎に概観していくことにする。

旧石器・縄文時代

宮地向山遺跡は加賀市では数少ない旧石器時代の遺跡である。時期は末頃にあてられ、掻器、石刃、石核等良好な資料が出土している(註1)。

柴山水底貝塚は昭和39年柴山潟干拓工事の排水機場建設中、湖底約６メートルのところから発見された。標高約30ｍ前後のきわめてゆるやかなスロープをもつ柴山潟湖畔にある。当遺跡は汽水性のヤマトシジミを中心とした貝塚であり、当時の柴山潟は海水が出入りした汽水性潟となっていたと考えられる。時期は縄文早期の終わり頃から前期にかけてのものと考えられる。中期になると１㎞離れたところ、湖畔から標高30ｍの洪積台地に柴山貝塚が存在する。当遺跡では住居跡が発見されており、出土遺物は土器の他石鏃、石皿、たたき石などがあり、また、県内でも数少ない三角型壔形土製品が一点出土している。後期になると遺跡は柴山潟から拡散し分布するようになり、潮津潟においてもみることができる。本調査区近隣に位置する潮津上出遺跡は、台地上に位置し、現在の片山津中学校の校地内に所在する。片山津中学校社会科クラブにより調査が行われ(2)、住居跡が確認され多数の石鏃の出土がみられたことから、石鏃遺跡ともいわれている。出土遺物から後期後半から晩期にかけての集落遺跡と考えられている。

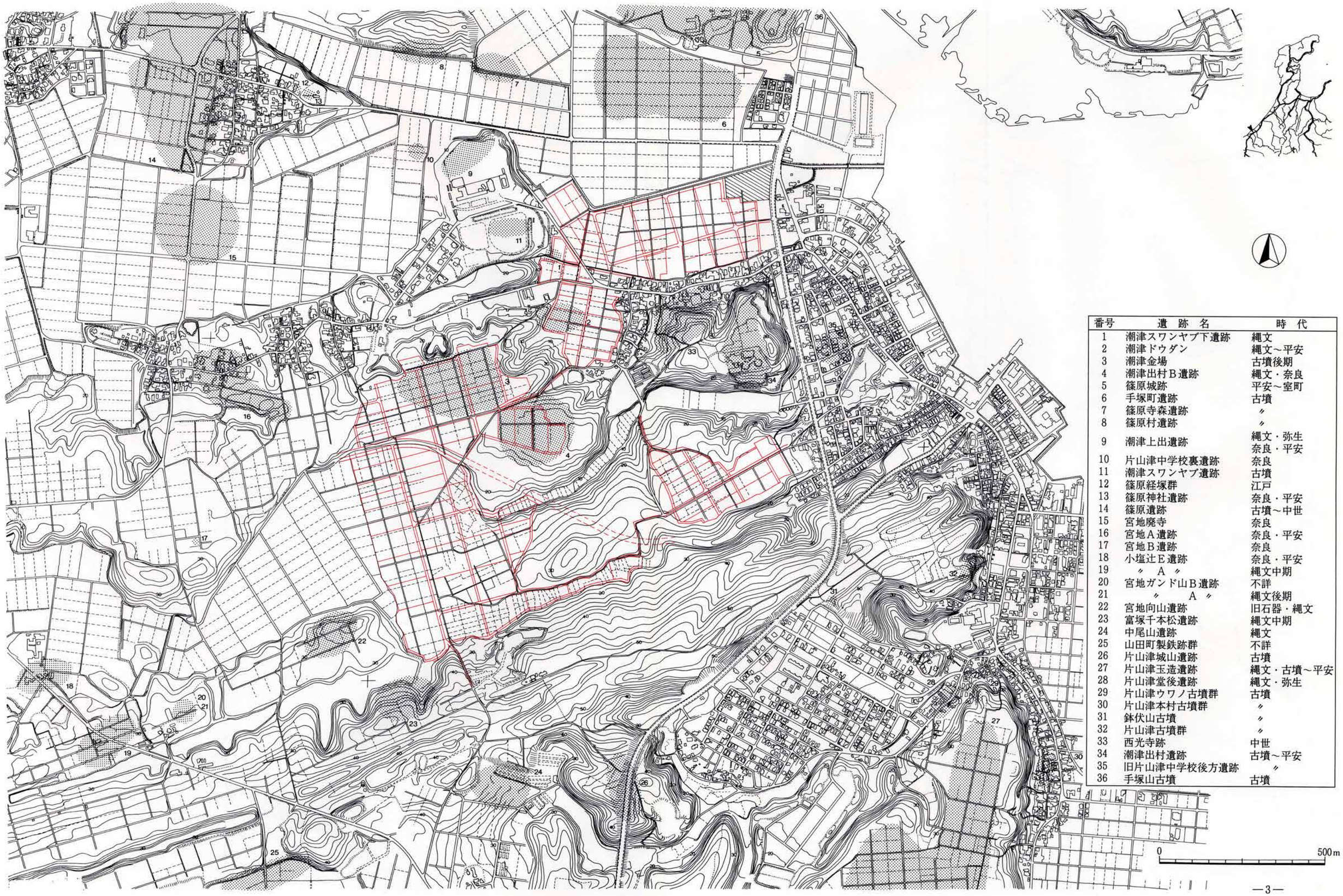
弥生時代

現在確認されているのは中期初頭からであり、標識遺跡でもある柴山出村遺跡、柴山水底弥生遺跡があげられる(3)。柴山出村遺跡は旧柴山潟に接する低地に位置する。土器は条痕文系土器が主体である。次に本調査区から南東に約２㎞離れたところに八日市川に沿った形で猫橋遺跡が存在する。当遺跡は後期の標識遺跡として有名であり、主に後期前半の土器の出土がみられる。昭和38年の河川改修工事の際に多量の土器とともに、容器、農具、梯子等の木製品が多数出土している。柴山潟南西では後期以外の集落の存在が明らかになっていなかったが、近年の当遺跡の調査から小松式～戸水Ｂ式と考えられる土器が出土しており、加賀市教育委員会の調査では白江式の土器の出土がみられる(4)。また八日市川をのぼっていったところに弓波遺跡があり、当遺跡に継続する時期の土器の出土がみられ(5)、八日市川水系周辺を転々としながら弥生時代の集落が継続して営まれていたことが窺われる。潮津潟周辺では中期後半と考えられる土器が出土しているが大きな集落の存在が明らかになるのは弥生後期以降になる。潮津土師遺跡（潮津スワンヤブ遺跡）は片山津中学校社会科クラブにより調査され、弥生時代末期～古墳時代前期の住居跡が多数検出された(6)。出土したものの中には土器だけでなく、緑色凝灰岩の破片及び管玉の出土もみられる。

古墳時代

集落遺跡としては片山津玉造遺跡があげられる。本調査区より南東、猫橋遺跡からほぼ北西に位置する。発掘調査の結果、住居跡が確認され、緑色凝灰岩の原石や管玉の未製品が出土しており、中には「工作用連結孔」・「工作用二重孔」を伴う住居、玉造工房址があるため、玉造集団の村であったと考えられている。主に管玉が製作されており、原石は緑色凝灰岩で採取地は遺跡の南東約10㎞にある船見山付近と考えられている。時期は４Ｃ前半～５Ｃ前半まで継続しており、攻玉を行っていたと確認できるのは４Ｃ後半から５Ｃ前半である。また八日市川水系・潮津潟近辺では弥生時代中期から緑色凝灰岩の原石、管玉未成品の出土があり、各集落で玉造が行われていることが窺われ、それが古墳時代になって生産のあり方事態が変わり、特定の支配層と密接に結びついた専業集団になったものと考えられる。

古墳については石川考古学研究会が行った分布調査報告で江沼地域をブロック別に分け(7)、詳しい説明がなされている。ここでは本調査区を含むブロック及び周辺のブロックを説明していくことにする。八日市川周辺（富



番号	遺跡名	時代
1	潮津スワンヤブ下遺跡	縄文
2	潮津ドウダン	縄文～平安
3	潮津金場	古墳後期
4	潮津出村Ｂ遺跡	縄文・奈良
5	篠原城跡	平安～室町
6	手塚町遺跡	古墳
7	篠原寺森遺跡	〃
8	篠原村遺跡	〃
9	潮津上出遺跡	縄文・弥生 奈良・平安
10	片山津中学校裏遺跡	奈良
11	潮津スワンヤブ遺跡	古墳
12	篠原経塚群	江戸
13	篠原神社遺跡	奈良・平安
14	篠原遺跡	古墳～中世
15	宮地廃寺	奈良
16	宮地Ａ遺跡	奈良・平安
17	宮地Ｂ遺跡	奈良
18	小塩辻Ｅ遺跡	奈良・平安
19	〃　Ａ　〃	縄文中期
20	宮地ガンド山Ｂ遺跡	不詳
21	〃　Ａ　〃	縄文後期
22	宮地向山遺跡	旧石器・縄文
23	富塚千本松遺跡	縄文中期
24	中尾山遺跡	縄文
25	山田町製鉄跡群	不詳
26	片山津城山遺跡	古墳
27	片山津玉造遺跡	縄文・古墳～平安
28	片山津堂後遺跡	縄文・弥生
29	片山津ウワノ古墳群	古墳
30	片山津本村古墳群	〃
31	鉢伏山古墳	〃
32	片山津古墳群	〃
33	西光寺跡	中世
34	潮津出村遺跡	古墳～平安
35	旧片山津中学校後方遺跡	〃
36	手塚山古墳	古墳

第１図　県営ほ場整備事業　潮津地区と周辺の遺跡（S＝１/10,000）

塚・片山津地域）は前述した玉造集団と直接関連をもった集団を含む地域と考えられ、28基の古墳が確認されている。前・中期にあげられるものとして片山津天神古墳があげられる。後期では大型のもので富塚丸山古墳があげられる。当古墳は富塚町に位置し、６Ｃ前半の江沼地域の首長墓の可能性が高いといわれている。大型円墳とされていたが、近年加賀市教育委員会による調査の結果、前方後円墳であることがわかっている[8]。規模は後円部で墳頂平坦面が約20ｍ、径40～50ｍ、高さは東南側で8.5ｍを測る。出土遺物は甲・刀身・金環・玉等があったといわれている。また、当古墳から北に位置する富塚古墳群では、径10～15ｍ程度の小規模円墳が９基確認されている。片山津地域では、宅地造成で消滅した片山津古墳群や鉢伏山古墳、揚柳山古墳がある。分布調査では明らかになっていないものの本調査区から北に手塚山古墳がある。前方後円墳といわれており、直刀、剣、須恵器の破片が出土している。本調査区でもある潮津・篠原地域は不明な点が多いが５Ｃ後～５Ｃ末の集落跡が出現しており、後期には古墳群が築造されていた可能性がある。

歴史時代

加賀市は古代寺院が集中する地域でよく知られている。現在確認されているものとして宮地廃寺、弓波廃寺、高尾廃寺、保賀廃寺、津波倉廃寺があげられる。その中で本調査区から最も近く位置するものとして、宮地廃寺があげられる。宮地廃寺は宮地町から篠原町にまたがる水田にあり、「じょうじゃのかま」と呼ばれる火山岩の塔心礎が残る。昭和50、51年にかけて範囲調査が実施されたが[9]、想像以上に遺構の残りが悪く、伽藍配置も明確でない。出土瓦から、白鳳時代建立のものとみられている。また、片山津中学校裏遺跡からは布目瓦が採集されており、その中には白鳳期の皇孤文軒平瓦が確認され、宮地廃寺の瓦窯跡の可能性があると考えられている[10]。

また、コシノエヌのクニは、「越前国江沼郡」の南半部となり、郡の下に、いくつかの郷が編成された。『和名抄』にあげられた郷名リストによると９Ｃ頃の郷は長江・忌波・山背・竹原・額田・菅波・八田・三田の８郷がある。現在の地名等から長江は加賀市永井町に、忌波は加賀市弓波町付近、山背は加賀市山代町付近、竹原は加賀市篠原町付近、額田は小松市額見町付近、菅波は加賀市大菅波町付近、八田は小松市矢田町付近に推定されている。本調査区が所在する潮津町は『延喜式』でみられる「潮津駅」の遺称地とみられており、忌波郷（弓波町）の北に位置する。また、古代の駅路は朝倉駅から潮津駅、小松市の安宅に向けて通じていたと考えられている。集落は水路、陸路を含め交通路周辺に発達したと想定され、竹原郷内の遺跡として篠原遺跡など、忌波郷内の遺跡として弓波遺跡などが近年調査されている。本調査区から西に位置する篠原遺跡は、飛鳥時代後半から平安時代初頭にかけて継続した集落遺跡であり、最盛期は８Ｃ中頃～後半と考えられる。篠原遺跡に含まれる篠原シンゴウ遺跡からは倉庫１棟を含む、15棟以上の掘立柱建物や土壙が検出されており、地方官衙的なものに関連するものと考えられている[11]。次に当遺跡から西に篠原新遺跡がある。篠原新遺跡は３回にわたる調査において、平地式の住居跡が３基確認されており、出土遺物から８Ｃ～10Ｃにわたる集落遺跡と考えられる。出土品の中には和同開珎、富寿神宝などもみられる。

また、篠原といえば『平家物語』や『源平盛衰記』などでの篠原の合戦を思い浮かべることができる。この戦いで総崩れとなった平家軍の中で、ただ一騎ふみとどまり戦死した斎藤実盛という老武者の奮戦が語りぐさとなっている。これとともにこの地には、首洗池、実盛塚などが語り伝えられている。

12Ｃにはいると、古い郡－郷の支配体制が大幅に組みかえられる。菅波郷・山代郷・南郷が、それぞれ今の加賀市大菅波、小菅波・山代町・南郷町のあたりを中心として郷域が設定されたと推測され、続いて北野宮寺領の庄・郷群として富墓庄・山代庄本郷があげられる。富墓庄の名があらわれるのは応永20年11月の富墓庄預所筑前守知識の寄進状である。富墓庄域は潮津町を含み、柴山潟北岸の柴山町から西岸の片山津町、南の富塚町にひろがっている。

以上、本調査区周辺の遺跡を概観してきた。潮津潟の潟端に立地する遺跡は、不明な点が多いものの、縄文時代から歴史時代に至るまで継続して営まれており、宮地町、篠原町、野田町を含む領域で柴山潟南西沖とは別に

ひとつの集落単位が成立していたものと考えられる。いまだ今後の調査研究において解明されることを多く残す地域であり、発掘調査で一層の成果が挙げられることが期待できる。

註

1） 加賀市教育委員会 『宮地向山遺跡』 1990

2） 片山津中学校社会科クラブ 『縄文潮津上出遺跡の研究』 1968

3） 前期の遺跡は現在確認されていないものの、柴山潟周辺において縄文晩期から弥生時代へ移行するにあたって継続して集落が営まれていたものと考えられる。

4） 加賀市教育委員会 『猫橋遺跡』 1993

5） 石川県埋蔵文化財センター 『石川県埋蔵文化財センター年報』第15号 1995

6） 片山津中学校社会科クラブ 『潮津土師遺跡の研究』 1970

7） 田嶋明人他 「江沼古墳群分布調査報告」 『石川考古学研究会ケ誌』第21号

8） 加賀市教育委員会の田嶋正和氏のご教授による。

9） 加賀市教育委員会 『宮地廃寺範囲確認発掘調査報告』 1977

10） 石川県埋蔵文化財センター 『篠原遺跡』 1987

11） 加賀市教育委員会 『篠原シンゴウ遺跡発掘調査報告』 1983

《参考文献》

加賀市教育委員会 『加賀片山津玉造遺跡の研究』 1963

加賀市教育委員会 『弓波廃寺跡範囲確認発掘調査報告』 1978

加賀市史編さん委員会 『加賀市史 通史上巻』

中口 裕 「片山津玉造遺跡研究補遺」 『石川考古学研究会々誌』第9号

中口 裕 「石川県江沼郡旧潮津潟周辺の遺跡」 『石川考古学研究会々誌』第6号 1973

第２章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

石川県農林水産部は昨今の状況に対応するため、多岐に亘る農業改善事業を進めている。ほ場整備事業もその一つでこれにも多種のメニューを用意してこれにあたり、現在では同部農地整備課が、県内各地で事業を推進している。今回の発掘調査もこれに係わるもので、平成３年度から石川県立埋蔵文化財センターが事業地内の分布調査を実施している。事業の対象地は潮津町前面の低地と、背後の丘陵地で、平成３年には147,000㎡をを対象に分布調査を実施し、その内9,000㎡について遺跡の存在が確認され、その保護について協議を行っている。平成４年度には45,000㎡について分布調査を行い、今回報告する遺跡の内の３遺跡を確認している。平成６年にも65,000㎡について分布調査を行ったが、遺跡は確認されなかった。平成５年度に３遺跡の発掘調査依頼が同センター宛に提出され、同年度に発掘調査を実施することとなった。発掘調査は排水路およびパイプラインの敷設工事に係わるもので、当初の対象面積は810㎡であった。しかし、調査中に別の遺跡が事業地内で発見され、これに対応するため、潮津出村Ｂ遺跡の平成５年度調査予定地地区を次年度送りとする事になった。

第２節　調査経過

平成５年度の発掘調査は７月１日より開始している。プレハブは潮津ドウダン遺跡の近くに建て、潮津スワンヤブ下遺跡（以下スワンヤブ下遺跡とする）は機材を入れるユニットハウスのみとした。

スワンヤブ下遺跡から発掘調査を開始した。丘陵裾の部分から表土除去を行い、作業員を導入しての本格的な調査も丘陵裾部から始めた。耕作土直下が遺構検出面であり、遺構検出も比較的容易であった。検出後すぐに遺構の掘り下げに取りかかったが、１号竪穴住居跡については、一部調査区を拡張し、その規模の把握に努めた。７月の半ばには、遺構の掘り下げをほとんど終了したが、１区付近で、ベース面類似の土層から縄文時代の遺物が出土し、この部分の掘り下げを行っている。７月20日までに現地の調査は終了した。ただ、この遺跡の調査中に潮津金場遺跡が工事地区で発見され、潮津出村Ｂ遺跡でも一部遺構が壊れていることがわかり、発掘調査の行程を変更することになった。

引き続いて潮津ドウダン遺跡（以下ドウダン遺跡とする）の調査に取りかかった。ドウダン遺跡では前述の理由で、パイプライン埋設部分の設計が一部変更され、発掘調査の対象から除外している。ここも耕土直下が遺構検出面で、この検出面はかなり削平されていた。調査区北端が急激に落ち込んでいてこの部分の調査に手間取ったものの、遺構が少なく28日までに調査を終えた。

潮津金場遺跡（以下金場遺跡とする）も７月21日から調査を開始している。遺跡は前述の２遺跡とは異なり丘陵上に立地している。ここでは工事により遺跡がずたずたになっておりかろうじて残った２つの地点を調査している。Ａ地区は島状に残った調査区で包含層はほとんど残っていなかった。すぐに遺構検出を行ったが、遺構は削平されており土坑と柱穴が幾つか見つかっただけで、残っていた大形の落ち込みは風倒木、或いは抜根跡だった。Ｂ地区は農道に沿って幅10ｍほどで帯状に掘削を免れた範囲で、遺跡の範囲の確認をかね重機により表土除去を行った。遺跡は北側の一部を除いて残っている事が確認され、ドウダン遺跡横のプレハブをＢ区の北端に移設してから、南側から包含層の掘り下げと遺構検出を開始した。

８月の前半は遺構検出に終始した。重機の歩いていないプライマリーな所は比較的容易に削れるのだが、重機の歩いた所は堅く、検出面上まで削平されてしまっている所では地山が変質していて粘り気を持ち困難を極めた。また、天候が良くすぐに乾いて堅くなるため、全面をブルーシートで覆い、ポンプで汲み上げている水田用水の

給水口から取水し、ホースで散水しながら遺構検出を進めていった。検出された遺構は竪穴住居跡３棟と土坑５基および柱穴である。

８月の終わりまでにはすべての遺構の掘り下げに取りかかっている。９月いっぱいは遺構の掘り下げに費やした。１号竪穴住居跡では２重に落ち込む床面を確認し、これを当初はベッド状の遺構と誤認していたが、床面を除去したところで旧住居跡の主柱穴が確認でき、重複した竪穴住居跡であることが判明した。２号竪穴住居跡は遺跡発見の契機となった遺構だが、この住居跡でも重複が確認された。土坑では３号土坑から大量の遺物が出土し、これの実測に時間を要している。

金場遺跡のめどが立った９月の下旬から潮津出村Ｂ遺跡（以下出村Ｂ遺跡とする）の方に取りかかった。こちらでは緩斜面に作られた竪穴住居１棟が確認されたのみだったが、覆土には斜面上方から投げ込まれた多量の遺物が出土した。このことは遺跡がないとされた上方にも遺跡が広がっていたことを表す。また、工事区内や周辺を踏査した結果２棟の竪穴住居跡が壊れた状態で確認された。

10月の初めには全ての住居跡の床面を除去し終り、10月７日に航空写真測量を実施した。この後、岩宿時代遺跡の確認調査を実施し、10月18日に平成５年度の調査を終了した。

平成６年度の調査は、５月25日から現地作業を開始した。既に田面工事は終了し、発掘調査の必要な排水路部分のみが残されていた。表土除去は調査区全てを一度に行い、パイプライン敷設箇所をＡトレンチ、排水路部分をＬ字のクランクを１単位としＢ～Ｆトレンチと設定しＡトレンチから調査を始めた。

Ａトレンチは旧農道部分であり、遺構の残りを期待したが遺構検出を進めると意外と攪乱が多いのに驚いた。２棟の竪穴住居跡などを検出している。６月に入り排水路部分の調査もＢトレンチから始めた。Ｂトレンチも攪乱が多く、掘立柱建物の柱穴と思われる穴を２列確認した他は遺構らしい遺構は検出されなかった。

６月の中旬にはＡトレンチの調査を終了し、Ｃ～Ｅトレンチの調査に取りかかった。７月前半はこのトレンチの調査に終始した。どのトレンチも攪乱が著しい。Ｄトレンチで竪穴住居跡を確認した。この竪穴住居跡は３棟の竪穴住居跡の重複だが、コーナーをそろえるように重複しており興味深い。Ｅトレンチでも３棟の竪穴住居跡が切り合った状態で確認されている。７月の中旬からはＦトレンチの調査を始めている。ここは削平された部分が多く遺構はほとんど確認されなかった。

７月の下旬には当初予定していた発掘調査は終了していたが、前年度調査区との間に谷の道路法面に多量の土器が顔をのぞかせており、７月の終わりにこの部分の調査を行った。調査は法面の精査で土層観察を行った。観察の結果、北側斜面には竪穴住居跡が存在することを確認している。この調査を終え７月29日に全ての現地調査を終了した。

第３章　遺構と遺物

第１節　潮津スワンヤブ下遺跡

第２図に位置図を、第４図に遺構を、第６～10図に遺物を載せた。検出した遺構は竪穴住居跡１棟、溝４条等があり、遺物は縄文時代のものから中世にまでおよぶ。遺跡は丘陵裾に展開し、地形は丘陵の裾からなだらかに潟に向かって傾斜していくが、３区を過ぎたあたりから傾斜が強くなる。遺構検出面は様々で、地点により砂、シルト、礫層と変化している。また、縄文時代の遺物包含層は１区を過ぎたあたりから急激に後の時代の遺構検出面下へ潜り込む。安全管理の観点から部分的な調査しか実施していない。

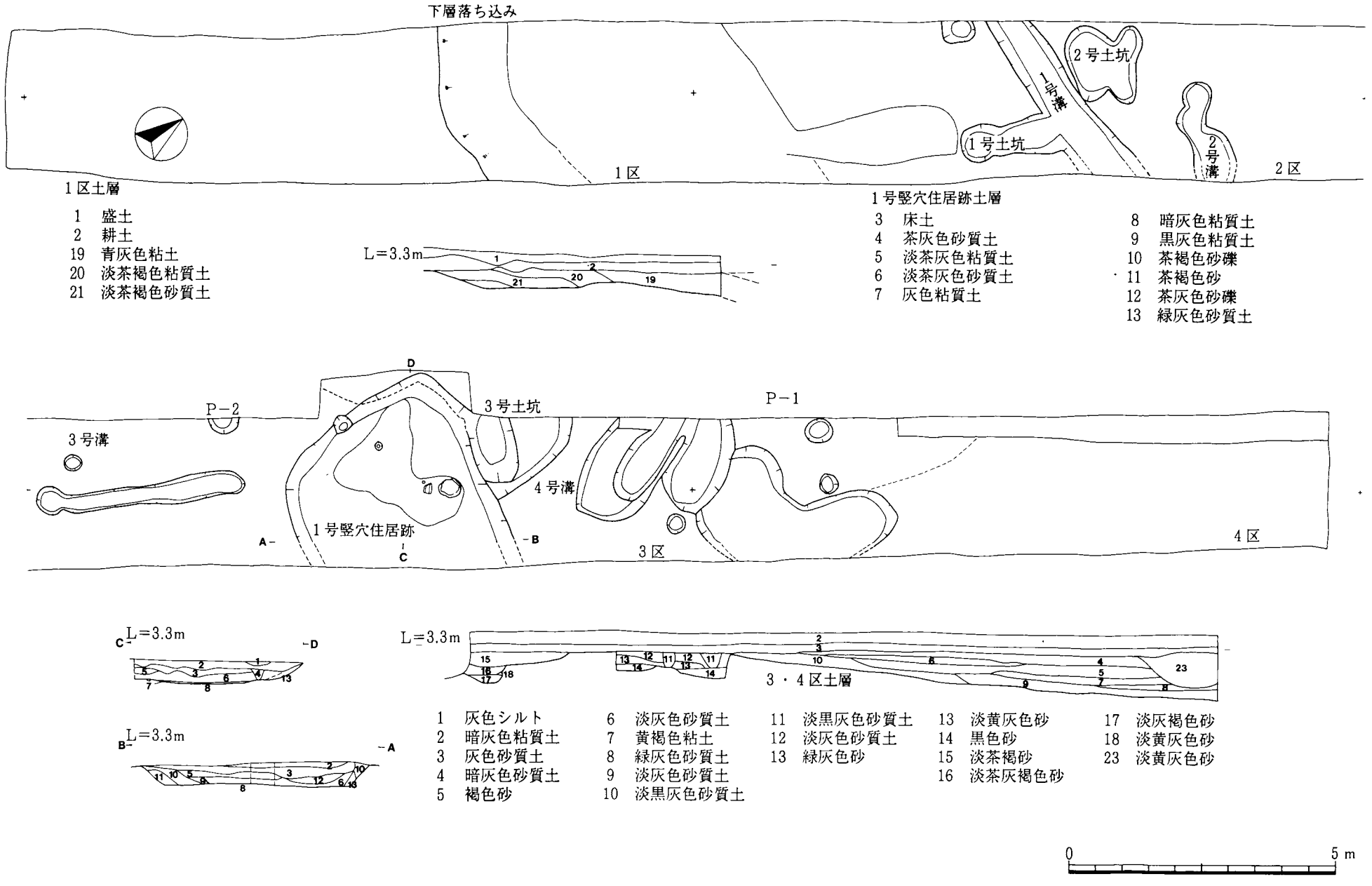
第２図　潮津スワンヤブ下遺跡発掘調査区（Ｓ＝１/2000）

1、2号土坑は深さ2～30cmほどの不整形な土坑で、1号土坑から15の弥生時代後期と思われる土器が出土している。3号土坑は1号竪穴住居跡の横にあり、前述の土坑より深く、形態も整っている。7・12の弥生中期の土器が出土している。同様の遺物が1号溝からも出土している。

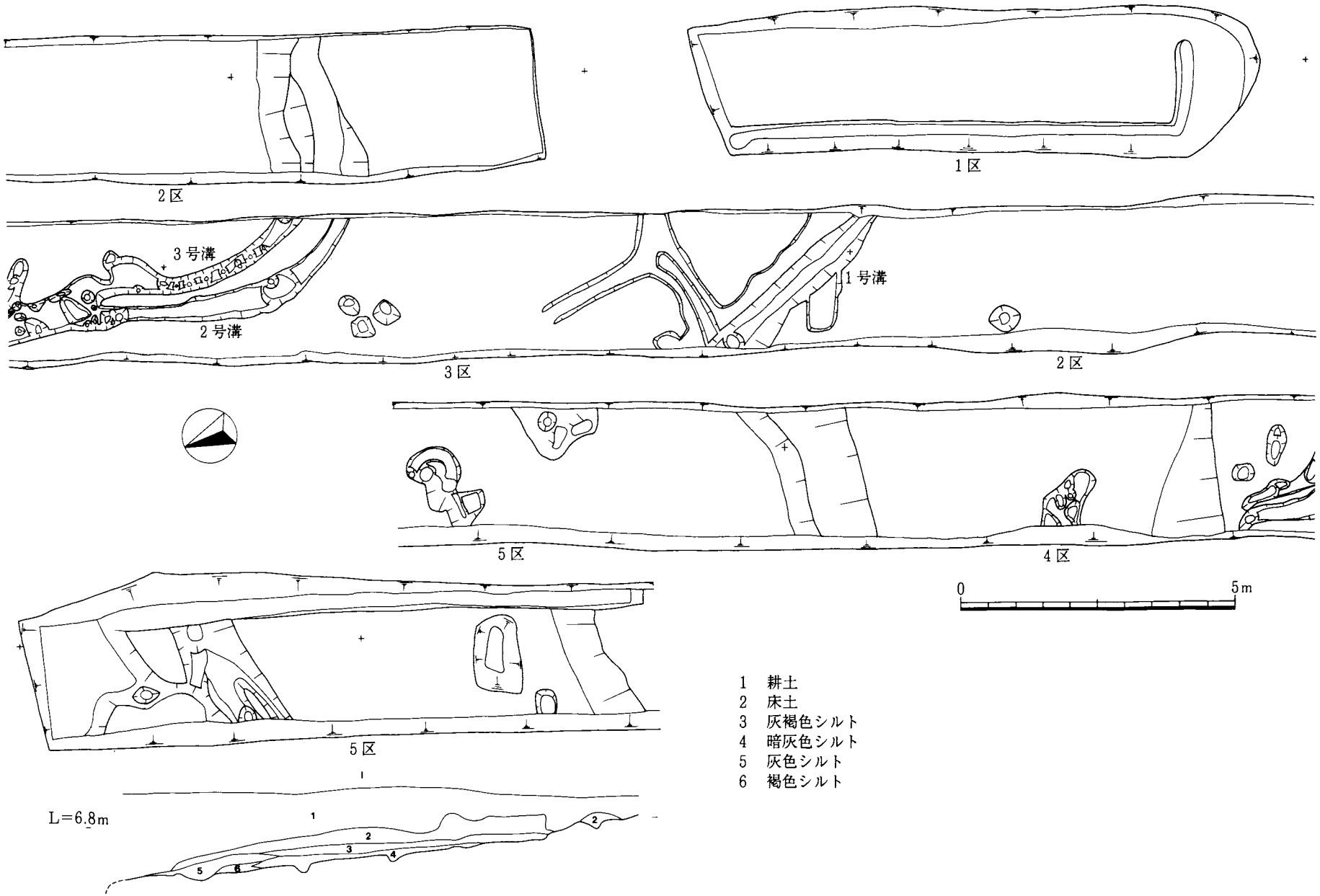
1号溝は南北方向の溝で深さは20cmほどである。2・3号溝は深さ10cm前後の浅い溝で方向を90度違える。4号溝は3区端にあり、溝としたものの土坑かもしれない。この横にも同様の遺構が重なりあっている。覆土からは14に見るような弥生時代中期の土器が出土している。

1号竪穴住居跡は長方形を呈するのであろうか。第4図の床面に実線で囲んだ部分は貼り床が残っていた範囲である。覆土からは弥生土器の他、19～25の様な土師器、須恵器、26～28の中世土師器などが出土しているが、中世の遺物は竪穴住居埋没後遺構が掘り込まれていることを確認しており、弥生時代の遺物は周りの遺構からの

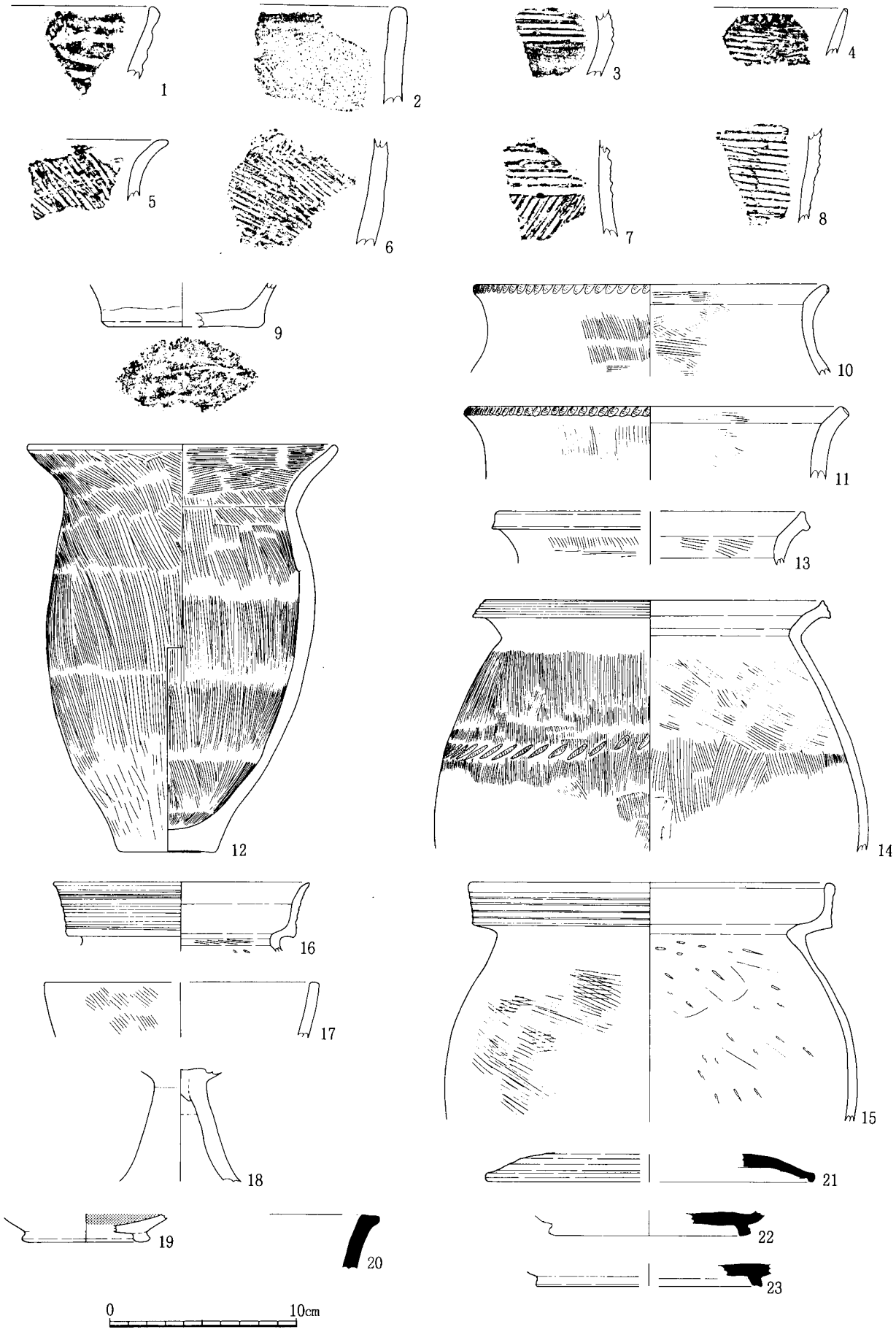
第3図　潮津ドウダン遺跡発掘調査区（S＝1/2000）



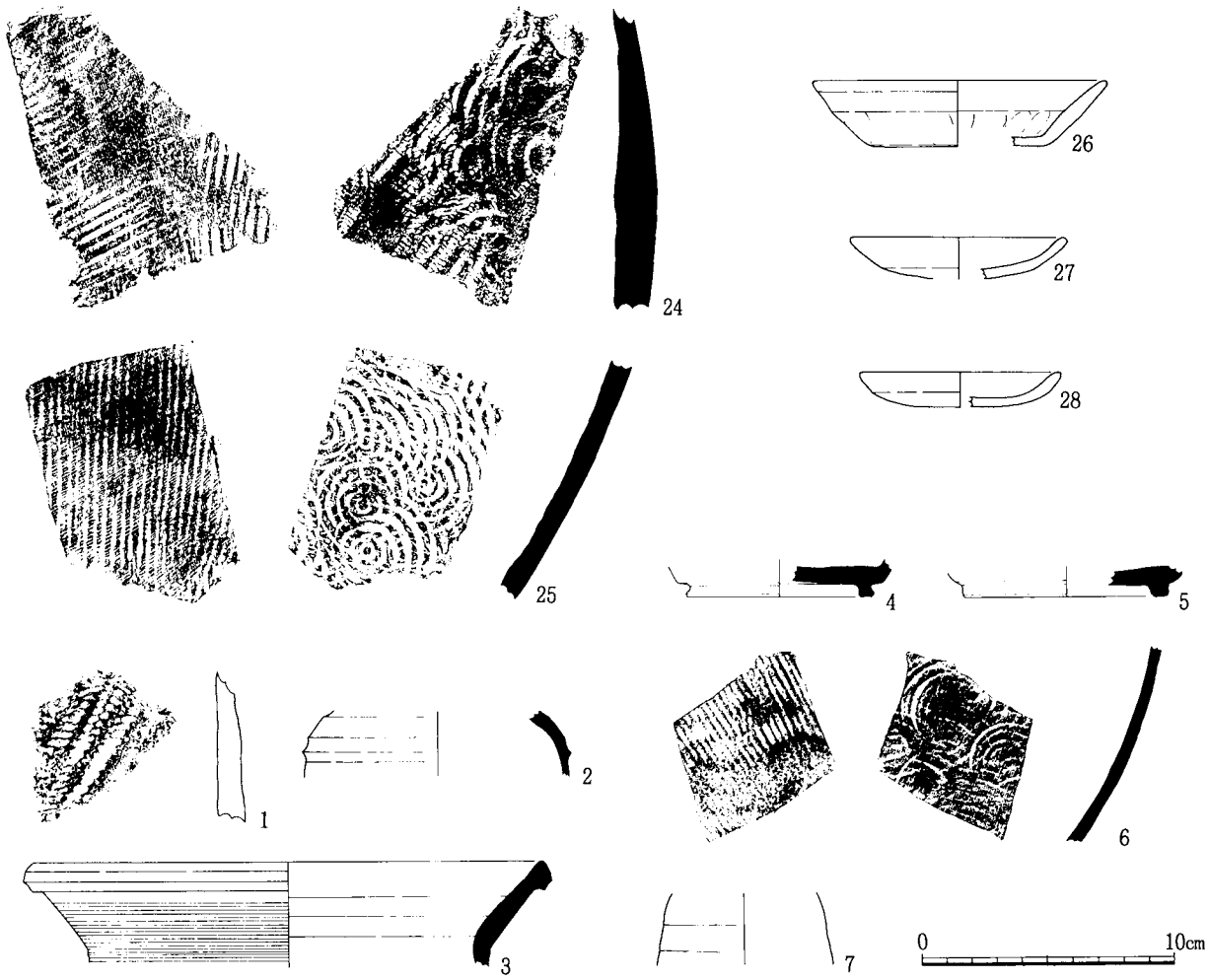
第4図　潮津スワンヤブ下遺跡遺構図（S＝1/80）



第5図　潮津ドウダン遺跡遺構図（S＝1/80）



第６図　潮津スワンヤブ下遺跡出土土器（１）（S＝１/３）



第７図　潮津スワンヤブ下遺跡出土土器（２）・
潮津ドウダン遺跡出土土器（Ｓ＝１/３）

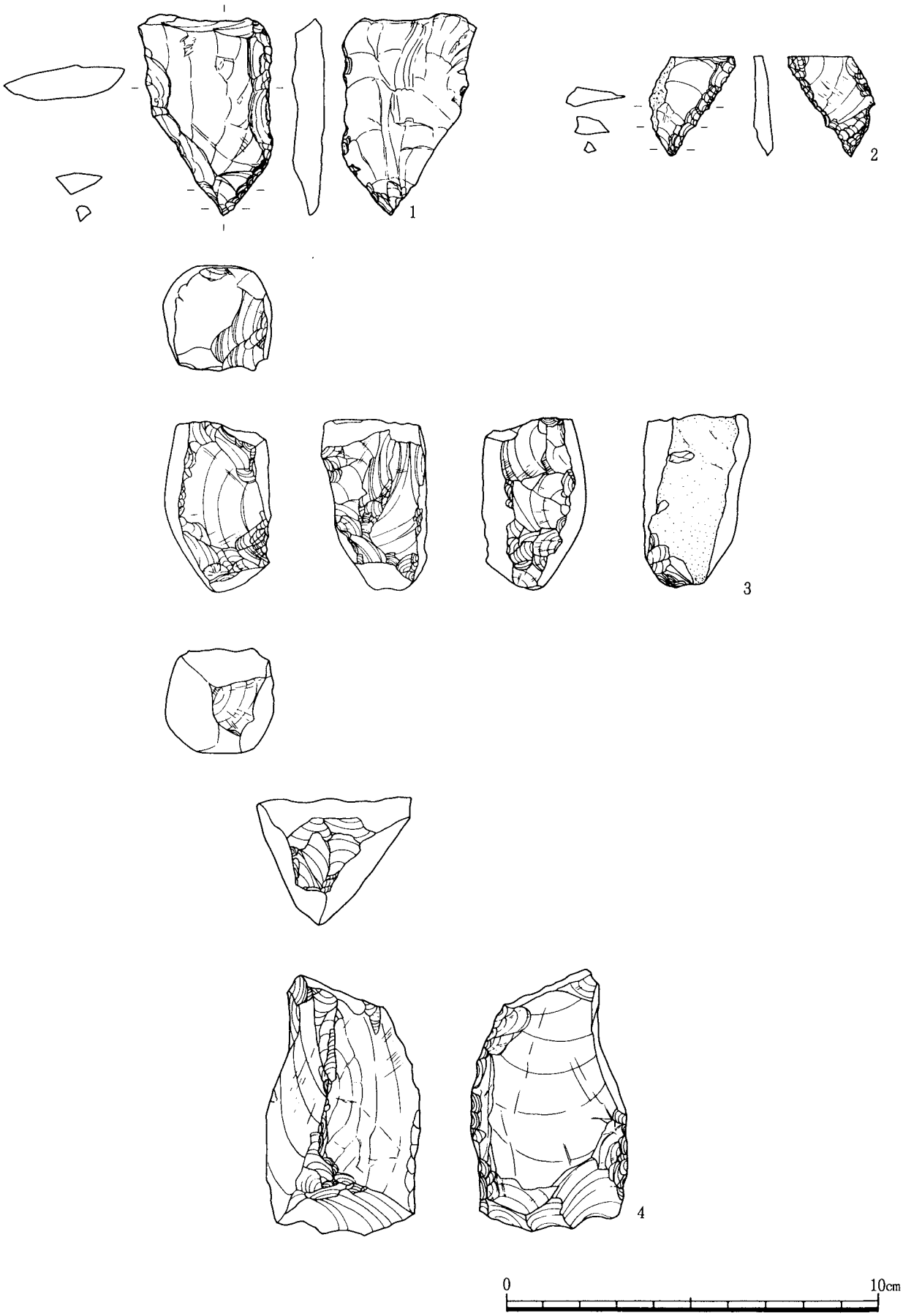
流れ込みと考えられることから、古代のものと考えてよい。

遺構として捉えたものは、概ね弥生時代か古代、中世と考えて良いのであろう。この中でも弥生時代は中期の遺物が目につき、丘陵裾と潟縁の範囲で遺跡が展開していることは興味深い。また、すぐ上の丘陵に展開していた潮津スワンヤブ遺跡とは時期が異なっている点も注目されよう。

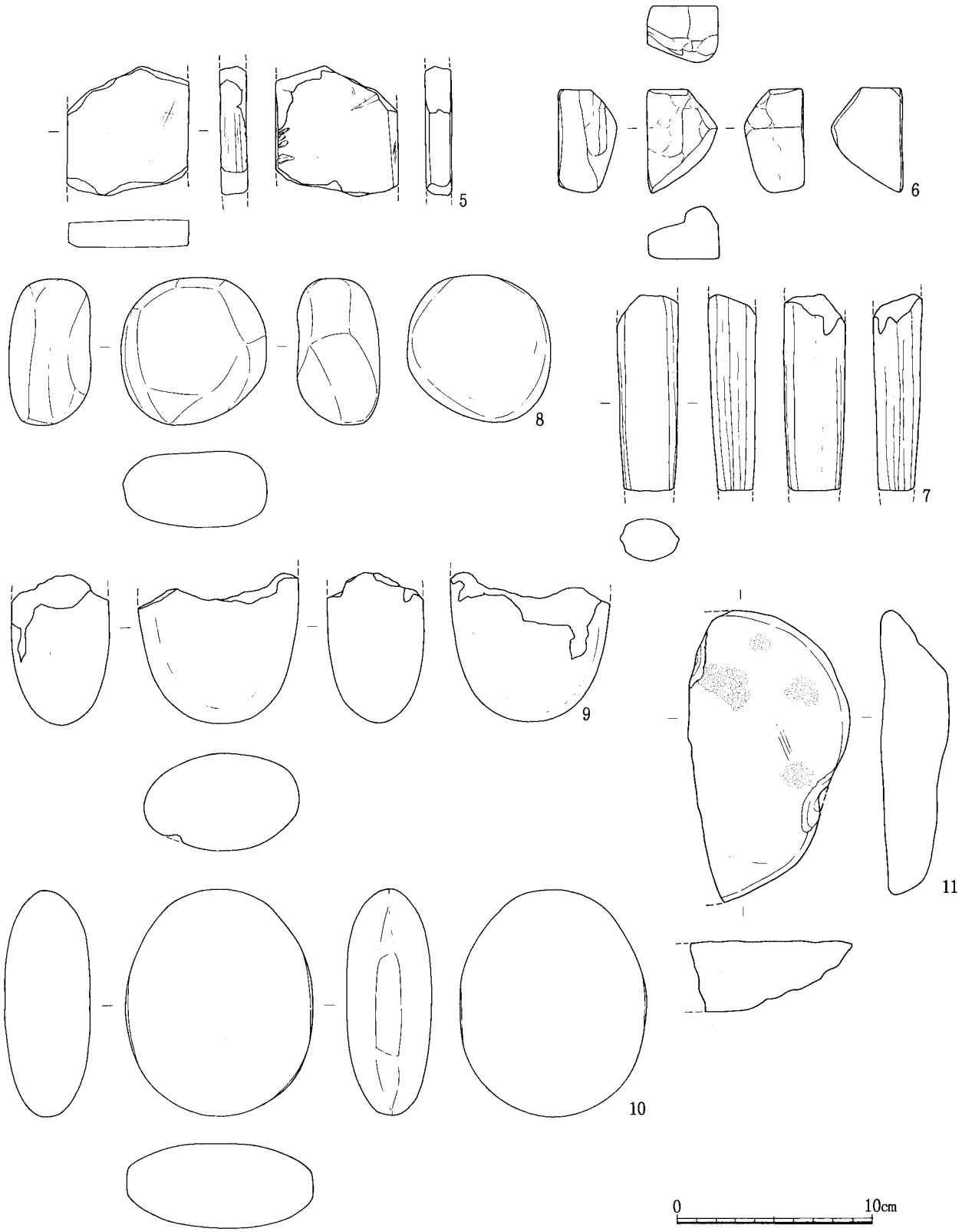
第10図には石器を載せたが、一部をのぞいて縄文時代のものである。特に打ち欠き石錘と砥石が多く、時期的には中期以前と考えられる。また、その組成には生業形態が窺われ興味をそそる。縄文土器と考えられる土器は第６図１、２の他にもあるのだが遺存状態が悪く図化していない。

第２節　潮津ドウダン遺跡

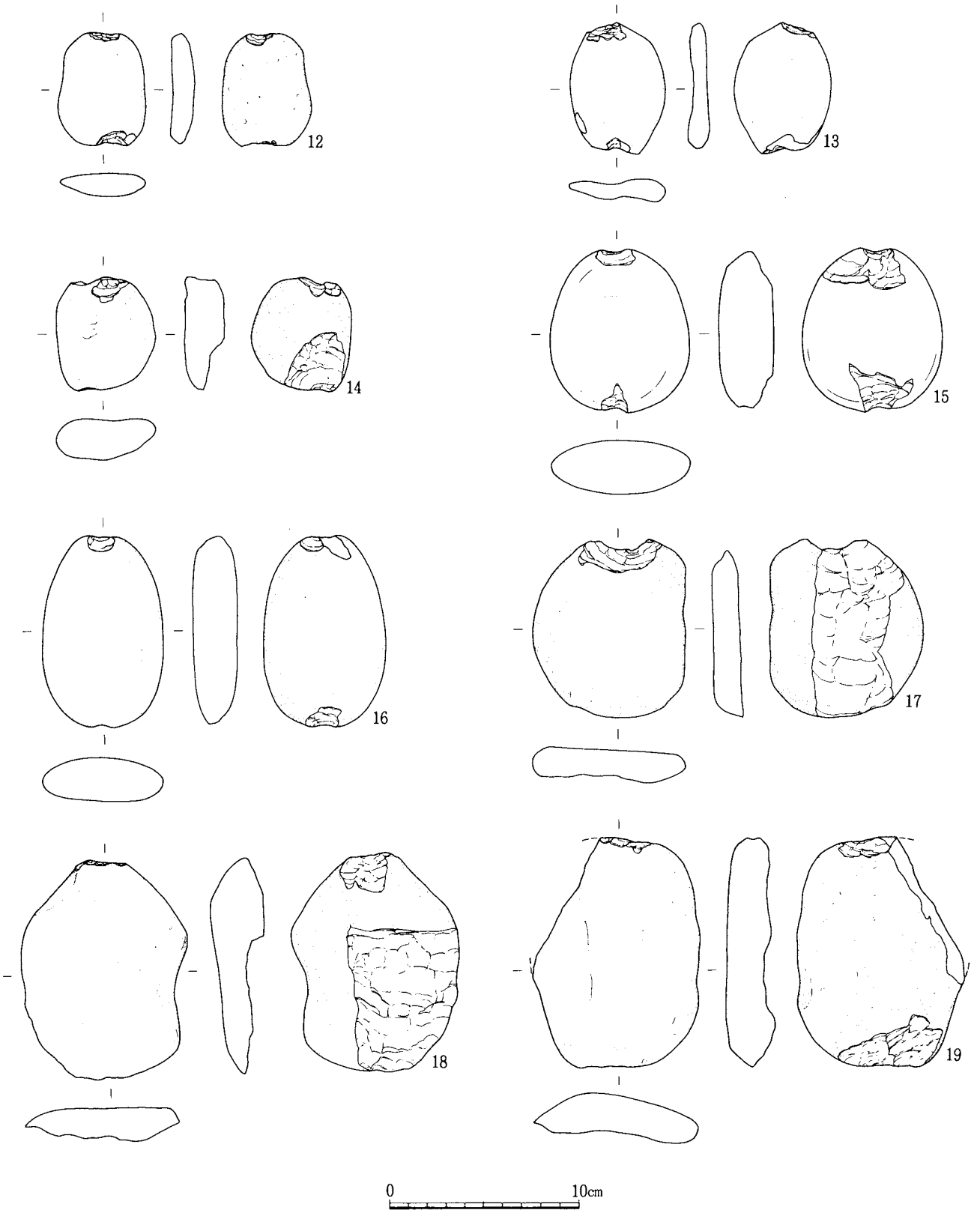
第３図に位置図を、第５図に遺構、第７図に遺物を載せた。遺跡は金場遺跡の立地する丘陵の裾部に展開している。地形的には南から北に向かって傾斜し、調査区は北端で急激に落ち込む。遺構は溝状の遺構が３条と柱穴などがあるが、２号溝から２、６のような須恵器が出土している以外、時期の特定できそうな遺構はない。また、これとて本来的なものか不明である。ただし、この近辺で遺跡が営まれていることは間違いなく。金場遺跡、出村Ｂ遺跡との関連が窺われる。



第８図　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器（１）（S＝２/３）



第９図　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器（２）（S＝１/３）



第10図　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器（３）（S＝１／３）

表2　潮津スワンヤブ下遺跡出土土器観察表

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
1	4号溝フク土	縄文・深鉢か				(内)灰白色 (外)〃	良	(内)ナデ (外)沈線	1㎜前後の砂粒を含む	
2	包含層	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	〃	
3	1号溝	弥生・甕か				(内)褐灰色 (外)〃	〃	(内)ミガキ (外)擬凹線、ミガキ	〃	
4	包含層	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)キザミ、ハケ	〃	
5	1住フク土	〃				(内)灰褐色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)条痕	〃	炭化物付着
6	4号溝フク土	〃				(内)褐灰色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ナデ (外)条痕	2㎜前後の砂粒を含む	
7	1住2号土坑	〃				(内)灰白色 (外)浅黄橙色	〃	(内) (外)条痕、沈線	〃	
8	1住フク土	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃		(内)ナデ (外)条痕	1～2㎜の砂粒を含む	
9	〃	〃			8.2	(内)浅黄橙色 (外)〃	良	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	圧痕 工具痕
10	4号溝フク土	弥生・甕	18.55			(内)浅黄橙色 (外)褐灰色	〃	(内)ヨコナデ、ハケ (外)キザミ、ヨコナデ、ハケ	1㎜前後の砂粒を含む	
11	1住フク土	〃	19.8			(内)褐灰色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)キザミ、ハケ	2㎜前後の砂粒を含む	
12	2号土坑	〃	16.5	22.1	5.2	(内)灰褐色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)ハケ、ミガキ？	1㎜前後の砂粒を含む	
13	4号溝フク土	〃	(16.2)			(内)浅黄橙色 (外)褐灰色	〃	(内)ナデ、ハケ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	〃	
14	〃	〃	18.0			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)擬凹線、ハケ、列点文	1～2㎜の砂粒を含む	
15	1号土坑	〃	19.1			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ケズリ (外)擬凹線、ハケ	〃	黒斑有り
16	1住フク土	〃	13.6			(内)褐灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ハケ、ケズリ (外)擬凹線	1㎜前後の砂粒を含む	
17	〃	弥生・鉢	(14.8)			(内)浅黄橙色 (外)褐灰色	〃	(内)ヨコナデ (外)ハケ	〃	
18	〃	弥生・高坏(脚)				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)摩耗の為不明	粒子の細かいもろい土	
19	〃	土・有台坏			(7.0)	(内)黒色 (外)浅黄橙色	やや不良	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
20	包含層	須・甕				(内)灰・灰白色 (外)灰白色	良	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、カキ目	粒子の細かい堅い土	
21	〃	須・蓋	17.4			(内)灰白色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	〃	
22	1住フク土	須・有台坏			10.75	(内)灰白色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	〃	
23	包含層	〃			(12.0)	(内)灰白色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	〃 (砂混)	
24	1住フク土	須・甕				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)タタキ (外)〃	粒子の細かい堅い土	
25	包含層	〃				(内)灰白色 (外)〃	〃	(内)タタキ (外)〃	〃	
26	1住フク土	中世土師器・小皿	11.45	2.7		(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)指頭圧痕 (外)〃	粒子の細かいもろい土	
27	〃	〃	(8.5)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	2㎜の石が混じるもろい土	
28	〃	〃	7.85	1.4		(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	粒子の細かいもろい土	

表3　潮津ドウダン遺跡出土土器観察表

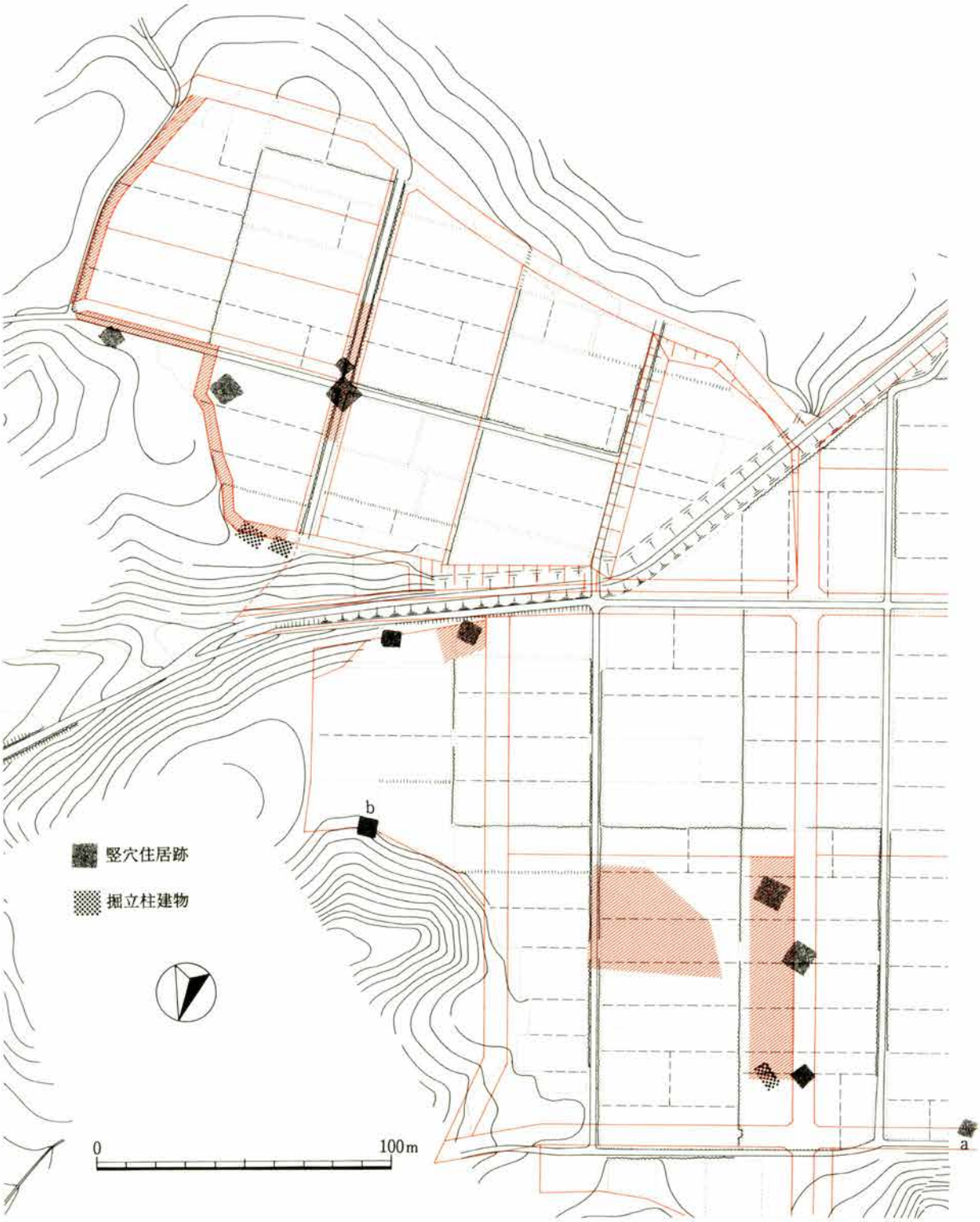
図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm)			色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
1	3号溝フク土	縄文・深鉢				(内)浅黄橙色 (外)明黄褐色	やや不良	(内) (外)タタキ	2㎜の砂の混じる粒子の細かい土	
2	2号溝フク土	須・蓋				(内)灰　色 (外)　〃	良	(内)ロクロナデ (外)　〃	粒子の細かい堅い土	
3	包含層	須・甕	20.45			(内)釉　色 (外)灰白、釉色	〃	(内)ロクロナデ (外)　〃　、カキ目	〃	
4	排須	有台坏			7.3	(内)灰白色 (外)　釉色	〃	(内)横ナデ (外)　〃	〃	
5	包含層	〃			8.0	(内)灰　色 (外)灰、灰白色	〃	(内)横ナデ (外)　〃	〃	
6	2号溝フク土	須・甕				(内)釉　色 (外)釉　色	〃	(内)タタキ (外)　〃	〃	
7	〃	土・支脚				(内)橙　色 (外)浅黄橙色	〃	(内) (外)摩耗により不明	2～3㎜の砂の混じるもろい土	

表4　潮津スワンヤブ下遺跡出土石器計測表

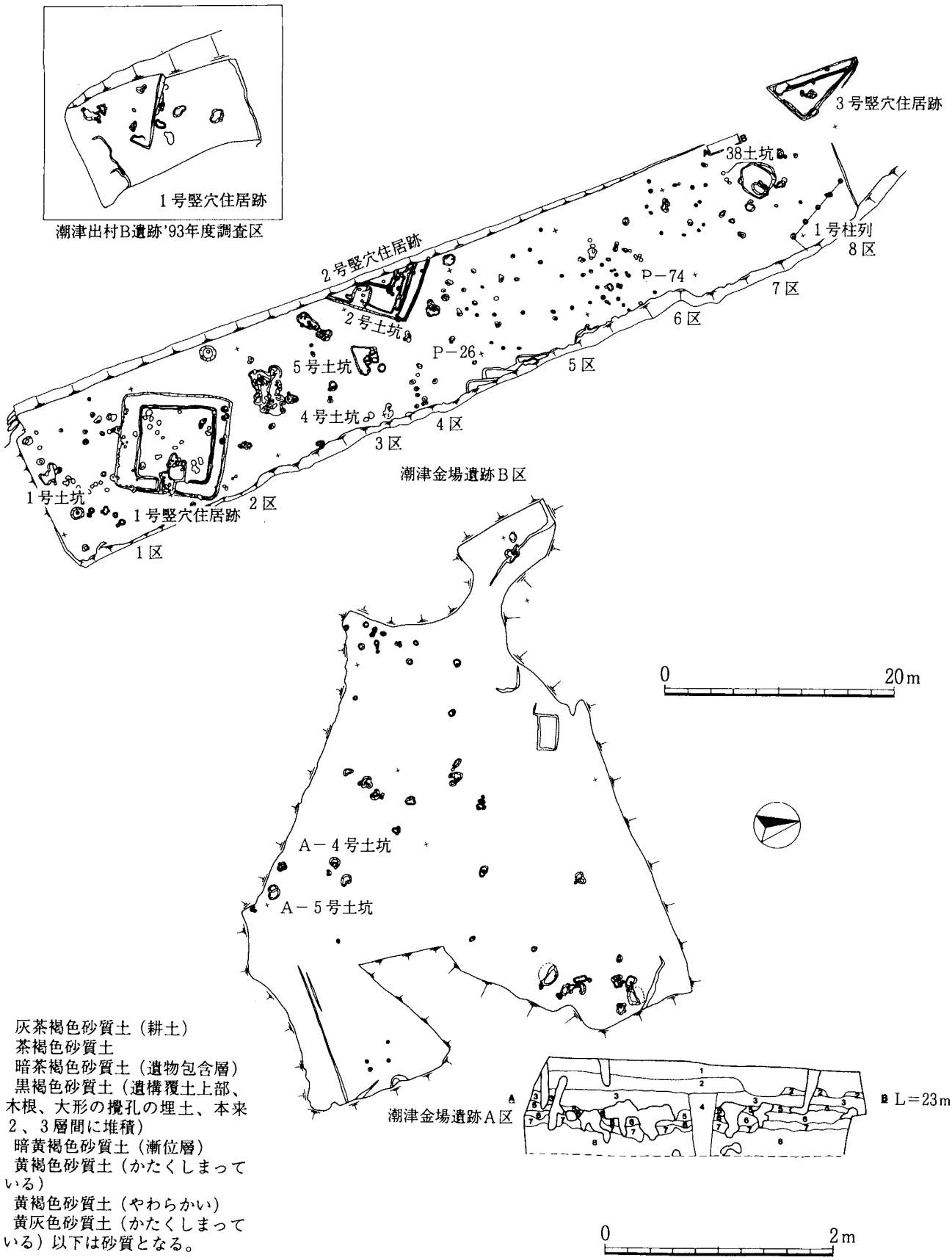
図版No.第図	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	備考
1	包含層	石錐	5.5	3.6	0.9	19.0	
2	1住	〃	2.7	2.4	0.5	2.6	
3	1住フク土	石核	4.7	2.9	2.9	51.6	
4	包含層	〃	7.2	4.2	3.5	92.2	緑色凝灰岩
5	〃	砥石	残存 6.8	6.25	1.4	107.7	
6	〃	〃	残存 5.3	残存 3.6	3.0	45.3	
7	灰白色粘層	〃	残存 10.1	残存 3.1	残存 2.4	86.4	
8	〃	磨石	7.6	7.4	4.2	331.2	
9	〃	〃	残存 7.7	8.4	5.0	318.6	
10	包含層	〃	11.7	9.6	4.4	711.1	
11	3区	砥石	15.0	8.25	3.6	355.4	
12	灰白色粘層	石錘	6.9	4.65	0.7	43.8	
13	包含層	〃	6.9	5.0	1.4	32.5	
14	灰白色粘層	〃	6.0	5.3	2.2	72.6	
15	〃	〃	8.65	7.3	2.9	231.9	
16	〃	〃	10.1	6.4	2.3	196.9	
17	〃	〃	9.3	8.0	1.9	197.1	
18	〃	〃	11.6	8.8	2.8	290.8	
19	〃	〃	12.3	残存 8.7	2.8	325.4	

第３節　潮津金場遺跡

第11図に出村Ｂ遺跡と合わせて位置と建物の分布図を、第12図に金場遺跡および出村遺跡93年度調査区の全体図を載せた。遺跡は丘陵上の平坦面に展開していたものと思われる。出村Ｂ遺跡の主体とは小さな開析谷を挟んでいる。金場遺跡では３棟の竪穴住居跡、２基の土坑、１棟の掘立柱建物について取り上げた。遺構・遺物の詳

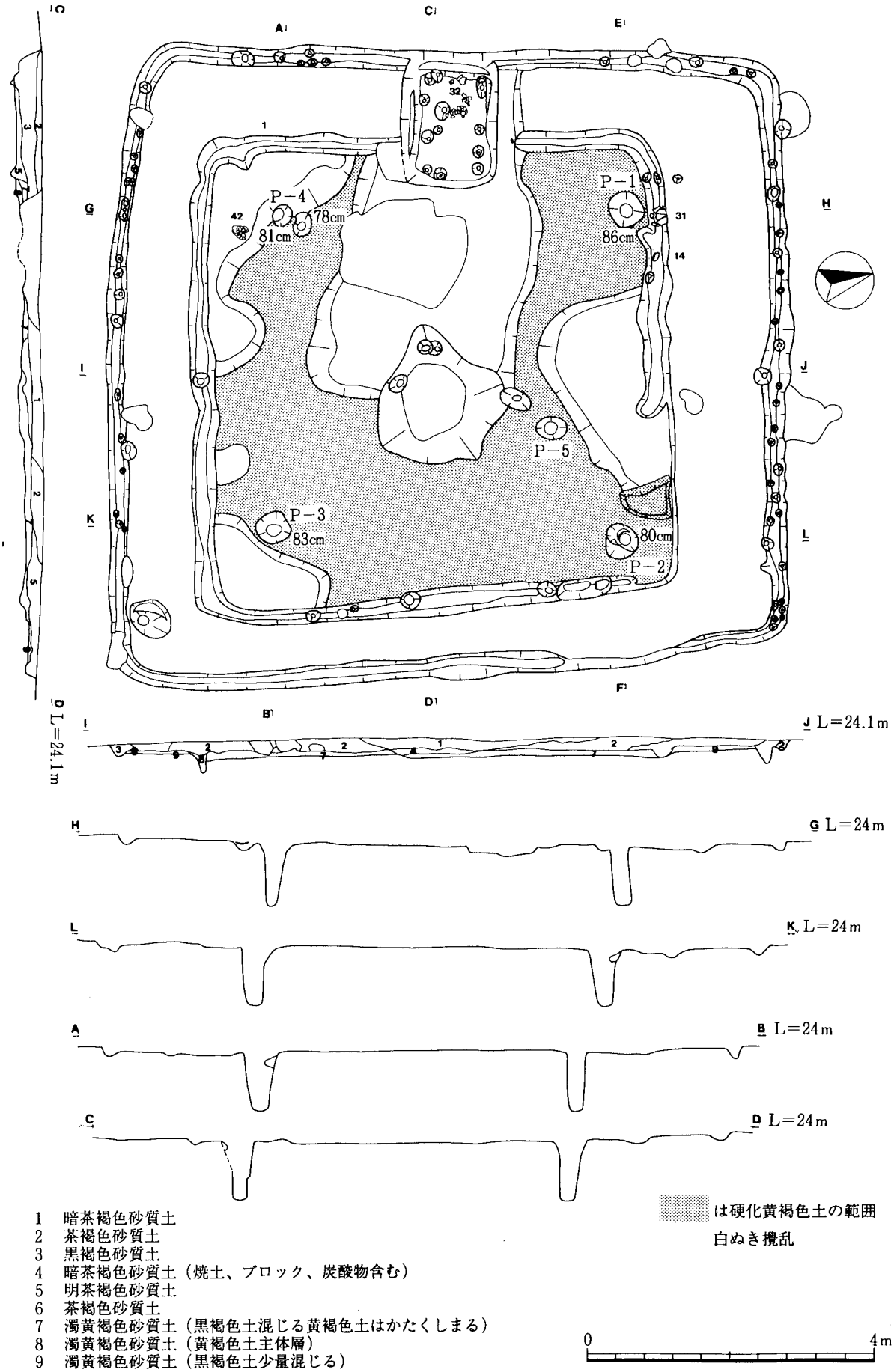


第11図　潮津金場・出村Ｂ遺跡発掘調査区と竪穴住居跡・掘立柱建物分布図



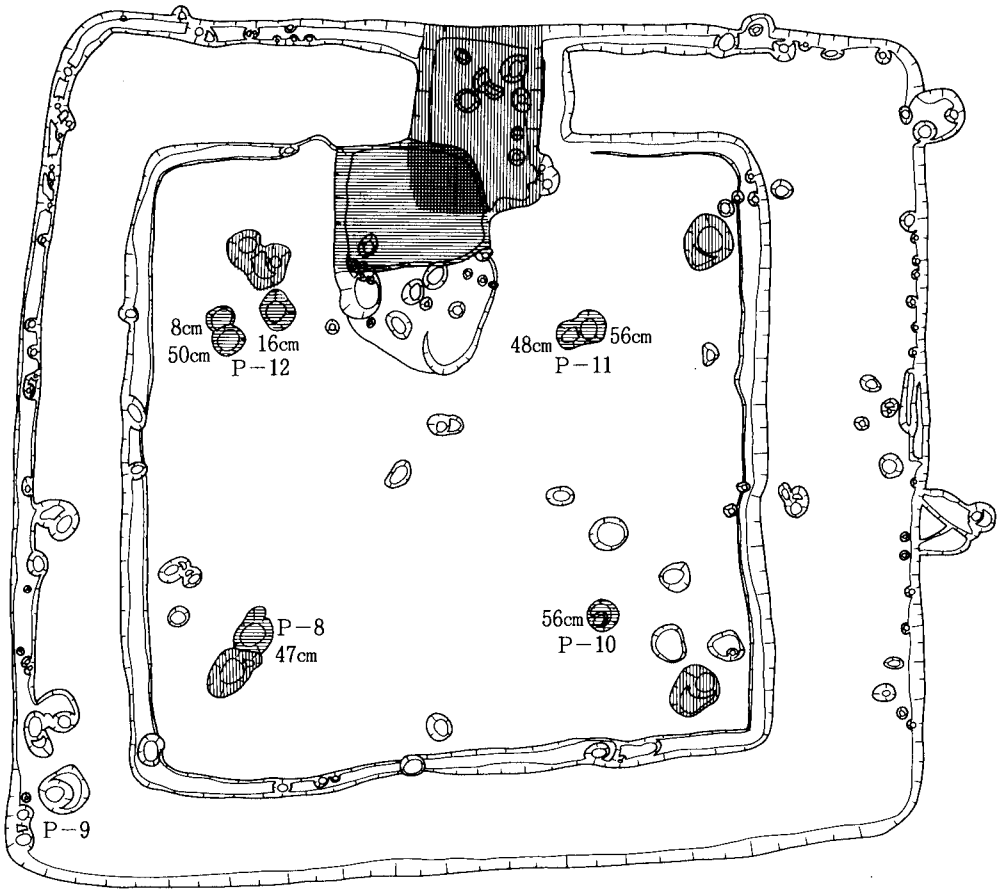
1　灰茶褐色砂質土（耕土）
2　茶褐色砂質土
3　暗茶褐色砂質土（遺物包含層）
4　黒褐色砂質土（遺構覆土上部、木根、大形の攪孔の埋土、本来2、3層間に堆積）
5　暗黄褐色砂質土（漸位層）
6　黄褐色砂質土（かたくしまっている）
7　黄褐色砂質土（やわらかい）
8　黄灰色砂質土（かたくしまっている）以下は砂質となる。

第12図　潮津金場・潮津出村B遺跡'93年度調査区全体図（S＝1/500）・潮津金場遺跡基本土層（S＝1/60）



1　暗茶褐色砂質土
2　茶褐色砂質土
3　黒褐色砂質土
4　暗茶褐色砂質土（焼土、ブロック、炭酸物含む）
5　明茶褐色砂質土
6　茶褐色砂質土
7　濁黄褐色砂質土（黒褐色土混じる黄褐色土はかたくしまる）
8　濁黄褐色砂質土（黄褐色土主体層）
9　濁黄褐色砂質土（黒褐色土少量混じる）

第13図　潮津金場１号竪穴住居跡（１）（S＝１/80）



▤ は新住居に伴う主柱穴・土坑

▥ は旧住居に伴う主柱穴・土坑

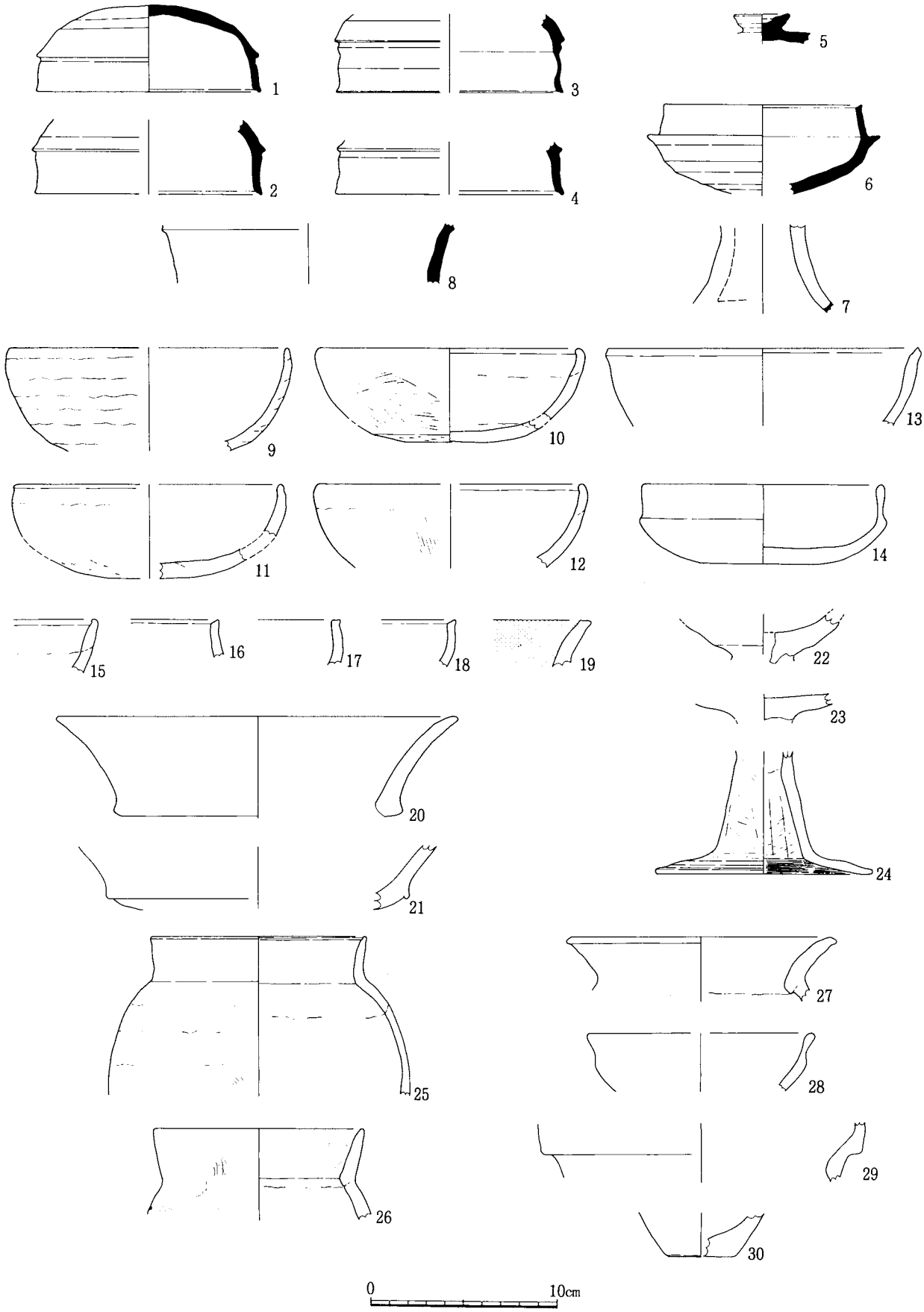
形　態	方形
規　模	9.5m×9.2m 6.8m×6.8m
主柱穴	４本　上面を黄褐色土がおおう部分あり。
床	内側の住居跡の上面に黄褐色土の硬化した土層あり。黒褐色土が混在、あるいは下部にも分布。ベース土と直接接している部分は下端が不明瞭な部分あり。内側の壁溝から外側はやや汚れた黄褐色土層が分布。下端は不明瞭。
炉	住居中央やや西よりに浅い皿状を呈する。径1.5m程の不整円形、熱変化した部分あり。内側の住居跡は不明。
壁　溝	ほぼ全周。
住居内土坑	長方形 1.9m×1.2m×0.2m 内側の住居跡は1.2m×1.2m
遺　物	床面から須恵器坏蓋、土師器甕など出土、内側の同溝内から土師器椀、土師器甕など。 古墳時代後期５Ｃ末
備　考	当初、内側の住居部分を古い住居跡と認識できず、ベット状の遺構を持つ竪穴住居として調査を行ったため、旧住居の床面をしっかりと検出出来なかった。また、西側は削平により壁を確認しておらず、壁構の検出も不正確である。 柱穴の配置、本数からして３～４回の建て替えが想定される。内側の住居跡が外側の住居跡よりも古い。

第14図　潮津金場遺跡１号翌穴住居跡（２）（床面除去後）（S＝1/80）

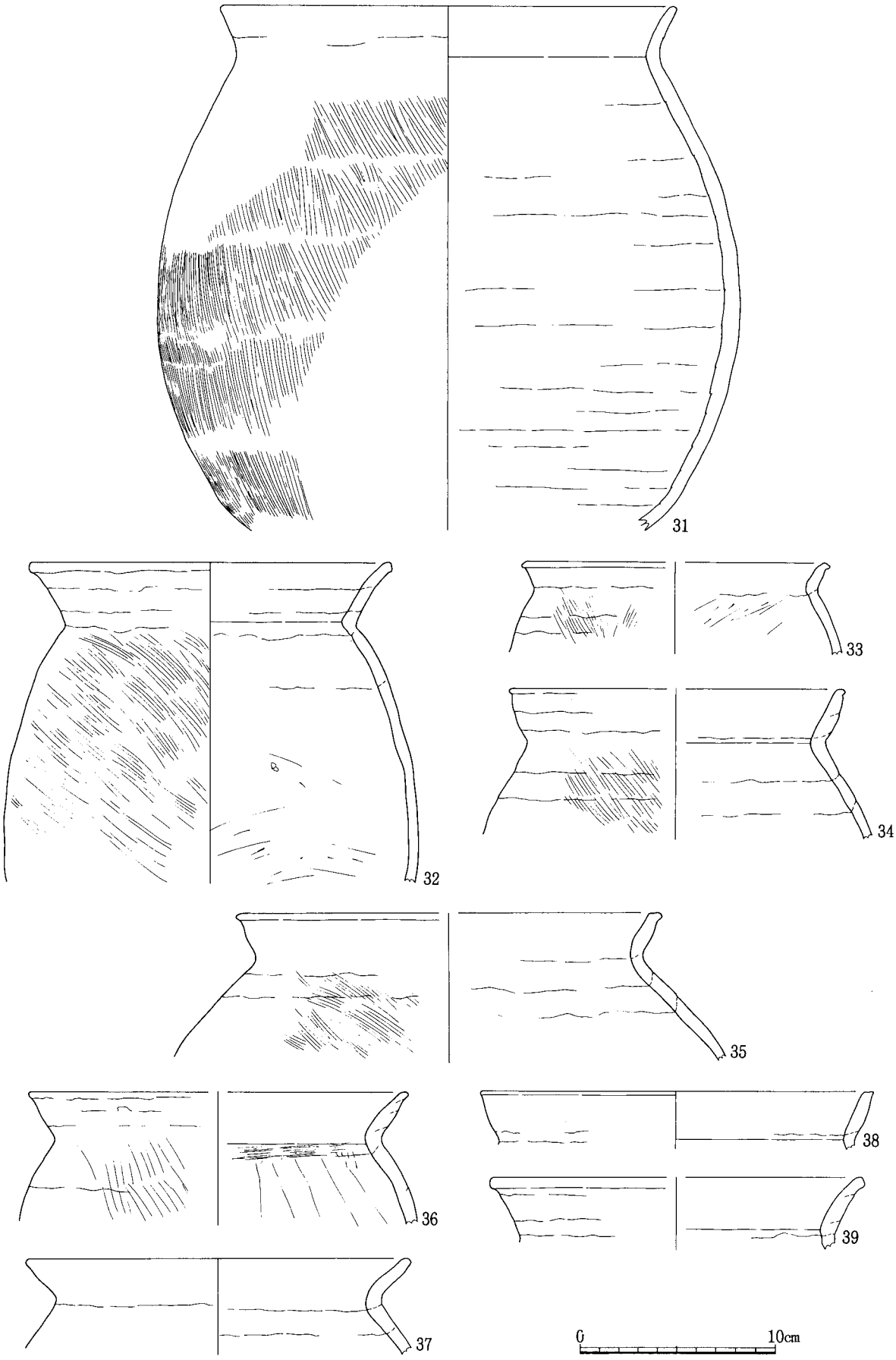
細は、図、および観察表を参照してもらい、ここでは概略を述べる。

１号竪穴住居跡

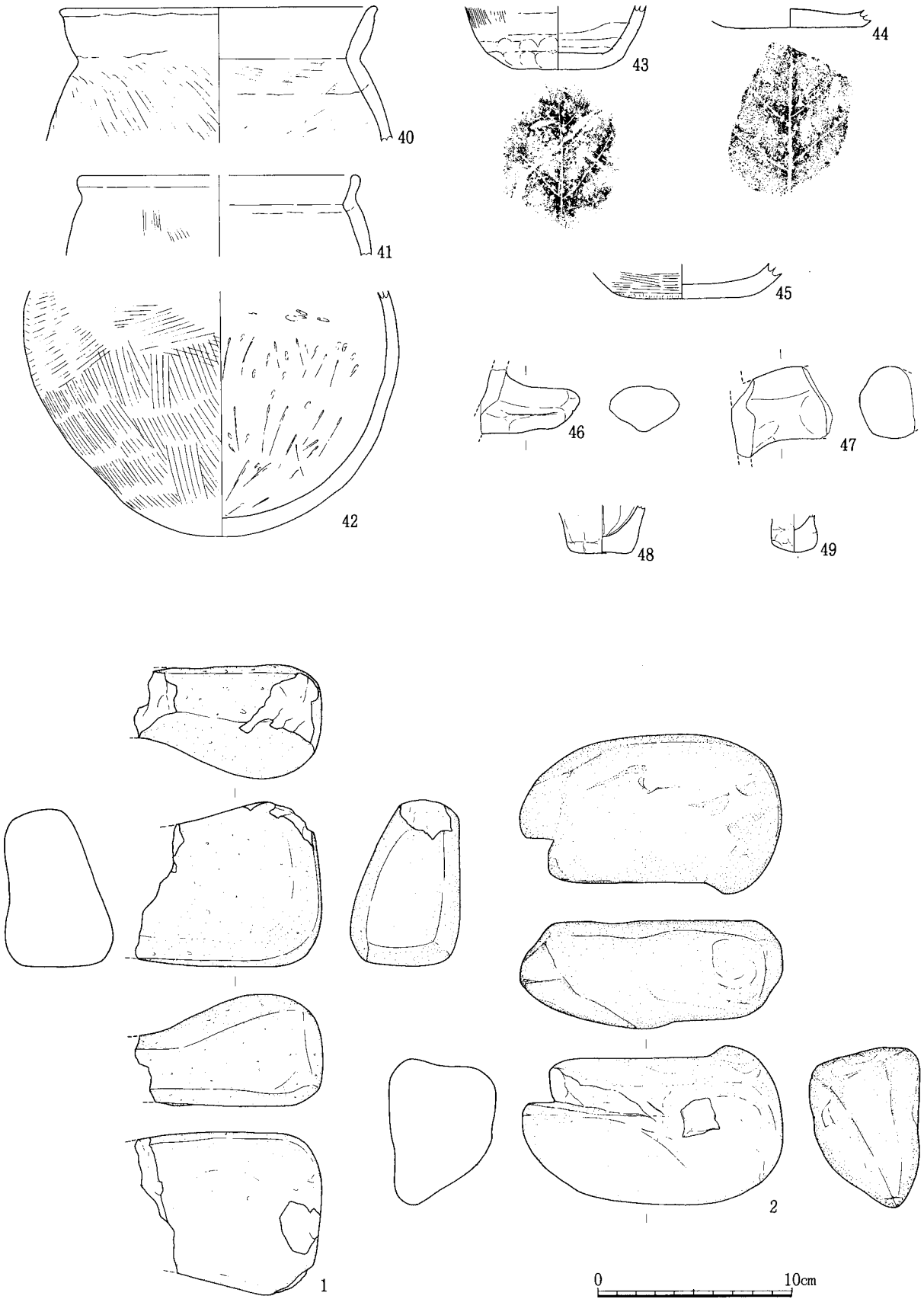
１号竪穴住居跡はＢ－１区に位置する。第13・14図に遺構図、第15～17図に遺物実測図を載せた。東側のプランがややしっかりしないものの、本遺跡で唯一全形の捉えられた竪穴住居跡である。包含層中から掘り込まれているのか検出した段階では掘り込みが浅い。前述したように２棟の重複をベッド状遺構と勘違いして掘り下げた



第15図　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器（１）（S＝１/３）



第16図　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器（２）（S＝１/３）



第17図　潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器（３）・石器（S＝１/３）

表5　潮津金場遺跡1号竪穴住居跡出土土器観察表・石器計測表

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
1	1住	須・蓋	11.7	4.6		(内)灰色 (外)〃	良	(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ、ケズリ		降灰
2	1住床面	〃	(12.0)			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		〃
3	1住フク土	〃	(12.0)			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		〃
4	〃	〃	(12.0)			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		
5	〃	須・つまみ	つまみ径3.9			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		
6	1住	須・坏身	10.4			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ、ケズリ		
7	1住フク土	須・高坏(脚部)				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		スカシ窓 降灰
8	〃	須・甕				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		
9	〃	土・椀	(14.6)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ナデ	0.5㎜程度の砂粒少量含む	
10	〃	〃	13.9	5.0		(内)にぶい褐色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ、ケズリ	1㎜程度の砂粒少量含む	
11	〃	〃	(14.0)	5.05		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)ヨコナデ、ケズリ	0.5～1㎜程度の砂粒多く含む	
12	〃	〃	(14.0)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	1㎜程度の砂粒少量含む	
13	〃	〃	16.2			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1㎜程度の砂粒目立つ	
14	1住	〃	12.4	4.3		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	0.5～1㎜程度の砂粒多く含む	
15	1住フク土	〃	(14.0)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1㎜程度の砂粒少量含む	
16	1住		(15.0)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	〃	
17	1住フク土	土・椀	(14.0)			(内)褐灰色 (外)黒褐色	〃	(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ、ハケ	0.5㎜程度の砂粒少量含む	
18	〃	〃	(14.0)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ	1㎜程度の砂粒少量含む	
19	1住内土坑		16.4			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ (外)〃	〃	内外面赤彩
20	1住攪乱	土・甕	21.0			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
21	1住	土・高坏				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1㎜前後の砂粒を含む	
22	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	〃	
23	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1～2㎜程度の砂粒を含む	
24	〃	〃			11.4	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ、工具によるケズリ (外)ミガキ？、ヨコナデ	1㎜前後の砂粒を含む	
25	1住内土坑	土・壺	11.3			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ、ケズリ	0.5㎜程度の砂粒少量含む	
26	1住フク土	〃	11.0			(内)灰黄褐色 (外)にぶい黄橙色	〃	(内)ハケ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	〃	
27	〃	〃	13.8			(内)灰黄褐色 (外)淡黄色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1.5㎜～2㎜の砂粒少し目立つ	
28	〃		(11.8)			(内)淡黄色 (外)浅黄橙色	〃	(内)〃 (外)〃	1㎜程度の砂粒少量含む	
29	〃	弥生土・甕				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	〃	
30	〃	弥生・土甕(底部)			3.8	(内)黄橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	〃	

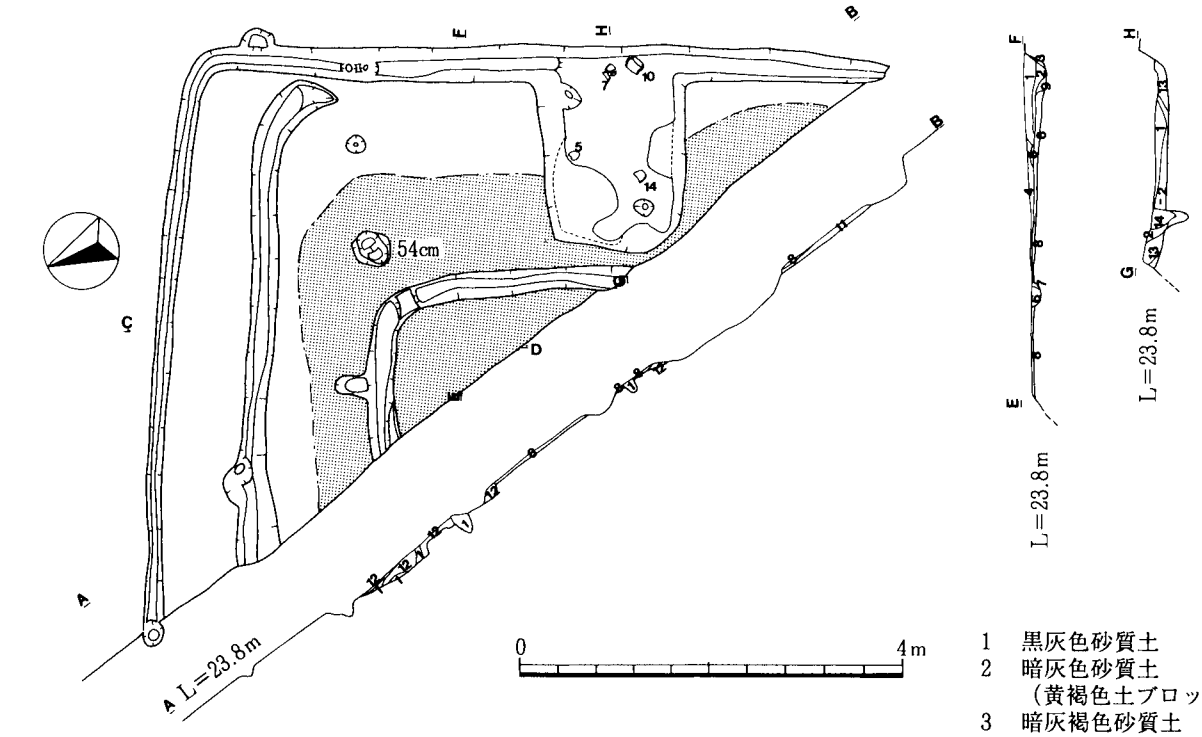
図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
31	1住	土・蓋	23.4			(内)浅黄橙色 (外)〃	良	(内)ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	1mm前後の砂粒を含む	内・外面摩耗
32	〃	〃	18.6			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗、ケズリ (外)摩耗、ハケ	1~1.5mm程度の砂粒少量含む	
33	1住P－9	〃	(15.3)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ケズリ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	
34	1住	〃	(17.1)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ、ハケ	〃	
35	1住内土坑	〃	(21.6)			(内)灰黄褐色 (外)〃	〃	(内)摩耗、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	〃	
36	1住P－9	〃	(19.6)			(内)灰黄褐色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ、ハケ、ケズリ (外)ヨコナデ、ハケ	0.2mm程度の砂粒多く含む	
37	1住	〃	19.6			(内)淡黄色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
38	1住フク土	〃	20.1			(内)にぶい黄橙色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ヨコナデ (外)〃	〃	
39	1住内土坑	〃	(19.0)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃	〃	
40	1住フク土	〃	16.2			(内)灰色 (外)にぶい黄橙色	〃	(内)ヨコナデ、ハケ、ケズリ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	〃	
41	〃	〃	14.2			(内)にぶい橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、摩耗で不明 (外)ヨコナデ、ハケ	〃	
42	1住	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコ方向ケズリ、タテ方向ケズリ (外)ヨコ方向ハケ、タテ方向ケズリ、ケズリ、摩耗	2mm前後の砂粒を含む	
43	1住フク土	土・甕(底部)			4.4	(内)灰白色 (外)浅黄橙色		(内)ナデ (外)ハケ、指頭圧痕残る	1mm前後の砂粒を含む	底部葉脈痕有り
44	〃	〃			7.3	(内)灰白色 (外)灰色	良	(内)ナデ (外)〃	1～2mm砂粒を含む	〃
45	〃	〃			7.3	(内)黄灰色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ナデ? (外)ハケ	2mm前後の砂粒を含む	
46	〃	土・こしき(取手)				(内)浅黄橙色 (外)〃		(内) (外)	1mm前後の砂粒を含む	
47	〃	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	良	(内) (外)	〃	
48	1住内土坑	土・手づくね			3.1	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
49	1住フク土	〃				(内)にぶい黄褐色 (外)浅黄橙色	〃	(内)指ナデ押さえ (外)〃	〃	

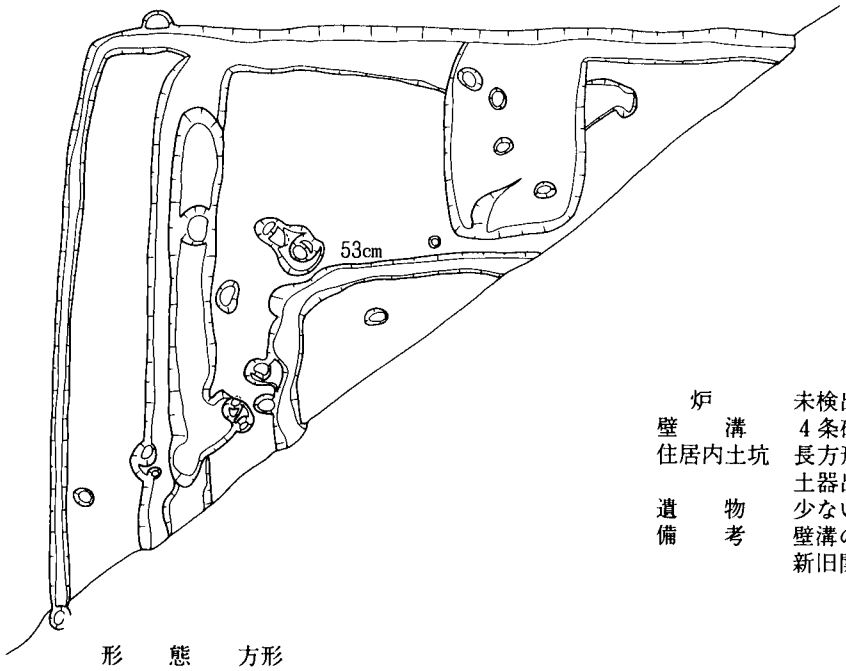
図版No.第図	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	備考
1	1住フク土	礫	残存 9.7	8.6	5.8	629.0	
2	〃	〃	13.5	8.3	5.6	787.1	

ため、旧住居跡の床面および炉跡は捉えていない。ただ、新旧どちらの竪穴住居跡の柱穴にも床面と同様な土が上面にあり柱の設置の後で床面を整地していることが窺える。また、重複を2棟としたが柱穴からはそれ以上の可能性も窺える。

2号竪穴住居跡

2号竪穴住居跡はB－3・4区の西側に位置する。第18図に遺構図を、第19図に遺物実測図を載せた。本遺跡の発見の契機となった竪穴住居跡であるが西側の半分以上が壊されていた。壁溝の状態からは4回程度の重複が想定できる。



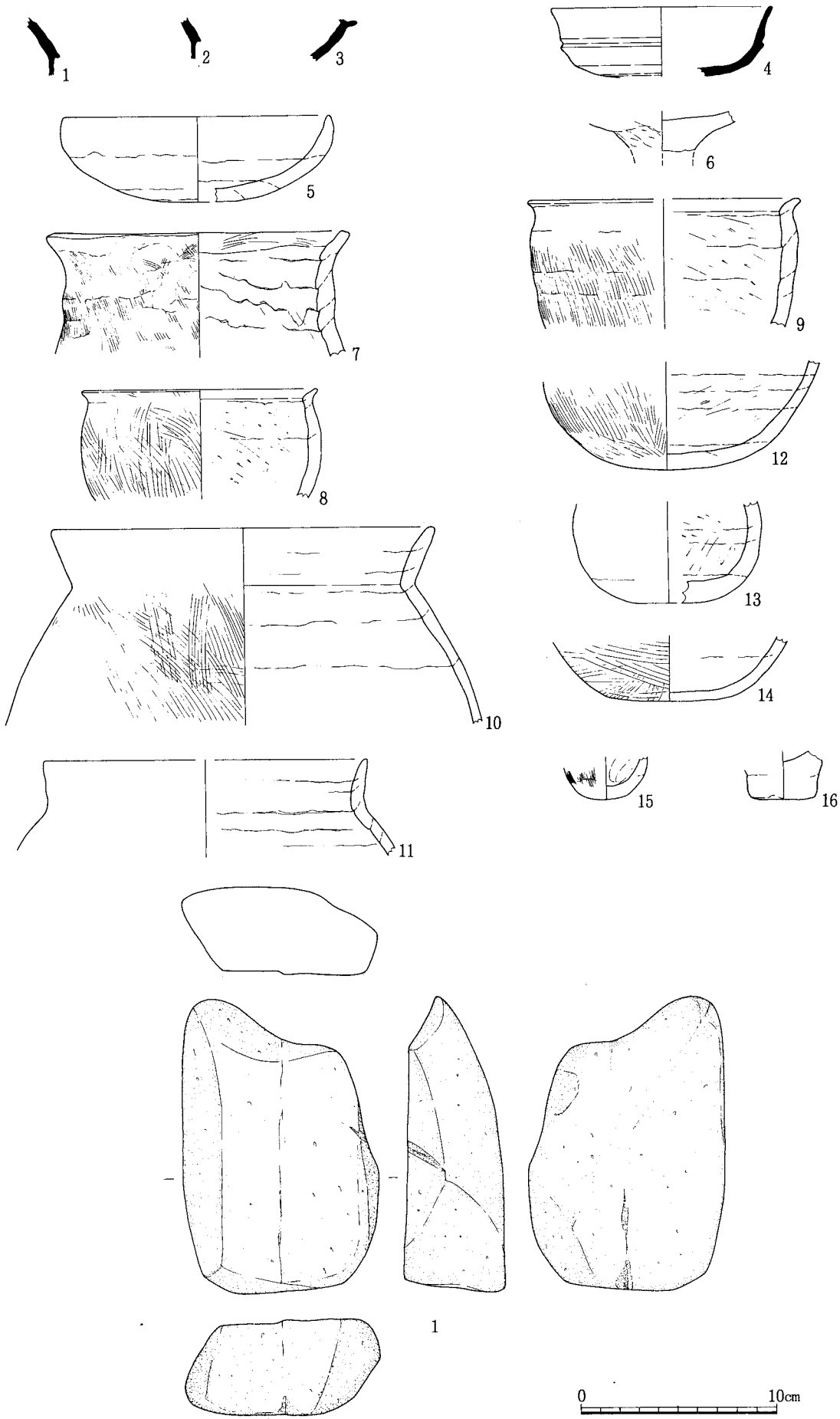


1　黒灰色砂質土
2　暗灰色砂質土
　（黄褐色土ブロック含む）
3　暗灰褐色砂質土
　（黄褐色土ブロック含む）
4　暗灰色砂質土
5　濁黄褐色砂質土
6　黄褐色砂質土
　（4層混じる）
7　暗灰色砂質土
8　黄褐色砂質土
9　濁暗灰色砂質土
　（黄褐色ブロック含む）
10　黒灰色砂質土
11　濁黄褐色砂質土
　（黒灰色土混じる）
12　黒灰色砂質土
　（黄褐色土ブロック含む）
13　茶褐色砂質土
14　黒色砂質土

炉	未検出（破壊）
壁　溝	4条確認、内1条は床面除去後に検出。
住居内土坑	長方形2.1m×1.5m×0.2m 土器出土
遺　物	少ない。古墳時代後期5C末
備　考	壁溝の状況から4回程度の建て替え、新旧関係は不明。

形　態	方形
規　模	(9.4) m×(9.4) m (7.6) m×(7.6) m 不明
主柱穴	4本か（1棟は不明、他は1本のみ検出）
床	黄褐色の硬化した土層が中央に分布。下端の不明瞭な部分あり。除去後に穴を検出。

第18図　潮津金場遺跡2号竪穴住居跡（下段は床面除去後）（S＝1/80）



第19図　潮津金場遺跡２号竪穴住居跡出土土器・石器（S＝１／３）

表6　潮津金場遺跡2号竪穴住居跡出土土器観察表・石器計測表

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
1	2住フク土	須・蓋				(内)灰色 (外)〃	良	(内)ヨコナデ (外)〃		
2	〃	〃				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		(外)降灰
3	2住周溝	須・坏身				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		
4	2住フク土	須・高坏	11.2			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃		(内)降灰
5	2住	土・椀	13.6	4.4		(内)にぶい黄橙色 (外)淡黄色	〃	(内)ヨコナデ、ナデ？ (外)ヨコナデ？、摩耗の為不明	0.5mm程度の砂粒少量含む	
6	2住フク土	土・高坏				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ケズリ	0.5mm程度の砂粒多く含む	
7	2住	土・甕	14.8			(内)灰黄褐色 (外)にぶい橙色	〃	(内)ハケ (外)ハケ、ナデ	0.2mm程度の砂粒多く含む	
8	2住上面フク土	〃	11.8			(内)淡黄色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ケズリ (外)ヨコナデ、ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	
9	2住フク土	〃	(13.7)			(内)灰褐色 (外)橙色	〃	(内)ヨコナデ、ケズリ (外)ヨコナデ、ハケ	〃	
10	2住	〃	19.6			(内)淡黄色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ヨコナデ、摩耗の為不明 (外)ヨコナデ、ハケ	〃	
11	2住上面フク土	〃	16.6			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
12	2住フク土	〃				(内)淡黄色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ナデ (外)ハケ、ナデ	〃	
13	〃	〃				(内)淡黄色 (外)〃	〃	(内)ケズリデ (外)ナデ	〃	(外)黒斑有り
14	2住	土・甕(底部)				(内)淡黄色 (外)浅黄橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ハケ	〃	
15	2住フク土	土・手づくね				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)ハケ、ナデ	〃	(外)黒斑有り
16	2住上面フク土	〃			3.15	(内)灰黄褐色 (外)にぶい黄橙色	〃	(内) (外)ナデ、ハケ	1mm程度の砂粒多く含む	

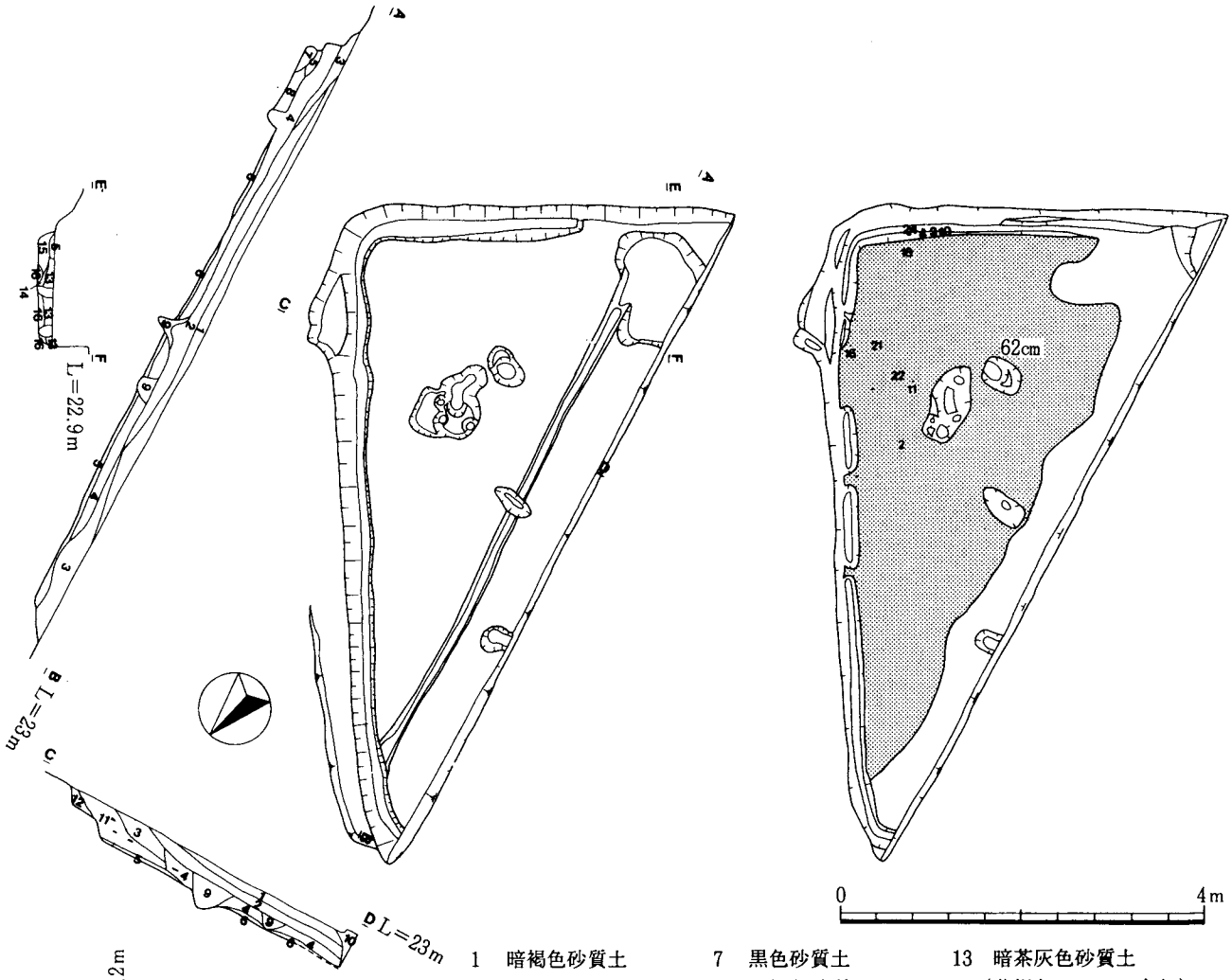
図版No.第図	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	備考
1	2住フク土	礫	15.3	10.1	5.0	983.1	

3号竪穴住居跡

3号竪穴住居跡はB－8区西側に位置する。第20図に遺構図を、第21図に遺物実測図を載せた。農道部分に広がっており、水田の法面でプランの一部が確認できる。ただし、農道中央にはパイプラインが既に敷設されており、また、用水の給水口がパイプラインから延びており多くの部分が壊れている。本竪穴住居跡では重複の痕跡は確認できなかった。覆土の下部には地山と類似した土が堆積しており、これを床面と勘違いしていた箇所がある。また、同様な土の堆積が後述する3号土坑でも認められた。

1号掘立柱建物

1号掘立柱建物はB－8区で3号竪穴住居跡とは雁行配置のような位置関係で存在する。柱列のみであり、建物となるかどうかわからないが、潮津出村B遺跡で同様な柱穴で構成される建物が確認されたため、建物として取り扱う。第20図左下に遺構図を載せた。



1 暗褐色砂質土
2 黒灰色砂質土
3 暗褐色砂質土
4 茶褐色砂質土
5 黄褐色砂質土
6 黄褐色砂質土（茶褐色土混じる）
7 黒色砂質土
8 灰褐色砂質土
9 淡黒灰色砂質土
10 盛　土
11 茶褐色砂質土
12 暗褐色砂質土
13 暗茶灰色砂質土（黄褐色ブロック含む）
14 暗茶褐色砂質土
15 黒褐色砂質土
16 暗黄褐色砂質土

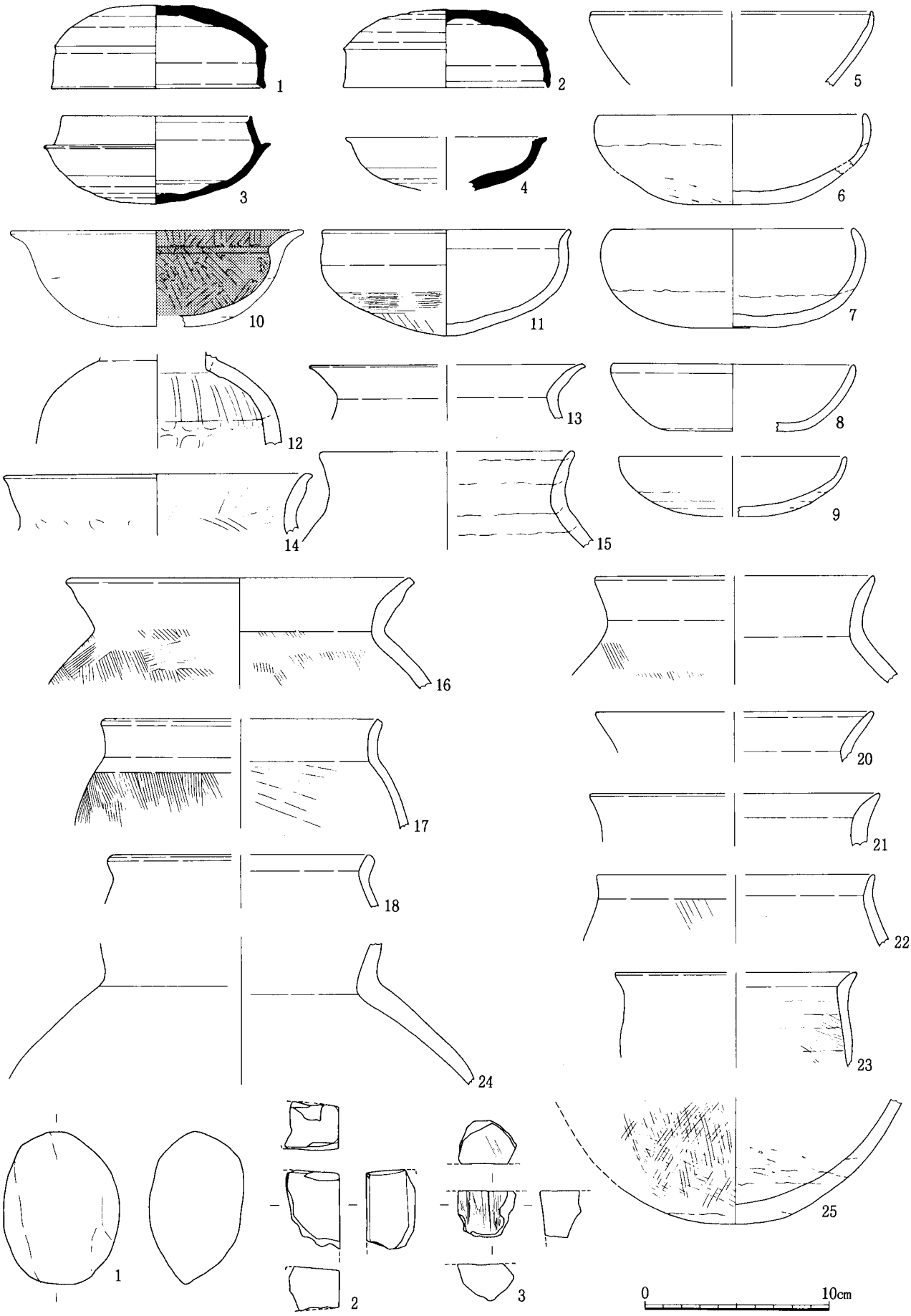
3号竪穴住居跡

形　態	方形か
規　模	7.2m×（7.2m）
主柱穴	4本か（1本のみ検出）。
床	黄褐色の硬化した土層、下端は不明瞭な部分あり。
炉	未検出（調査区外）
壁　溝	全周か。
住居内土坑	不整方形 1.2m×1.2m×0.2m
遺　物	東コーナー付近で覆土上半から多く出土。古墳時代後期5C末
備　考	覆土下半に床ではない黄褐色の分布が認められた。これを当初床と誤認。3号土坑も同様な土層の堆積がみられた。

1号掘立柱建物

桁行のみ検出　6.5m以上
柱間は1.6m

第20図　潮津金場遺跡3号竪穴住居跡（上段、左は床面除去後）・1号掘立柱建物（下段左）（S＝1/80）

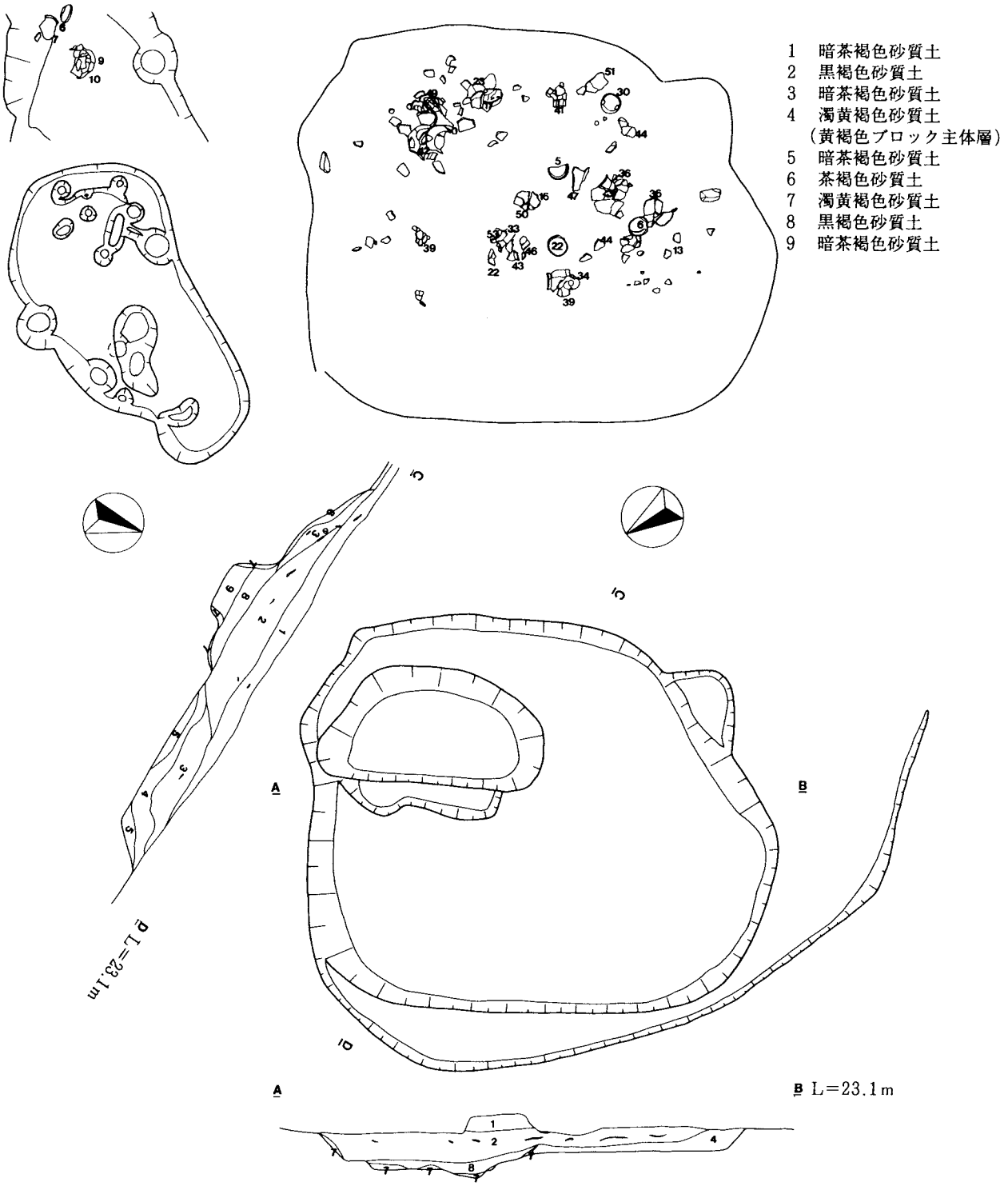


第21図　潮津金場遺跡３号竪穴住居跡出土土器・石器（S＝１／３）

表7　潮津金場遺跡3号竪穴住居跡出土土器観察表・石器計測表

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
1	3住フク土	須・蓋	11.8	4.6		(内)褐灰色 (外)灰色	良	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	粒子の細かい堅い土	
2	3住	〃	11.2	(4.38)		(内)灰色 (外)灰白、釉色	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ(ロクロケズリ)	〃	
3	〃	須・坏身	10.3	(4.9)		(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロケズリ、ロクロナデ	〃	
4	3号住フク土	〃	11.0	(2.9)		(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロケズリ、ロクロナデ	〃	
5	〃	土・椀	(15.2)			(内)黄橙色 (外)橙色	やや不良	(内)ナデ (外)〃	粒子の細かいもろい土	
6	〃	〃	14.4	5.0		(内)橙色 (外)〃	良	(内)ミガキ (外)摩耗の為不明	1㎜程度の砂粒少量含む	
7	〃	〃	13.1	5.5		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ (外)摩耗の為不明	0.5㎜程度の砂粒少量含む	
8	〃	〃	13.0	3.7		(内)明赤褐色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	砂粒の混じる粒子の細かいもろい土	
9	3住	〃	12.2			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	粒子の細かいもろい土	
10	〃	〃	16.2			(内)黒色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ミガキ (外)ヨコナデ	〃	
11	〃	〃	13.6	5.9		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	2㎜の砂の混じる粒子の細かい土	
12	3住フク土	土・壺				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)指頭圧痕 (外)ナデ	粒子の細かい堅い土	
13	3住	土・甕	(15.0)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	粒子の細かいもろい土	
14	〃	〃	16.7			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ハケ (外)ヨコナデ	1.5㎜程度の砂粒少量含む	指頭圧痕
15	3住フク土	〃	(13.8)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1㎜程度の砂粒少量含む	
16	3住	〃	18.6			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ、ハケ (外)ハケ、ナデ	2㎜の砂の混じる粒子の細かい土	
17	3住フク土	〃	(15.0)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)強いナデ(板ナデ) (外)ハケ、ヨコナデ	粒子の細かい堅い土	
18	〃	〃	(14.0)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1㎜の砂の混じる粒子の細かい土	
19	〃	〃	(15.0)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内) (外)ハケ目	粒子の細かいもろい土	
20	〃	〃	(15.0)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
21	3住	土・甕(口縁)	(15.6)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
22	〃	土・甕	(15.0)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
23	3住セクション	〃	(13.1)			(内)浅黄橙色 (外)〃	やや不良	(内)ハケ (外)	2㎜の砂の混じる粒子の細かい土	
24	3住	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	良	(内)摩耗の為不明 (外)〃	粒子の細かいもろい土(2㎜の砂混じる)	
25	〃	土・甕(底部)				(内)灰黄褐色 (外)橙色	〃	(内)ナデ、ケズリ (外)ハケ	0.5㎜～1㎜程度の砂粒多く含む	すす付着

図版No.第図	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	備考
1	3住フク土	磨石	8.5	6.4	5.45	395.4	
2	〃	砥石	残存 4.5	残存 2.9	残存 2.7	38.5	
3	〃	〃	残存 2.6	残存 3.2	残存 2.3	19.5	



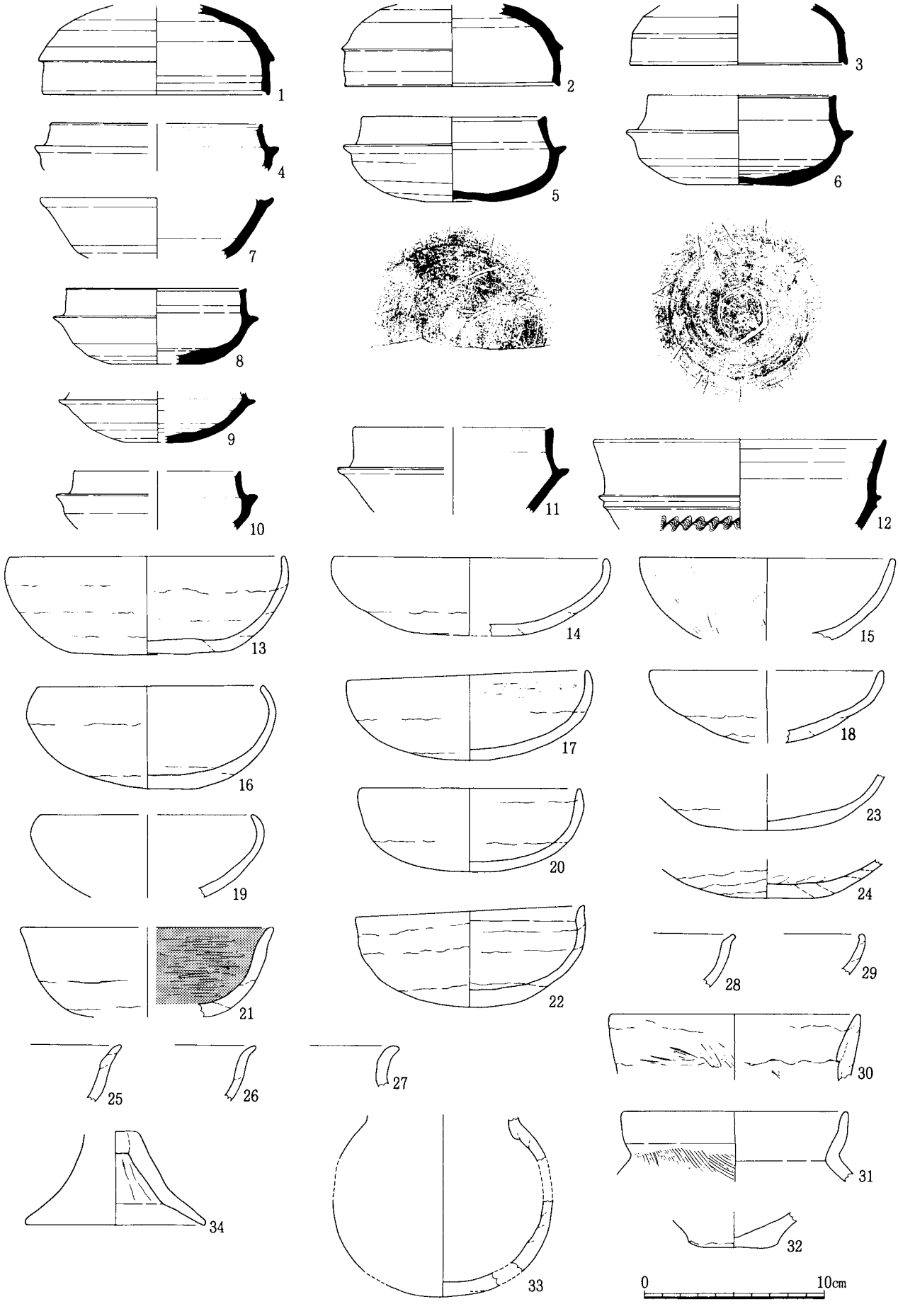
形　態　　平面形、不整隅円方形
　　3ｍ×2.5ｍ
　　断面形　皿状
　　0.35ｍ
　　東壁よりに２段掘りの楕円形の掘り込みあり。その他の抗底は平坦。

遺　物　　覆土中位以上から多量に出土
　　古墳時代後期５Ｃ末

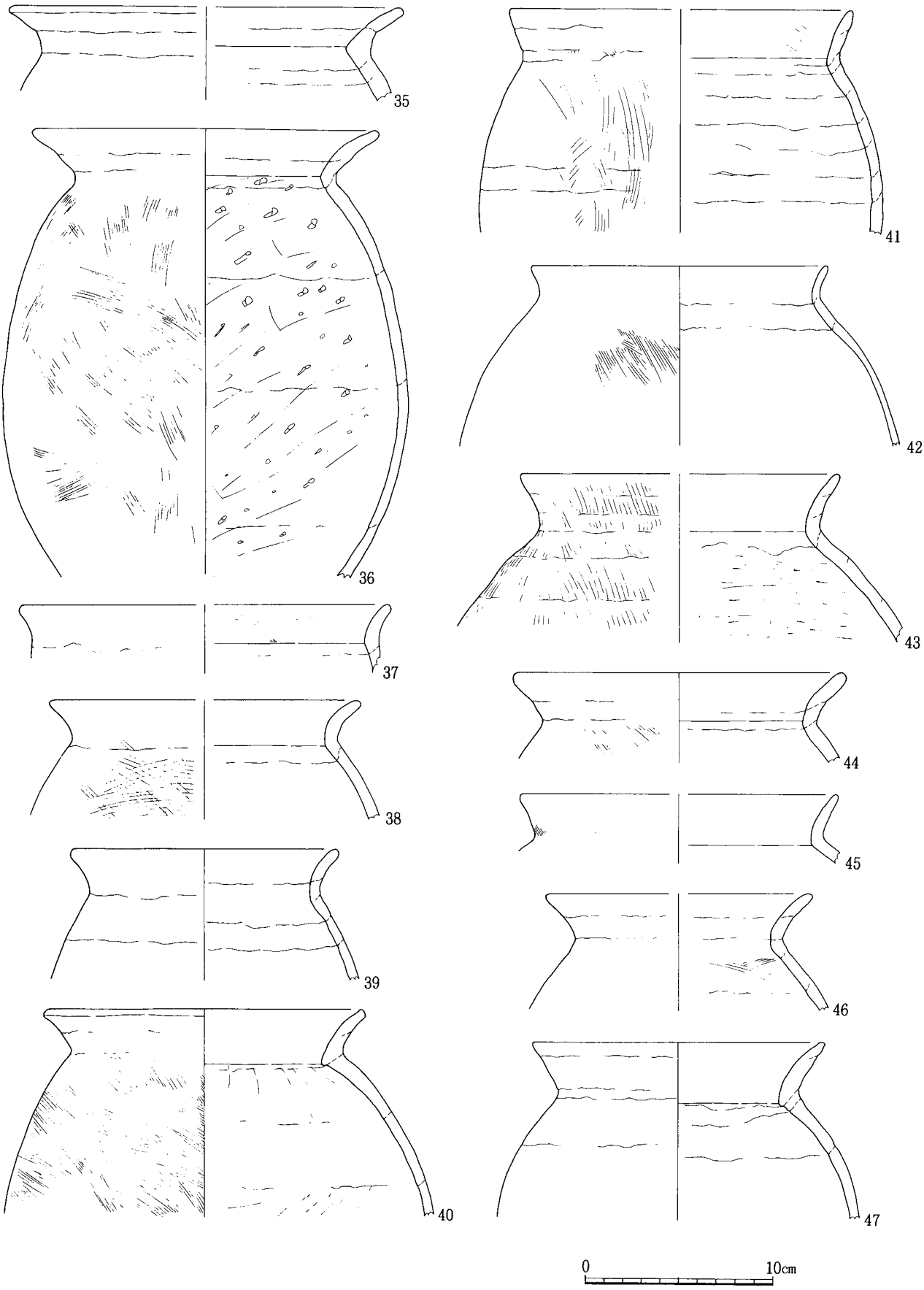
備　考　　覆土下部に黄褐色土層が堆積、３号住居跡の覆土下部に見られたものと同様な堆積か。

0　　2m

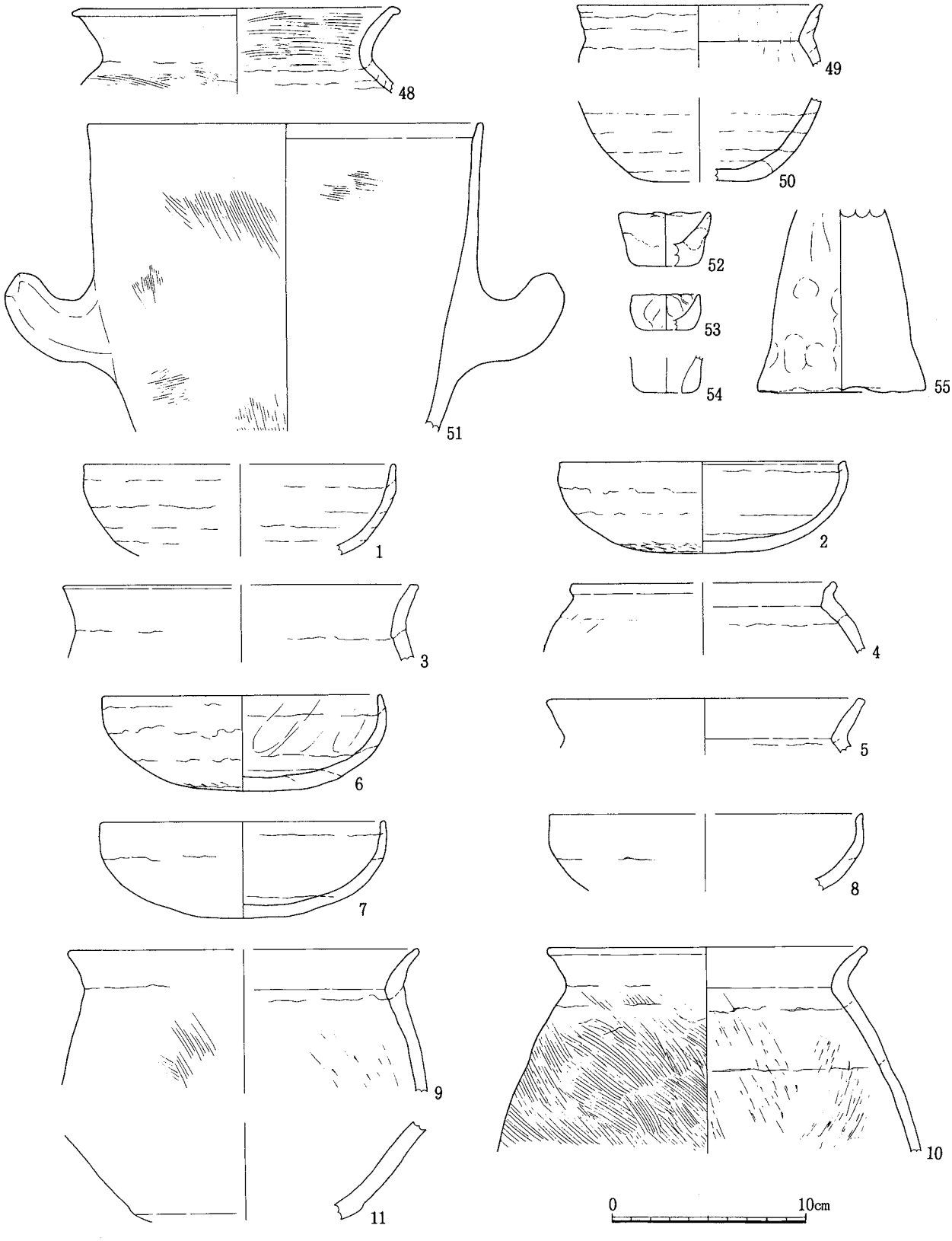
第22図　潮津金場遺跡２・３号土坑（左上、２号土坑）（S＝１/40）



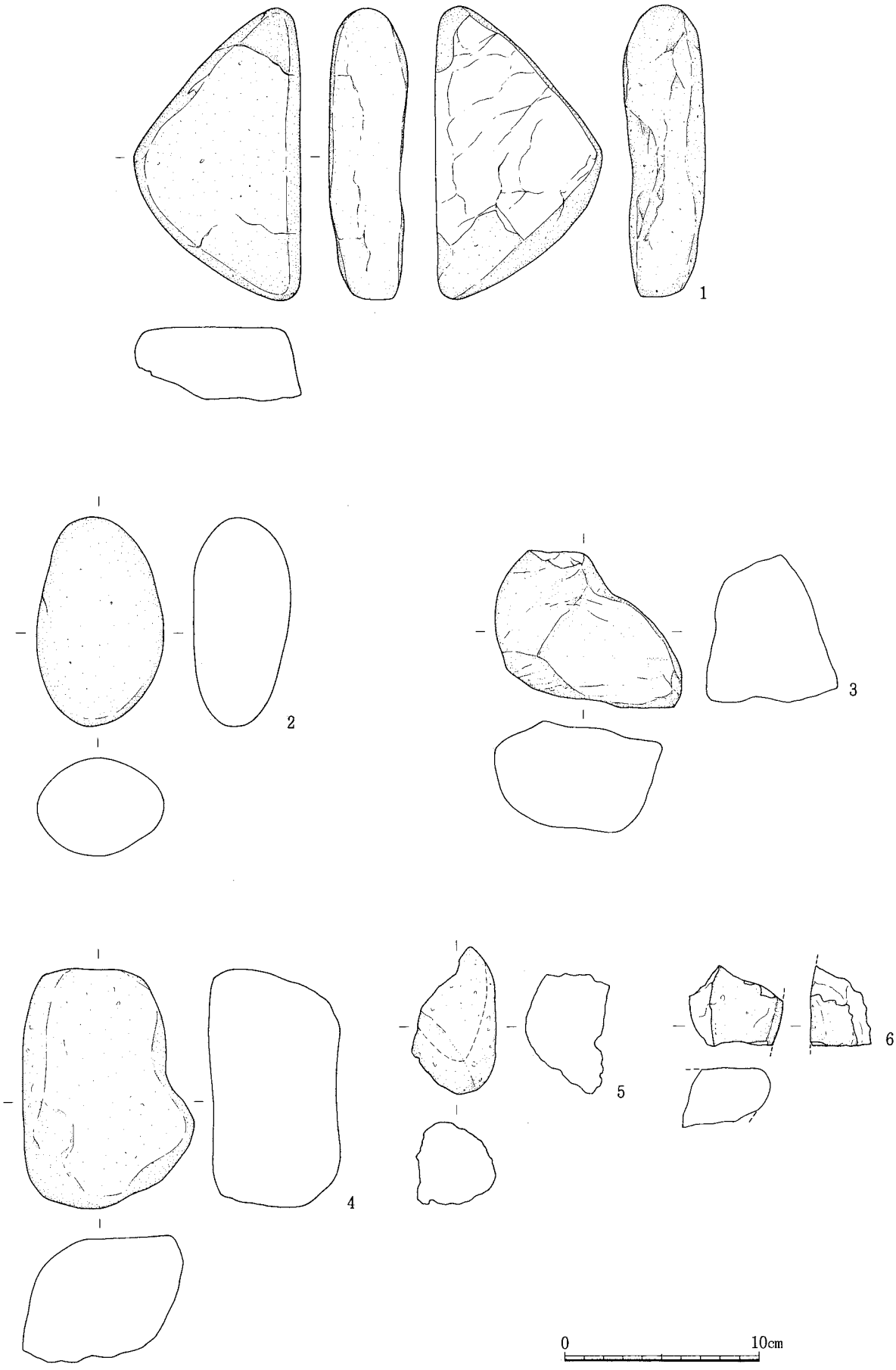
第23図　潮津金場遺跡３号土坑出土土器（１）（S＝１／３）



第24図　潮津金場遺跡３号土坑出土土器（２）（S＝１／３）



第25図　潮津金場遺跡３号土坑出土土器（３）・１、２、４、５号土坑出土土器（S＝１/３）



第26図　潮津金場遺跡３号土坑出土石器（S＝１／３）

表8　潮津金場遺跡3号土坑出土土器観察表

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
1	3号土坑フク土	須・蓋	12.6			(内)灰色 (外)〃	良	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	黒色粒の吹出し多い	外面一部降灰
2	〃	〃	12.0			(内)灰色 (外)灰色、釉色	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	粒子の細かい堅い土	
3	3号土坑	〃	12.0			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	〃	
4	3号土坑フク土	須・坏身	11.6			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	微砂粒含む程度	
5	3号土坑	〃	10.6	4.8		(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	大粒の礫含む	
6	〃	〃	10.8	5.0	5.8	(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	2mm程度の礫含む	底面ヘラ記号
7	〃	〃	(12.9)			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	1mm以下の砂粒含む	
8	3号土坑フク土	〃	10	4.25		(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	1mm程度の砂粒含む	
9	〃	〃				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	〃	
10	〃	〃	9.2			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	微砂粒含む程度	
11	〃	〃	11			(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	0.5mm程度の砂粒少量含む	
12	〃		16			(内)暗灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	1mm程度の砂粒含む	内面降灰
13	3号土坑	土・椀	15.2	5.5		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
14	3号土坑フク土	〃	15.3	4.4		(内)黄橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ (外)摩耗の為不明	0.5mm程度の砂粒少量含む	
15	〃	〃	14.0			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ (外)ミガキ、ハケ痕	1mm程度の砂粒少量含む	
16	3号土坑	〃	12.6	5.8		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	0.2mm程度の砂粒多く含む	
17	〃	〃	13.4	4.8		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ (外)〃	〃	
18	3号土坑フク土	〃	(12.8)				〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
19	〃	〃	(10.9)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	0.5mm程度の砂粒少量含む	
20	3号土坑	〃	12.3	4.7		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
21	3号土坑フク土	〃	(13.8)			(外)浅黄橙色	〃	(内)ミガキ (外)摩耗の為不明	0.5mm程度の砂粒少量含む	内黒
22	3号土坑	〃	12.7	5.4		(内)灰黄褐色 (外)にぶい橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1～1.5mm程度の砂粒多く含む	
23	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	0.2mm程度の砂粒多く含む	
24	3号土坑フク土	〃				(内)黄橙色 (外)橙色	〃	(内)〃 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
25	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	0.5mm程度の砂粒少量含む	
26	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	〃	
27	〃					(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
28	〃	土・椀				(内)橙色 (外)にぶい橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
29	3号土坑内穴	〃				(内)にぶい黄橙色 (外)にぶい橙色	〃	(内)〃 (外)〃	〃	
30	3号土坑フク土	土・壺	13.8			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、工具によるナデ (外)〃	1mm以下の砂粒含む	

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
31	3号土坑	土・甕	12.4			(内)淡黄色 (外)〃	良	(内)不明 (外)ハケ	1mm程度の砂粒含む	
32	〃	土・壺(底部)			5.0	(内)褐灰色 (外)浅黄橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ナデ	1mm以下の砂粒含む	
33	3号土坑フク土	土・壺				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	〃	
34	3号土坑	土・高坏			9.9	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
35	3号土坑フク土	土・甕	(20.8)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1.5～2mm程度の砂粒目立つ	
36	3号土坑	〃	18.2			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ケズリ (外)ヨコナデ、ハケ	2～2.5mm程度の砂粒目立つ	
37	3号土坑フク土	〃	(19.87)			(内)赤灰色 (外)にぶい橙色	〃	(内)ハケ、ナデ (外)摩耗の為不明	0.2mm程度の砂粒多く含む	
38	3号土坑	〃	(16.4)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	
39	〃	〃	14.2			(内)にぶい黄橙色 (外)にぶい橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
40	〃	〃	16.8			(内)にぶい黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ、ケズリ痕 (外)ヨコナデ、ハケ	1.5mm程度の砂粒少量含む	
41	〃	〃	(18.2)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)一部ハケ、摩耗の為不明 (外)ハケ	0.2mm程度の砂粒多く含む	
42	〃	〃	15.8			(内)灰黄褐色 (外)にぶい黄橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ、ハケ	3mm以下の砂粒含む	
43	3号土坑フク土	〃	(16.9)			(内)浅黄橙色 (外)にぶい橙色	〃	(内)摩耗の為不明、ケズリ (外)ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	
44	3号土坑	〃	17.4			(内)浅黄橙色 (外)	〃	(内)ヨコナデ、ナデ (外)摩耗の為不明、ハケ	〃	
45	3号土坑フク土	〃	(16.8)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1.5mm程度の砂粒目立つ	
46	3号土坑	〃	(14.2)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)摩耗の為不明	0.5mm程度の砂粒少量含む	
47	〃	〃	15.5			(内)浅黄橙色 (外)淡黄色	〃	(内)〃 (外)〃		
48	3号土坑フク土	〃	16.0			(内)橙色 (外)にぶい橙色	〃	(内)ハケ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	
49	3号土坑	〃	12.5			(内)にぶい橙色 (外)浅黄橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ	0.2mm程度の砂粒多く含む	指頭圧痕
50	〃	土・甕(底部)				(内)淡黄色 (外)浅黄橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	すす付着
51	〃	土・こしき	21.8			(内)橙色 (外)〃		(内)〃 (外)〃		
52	3号土坑フク土	土・手づくね	46.0	2.8	3.5	(内)橙色 (外)〃	良	(内)ナデ (外)〃		
53	〃	〃	3.5	1.9	3.0	(内)赤橙色 (外)〃	〃	(内) (外)		
54	〃	〃			3.4	(内)にぶい赤褐色 (外)〃	〃	(内) (外)		
55	3号土坑	土・支脚			8.6	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内) (外)ナデ	1mm以下の砂粒含む	

2号土坑

2号土坑はB－3区の2号竪穴住居跡の南東に隣接してある。攪乱と絡み合っているため本来的な形態が良くわからない。坑底からやや浮いて土師器甕と椀がまとまって出土している。第22図左上に遺構図を、第25図に遺物実測図を載せた。

表9　潮津金場遺跡3号土坑出土石器計測表

図版No. 第　図	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (cm)	備　　考
1	3号土坑	礫	636.9	15.3	8.6	4.1	
2	〃	敲石	10.9	7.0	5.1	501.8	
3	3号土坑フク土	礫	8.2	9.6	6.7	572.6	
4	3号土坑	〃	12.6	8.9	8.8	254.9	被熱
5	3号土坑フク土	〃	7.7	4.3	4.3	153.9	
6	3号土坑	〃	残存 4.1	残存 4.8	残存 3.1	70.5	

表10　潮津金場遺跡1・2・4・5号土坑出土土器観察表

図版No. 第図	出土地点	器種	法量(cm)			色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
1	1号土坑フク土	土・椀	(16.0)			(内)浅黄橙色 (外)〃	良	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
2	〃	〃	14.6	4.8	5.8	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)ヨコナデ、ケズリ	0.2~0.5mm程度の砂粒多く含む	黒斑有り
3	〃	土・甕	(18.3)			(内)にぶい橙色 (外)灰黄褐色	〃	(内)ナデ (外)ヨコナデ、ナデ	1mm程度の砂粒少量含む	
4	〃	〃	13.6			(内)浅黄橙色 (外)橙色	〃	(内)ヨコナデ (外)ハケ	〃	
5	〃	〃	16.0			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ	0.2~0.5mm程度の砂粒多く含む	
6	2号土坑	土・椀	14.4	5.0		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ? (外)摩耗の為不明、ケズリ痕	〃	指頭圧痕
7	〃	〃	14.6	5.0		(内)にぶい橙色 (外)橙色	〃	(内)ミガキ (外)摩耗の為不明	0.5mm程度の砂粒多く含む	
8	2号土坑フク土	〃	(16.0)			(内)灰褐色 (外)橙色	〃	(内)ヨコナデ、ナデ (外)ミガキ?	0.2mm程度の砂粒多く含む	
9	2号土坑	土・甕	(18.0)			(内)淡黄色 (外)〃	〃	(内)ケズリ (外)ハケ	〃	
10	〃	〃	16.3			(内)淡黄色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ヨコナデ、ナデ、ケズリ (外)ヨコナデ、ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	すす付着
11	5号土坑	土・高坏				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内) (外)ナデ	1~2mm程度の砂の混じるもろい土	

3号土坑

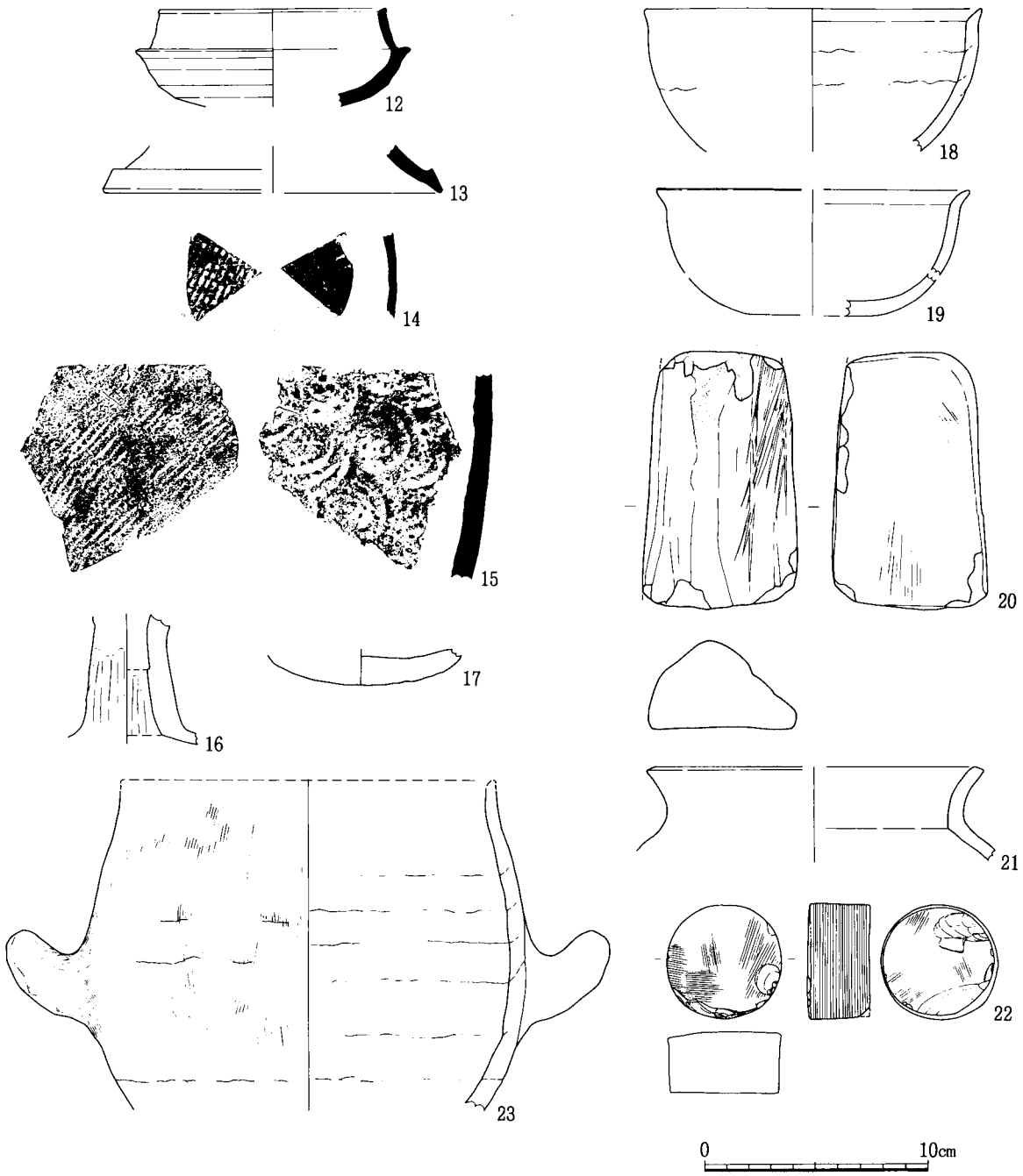
3号土坑はB－8区で3号竪穴住居跡の1辺の南東延長上に位置する。本遺跡で最も遺物の出土した遺構である。覆土の下部には黄褐色の土が堆積しており、この上面から多量の遺物が出土している。坑底にはやや北東に寄った位置で楕円形の穴が更に穿たれている。3号竪穴住居跡出土の遺物と接合を試みたが接合しなかった。

なお、A区では、明確な竪穴住居跡や掘立柱建物などはとらえれなかった。ただし、第27図に遺物を載せた遺構は竪穴住居跡、掘立柱建物、或いは住居跡に関連のある土坑の可能性が高い。また、緑色凝灰岩製の刳り抜き円盤が表面採集されている。これと工事区東側で発見した住居跡採集遺物を合わせて載せておいた。金場遺跡の遺構は遺物からして5世紀末頃のものと言える。

表11　潮津金場遺跡出土土器観察表・石器計測表

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
12	P－26	須・坏身	10.2			(内)灰色 (外)〃	良	(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ、ケズリ		
13	包含層	須・高坏	(15.1)			(内)灰色 (外)釉色	〃	(内)ヨコナデ (外)〃	粒子の細かい堅い土	
14	P－74	須・甕				(内)黄灰色 (外)灰色	〃	(内)カキ目 (外)タタキ	〃	
15	表採	須・甕				(内)釉色 (外)〃	〃	(内)タタキ (外)〃	〃	
16	包含層	土・高坏				(内)橙色 (外)〃	〃	(内) (外)ミガキ	0.5mmの砂の混じる粒子の細かいもろい土	
17	表土包含層	土・椀(底部)				(内)浅黄橙色 (外)橙色	やや不良	(内) (外)	2mmの砂の混じる粒子の細かいもろい土	
18	土坑A－5(アゼより西側)	土・鉢	15.0			(内)赤橙色 (外)橙色	良	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm程度の砂粒含む	
19	土坑A－4	〃	(14.0)			(内)橙色 (外)にぶい褐色	〃	(内)ヨコナデ (外)不明	1mm以下の砂粒含む	
21	P－65	土・甕(口縁)	(14.2)			(内)橙・浅黄橙色 (外)橙色	やや不良	(内)ヨコナデ (外)〃	1mm程度の砂の混じる粒子の細かいもろい土	
23	東田面法切住居跡フク土(a)	土・こしき	(16.8)			(内)浅黄橙色 (外)にぶい黄橙色	良	(内)ナデ (外)ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	把手

図版No.第図	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	備考
20	土坑A－5(アゼより西側)	砥石	残存 11.7	残存 6.9	残存 3.95	477.7	
22	(東側)周辺ほ場整備中、排土より	刳り抜き円板	5.2		2.8	101.6	



第27図　潮津金場遺跡出土遺物（その他）（S＝１／３）

第４節　潮津出村Ｂ遺跡

潮津出村Ｂ遺跡では平成５年度に調査した１号竪穴住居跡と平成６年度に調査した１号竪穴住居跡がある。平成５年度に調査した１号竪穴住居跡は'93年度調査区１号竪穴住居跡という呼称で報告する。遺跡は丘陵上の平坦面に展開している。なお、第32図に平成６年度調査区の各トレンチの全体図を載せた。

'93年度調査区１号竪穴住居跡

'93年度調査区１号竪穴住居跡は、金場遺跡と出村Ｂ遺跡を分けると思われる開析谷に面して位置している。出土遺物から考えても金場遺跡と同一グループに属すると思われる。ただし、出土遺物のほとんどは斜面上方から投げ込まれたような状態で出土しており、竪穴住居跡の時期を表しているという保証がない。このため調査時の名称のまま報告する。

この竪穴住居跡も重複の痕跡が確認できなかった。斜面下方側は流れてしまっており、西側は工事により削り取られている。炉跡は住居跡中央やや西寄りに設けられている。斜面上方よりの覆土からは多量の遺物が出土したが、特に手づくね土器が多いのが特徴である。第28図に遺構図を、第29～31図に遺物実測図を載せた。

１号竪穴住居跡

１号竪穴住居跡はＡトレンチ北よりで確認された。北側には長方形と思われる浅い落ち込みがあり、東側にも長方形土坑が確認されている。炉跡はやや南側に置かれており北壁の長方形の落ち込みと対応するのかもしれない。主軸方向を若干変えた重複が確認され、さらに柱穴の配置から３回程度の重複が想定できる。遺物は小片が多い。第33図に遺構図、第35図に遺物実測図を載せた。

２号竪穴住居跡

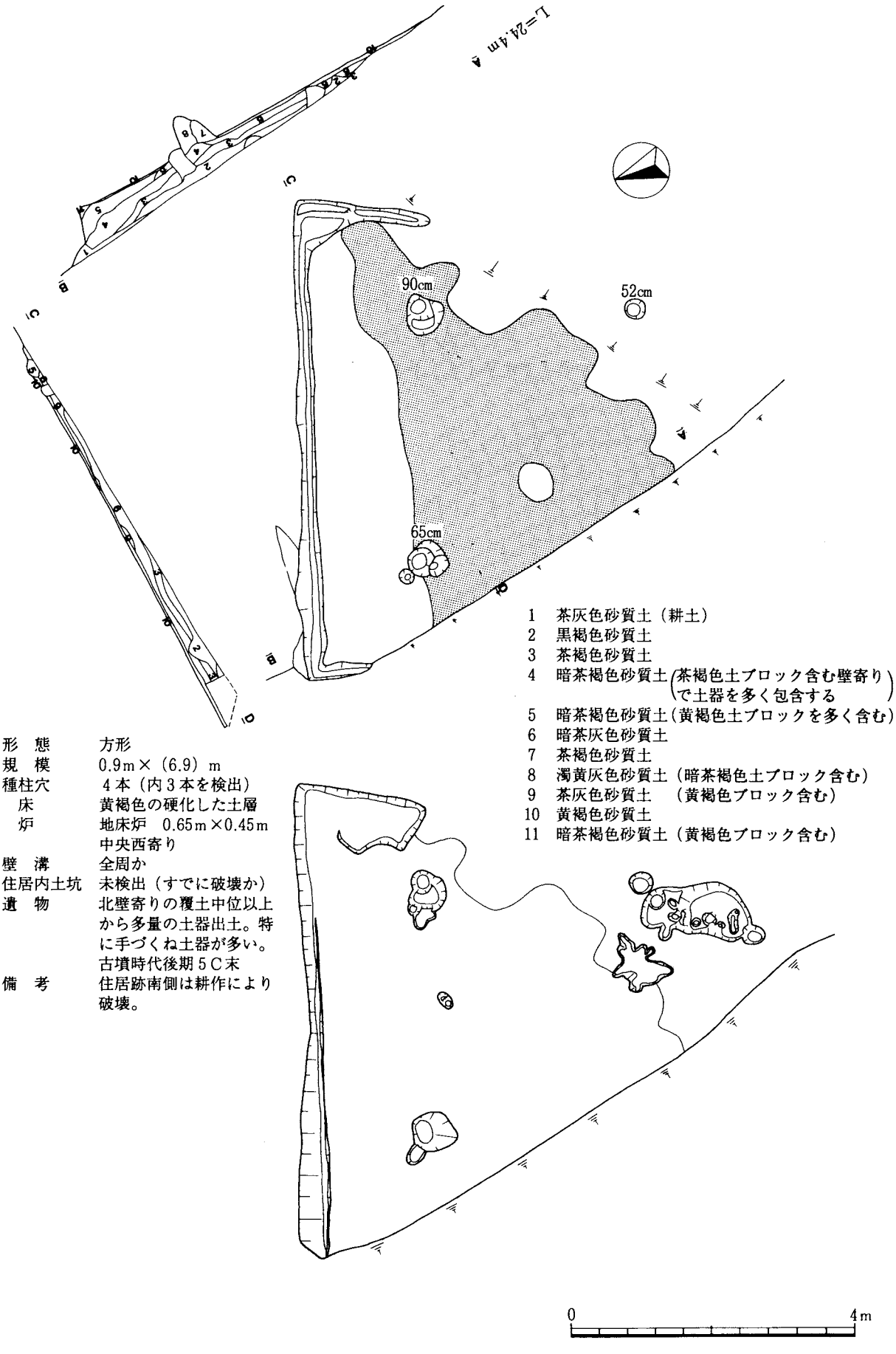
２号竪穴住居跡はＡトレンチのほぼ中央で確認されている。掘り込みは１号竪穴住居跡に比べ浅い。
主柱穴と判断できるものは中央に１本確認したのみである。南西角に方形の土坑を有するが攪乱されておりはっきりしない。この住居も重複の痕跡が確認できない。遺物はやはり小片が多い。第34図に遺構図を、第38図に遺物実測図を載せた。

１号掘立柱建物

１号掘立柱建物はＢトレンチ西端で検出した。柱列のみで建物認定は不安が残る。遺物は図化できるものが出土していない。第34図に遺構図を載せた。

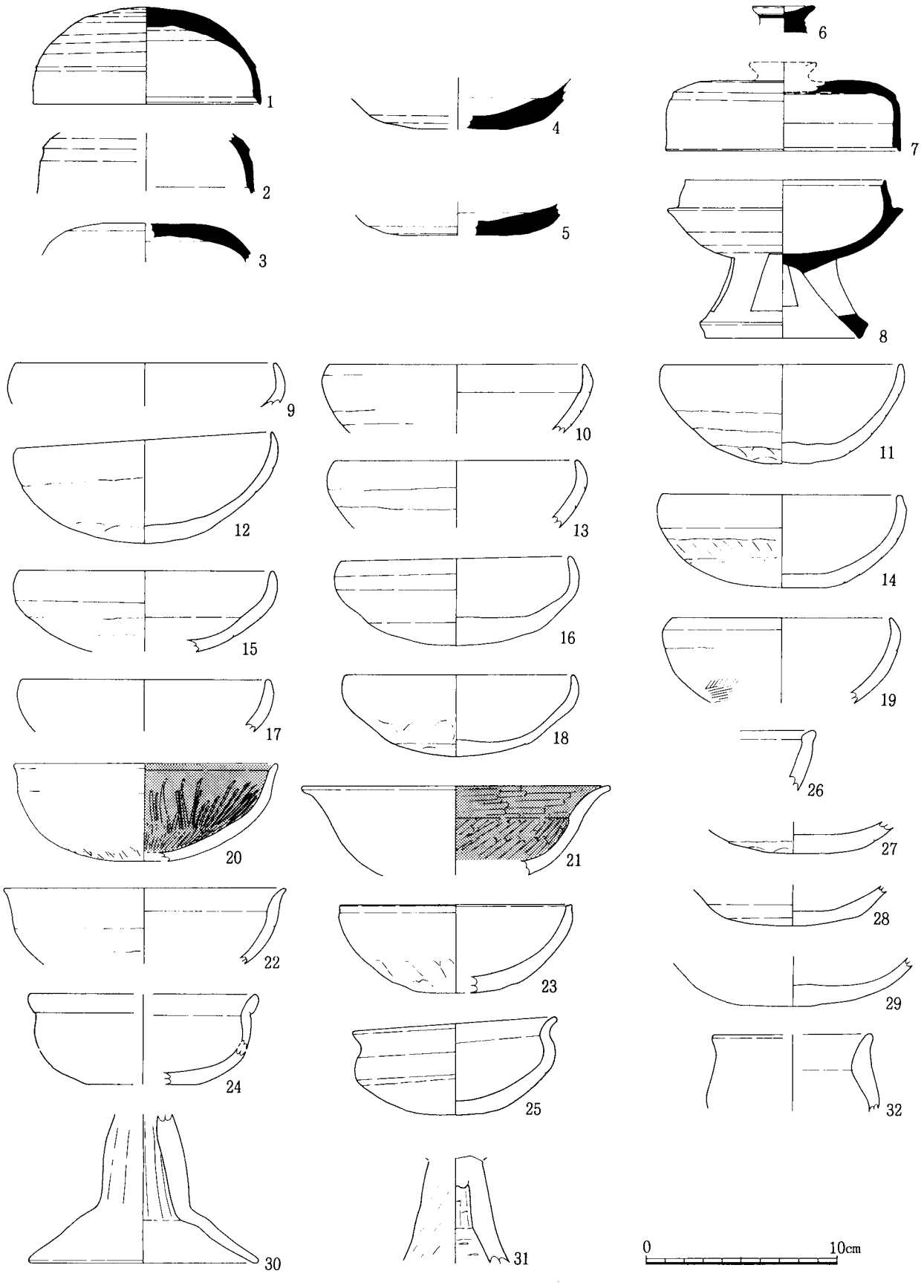
２号掘立柱建物

２号掘立柱建物はＢトレンチで確認され１号掘立柱建物の東側に位置する。桁行４間、梁行１間を確認した。Ｐ－０から２点、Ｐ－４から１点手づくね土器が出土している。第34図に遺構図を、第38図に遺物実測図を載せた。

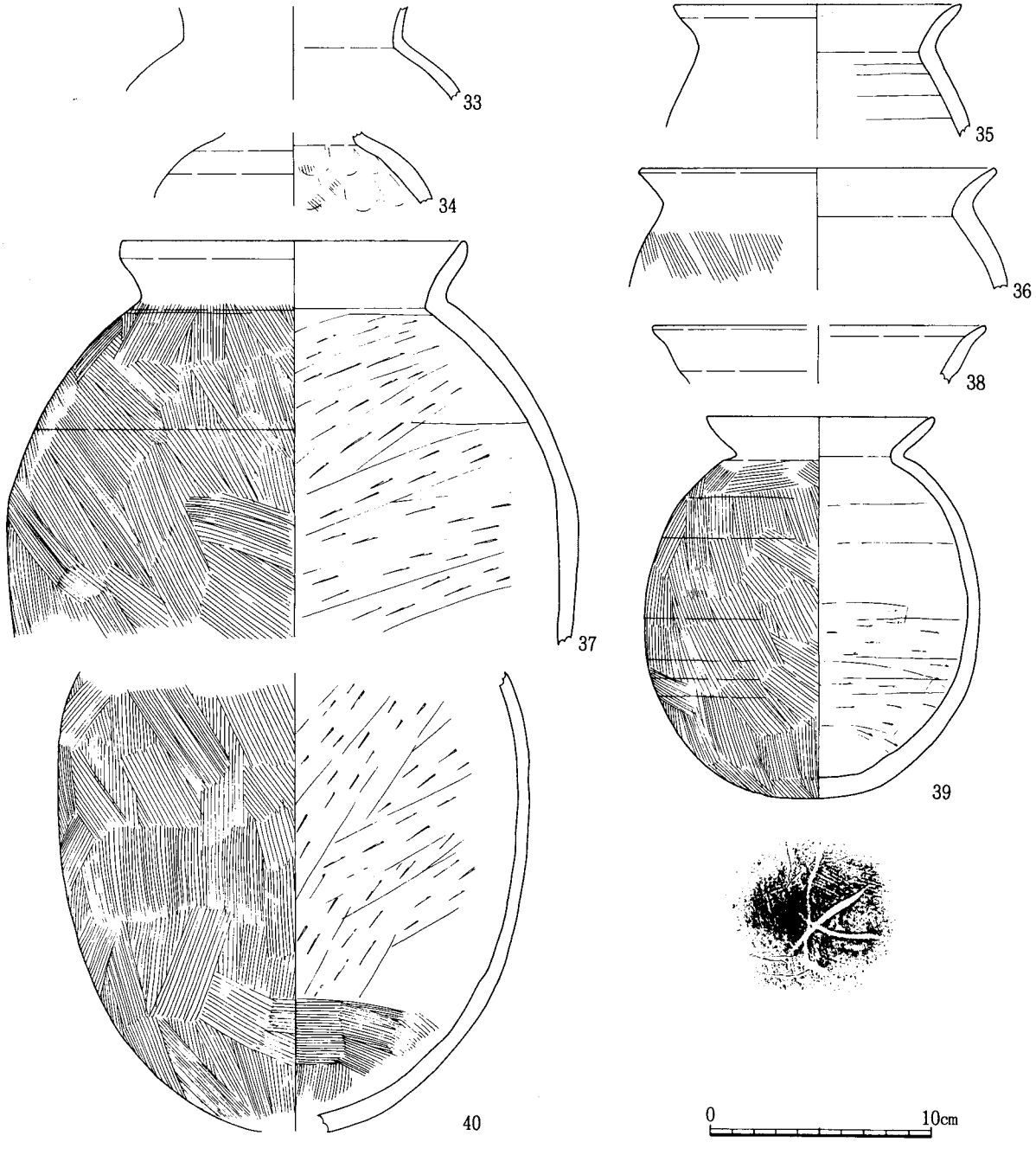


形　態	方形
規　模	0.9m×（6.9）m
種柱穴	4本（内3本を検出）
床	黄褐色の硬化した土層
炉	地床炉　0.65m×0.45m 中央西寄り
壁　溝	全周か
住居内土坑	未検出（すでに破壊か）
遺　物	北壁寄りの覆土中位以上から多量の土器出土。特に手づくね土器が多い。 古墳時代後期5C末
備　考	住居跡南側は耕作により破壊。

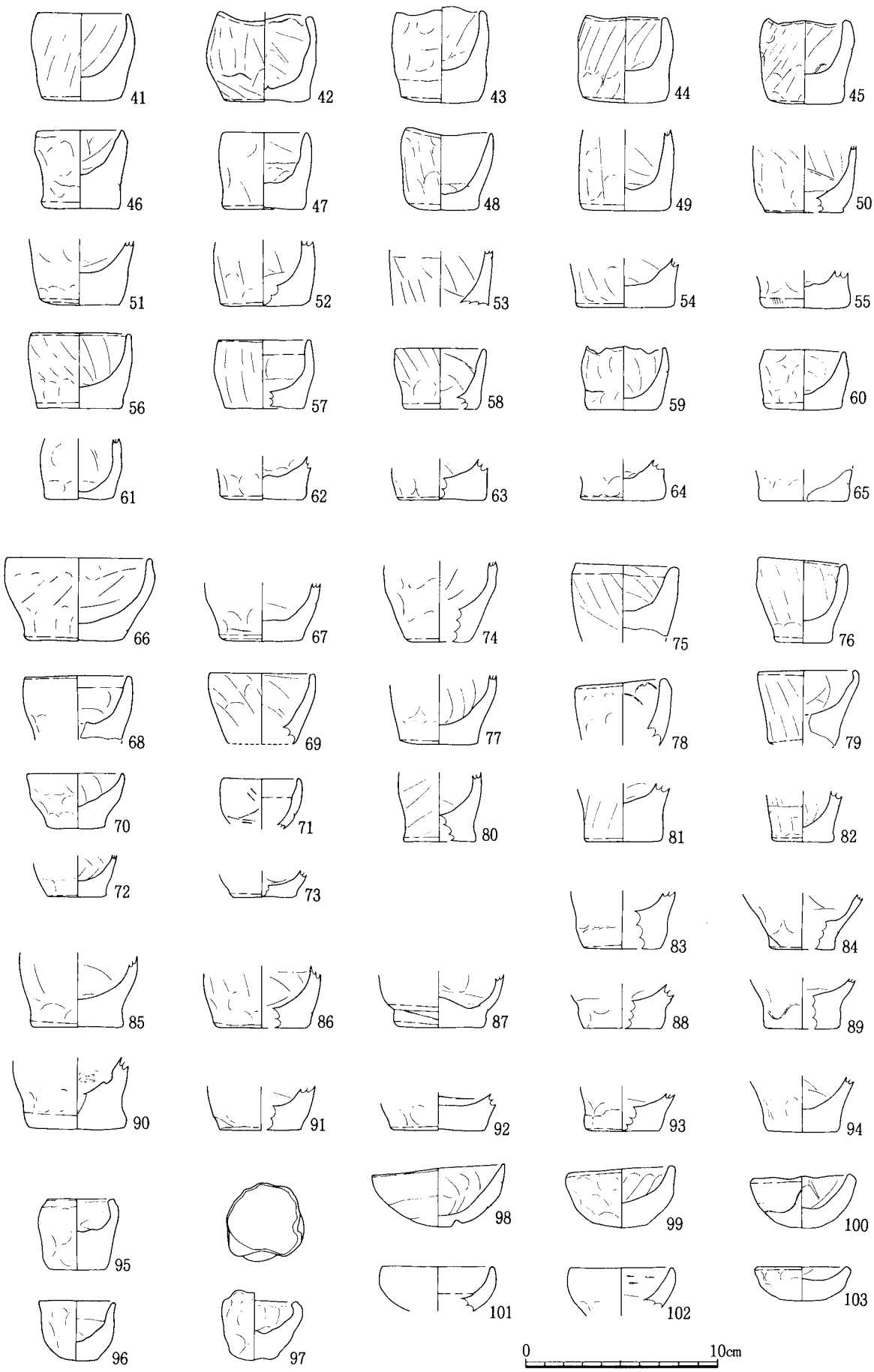
第28図　潮津出村B遺跡'93年度調査区1号竪穴住居跡（下は床面除去後）（S＝1/80）



第29図　潮津出村Ｂ遺跡’93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器（１）（S＝１/３）



第30図　潮津出村Ｂ遺跡’93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器（２）（S＝１/３）



第31図　潮津出村Ｂ遺跡’93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器（３）（S＝１／３）

表12　潮津出村Ｂ遺跡93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器観察表

図版No.第図	出土地点	器種	法量（cm）			色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)（上位より）	胎土	備考
			口径	器高	底径					
1	1住	須・坏蓋	12.0	5.2		(内)灰白色 (外)灰色	良	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	粒子の細かい堅い土	
2	1住上面	須・蓋				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	0.5mmの砂の混じる粒子の細かい堅い土	
3	1住南北アゼ上方	〃			4.5	(内)浅黄色 (外)釉色	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロケズリ	0.5mmの砂の混じる堅い土	
4	1住上面	須・坏身（底部）			5.0	(内)灰白色 (外)灰色	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロケズリ	0.5mmの砂の混じる粒子の細かい堅い土	
5	1住フク土	〃			5.2	(内)淡黄色 (外)灰色	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ	〃	
6	1住東西アゼ上方	須・つまみ	3.2			(内)灰オリーブ色 (外)灰色	〃	(内)ロクロナデ (外)カキ目、ロクロナデ	粒子の細かい堅い土	
7	1住アゼ上方	須・坏蓋			12.3	(内)灰白色 (外)浅黄釉色	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	〃	
8	1住フク土	須・有蓋高坏	10.5	8.5	8.1	(内)灰色 (外)浅黄色	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	〃	
9	1住南北アゼ上方	土・椀	13.7			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm以下の砂粒を含む	
10	〃	〃	13.7			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ？ (外)ヨコナデ？、ナデ？	1mm前後の砂粒を含む	内・外面摩耗
11	〃	〃	12.5	5.3		(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ？ (外)ヨコナデ？、ナデ？	〃	〃
12	1住フク土	〃	13.7	5.6		(内)橙色 (外)〃	〃		1～2mmの砂粒を含む	〃
13	1住アゼ上方	〃	12.9			(内)橙色 (外)〃	〃		1mm前後の砂粒を含む	〃
14	1住南北アゼ上方	〃	12.6	5.0		(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ？ (外)〃	〃	
15	1住アゼ上方	〃	13.5			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ？、ナデ？ (外)〃	〃	内・外面摩耗
16	1住南北アゼ上方	〃	12.3	4.6		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
17	1住南北アゼ上方フク土	〃	13.0			(内)橙色 (外)〃	〃	(内) (外)〃	〃	
18	1住アゼ上方	〃	12.1	4.4		(内)橙色 (外)〃	〃	(内) (外)〃	〃	
19	1住	〃	11.4			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ？ (外)ナデ？、ハケ	〃	
20	1住アゼ上方	〃	13.8	5.2		(内)黒色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ヨコナデ？ (外)ミガキ？	1mm以下の砂粒を含む	内面暗文内黒、外面一部黒斑有り
21	1住フク土	〃	16.4			(内)黒色 (外)橙色	〃	(内)ミガキ (外)	粒子の細かいもろい土	
22	1住南北アゼ上方	〃	14.9			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm以下の砂粒を含む	
23	1住	〃	12.3	4.7		(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ？、ナデ？ (外)ナデ？	1mm前後の砂粒を含む	内外面摩耗、外指頭圧痕
24	1住アゼ上方	〃	(12.0)	(4.8)		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
25	1住フク土	〃	10.7	4.9		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ (外)ヨコナデ、調整不明	1mm以下の砂粒を含む	内・外面摩耗
26	1住	〃	(14.7)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ？、ナデ？ (外)〃	1mm前後の砂粒を含む	
27	1住アゼ上方	土・椀（底部）				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
28	〃	土・椀（底部）				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1mm以下の砂粒を含む	
29	1住南北アゼ上方	土・鉢				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1mm前後の砂粒を含む	
30	1住	土・高坏			12.0	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内) (外)ヨコナデ	〃	

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
31	1住	土・高坏				(内)浅黄橙色 (外)〃	良	(内)工具によるケズリ (外)ミガキ	1mm前後の砂粒を含む	
32	1住南北アゼ上方	土・小型壺	8.2			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内) (外)	〃	
33	1住フク土	土・甕				(内)浅黄橙色 (外)〃	やや不良	(内)摩耗の為不明 (外)〃	粒子の細かいもろい土	
34	〃	土・壺				(内)橙色 (外)〃		(内)指頭圧痕、ハケ (外)摩耗の為不明	〃	
35	1住P－2	土・甕	13.0			(内)浅黄橙色 (外)〃		(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mmの砂の混じるもろい土	
36	1住南北アゼ上方	〃	16.1			(内)浅黄橙色 (外)〃	良	(内)ナデ (外)ヨコナデ、ハケ目	0.5mmの砂の混じる粒子の細かいもろい土	
37	1住	〃	15.7			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ケズリ (外)ハケ目	粒子の細かい1～2mmの砂の混じる土	
38	1住フク土	〃	(15.0)			(内)にぶい橙色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ヨコナデ (外)〃	粒子の細かいもろい土	
39	1住南北アゼ	〃	10.2	17.5		(内)灰色 (外)浅黄橙色	やや不良	(内)ナデ、ケズリ (外)ハケ	大粒の砂の混じる粒子の細かいもろい土	
40	1住フク土	〃				(内)淡黄色 (外)にぶい橙色	良	(内)ハケ、ケズリ (外)ハケ	粒子の細かい1～2mmの砂の混じる土	
41	1住アゼ上方	土・手づくね	4.8	4.6	4.2	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)ハケ残る	1mm以下の砂粒を含む	
42	〃	〃	5.0	4.7	4.5	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm前後の砂粉を含む	
43	〃	〃	4.7	5.1	4.1	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
44	〃	〃	4.2	4.5	4.3	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)ハケ残る	〃	
45	〃	〃	4.1	4.4	3.8	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm以下の砂粒を含む	
46	1住フク土	〃	4.4	4.2	4.0	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm前後の砂粒を含む	
47	1住アゼ上方	〃	4.3	4.1	4.1	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
48	〃	〃	4.4	4.0	3.0	(内)橙色 (外)〃		(内)ナデ (外)		
49	〃	〃			4.4	(内)橙色 (外)〃	良	(内) (外)	1mm前後の砂粒を含む	
50	1住フク土	〃			4.0	(内)灰白色 (外)〃	〃	(内) (外)	〃	
51	1住アゼ上方	〃			4.0	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)圧痕残る	〃	
52	〃	〃			4.1	(内)橙色 (外)〃	〃	(内) (外)	〃	
53	1住フク土	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
54	1住アゼ上方	〃			4.8	(内)黒色 (外)橙色	〃	(内)ナデ (外)	〃	
55	〃	〃			4.3	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)圧痕残る	〃	
56	〃	〃	5.1	4.0	4.4	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
57	〃	〃	4.9	3.6	4.1	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
58	1住フク土	〃	4.7	3.2	3.8	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
59	1住アゼ上方	〃	4.1	3.4	3.5	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm以下の砂粒を含む	
60	〃	〃	4.1	3.2	4.0	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm前後の砂粒を含む	

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	調整(内)(外)(上位より)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
61	1住アゼ上方	土・手づくね			3.7	(内)浅黄橙色 (外)〃	良	(内)ナデ (外)	1mm以下の砂粒を含む	
62	1住フク土	〃			4.3	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)圧痕残る	〃	
63	〃	〃			4.5	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm前後の砂粒を含む	
64	〃	〃			3.8	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
65	〃	〃			4.5	(内)橙色 (外)〃	〃	(内) (外)	〃	
66	〃	〃	7.5	4.3	5.1	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
67	1住アゼ上方	〃			4.0	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
68	〃	〃	5.4			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
69	1住フク土	〃	5.4			(内)灰黒色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ナデ (外)	〃	
70	1住アゼ上方	〃	5.0	2.9	3.0	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
71	1住フク土	〃	3.9			(内)灰白色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm以下の砂粒を含む	
72	1住アゼ上方	〃			3.1	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内) (外)	1mm前後の砂粒を含む	
73	1住フク土東西アゼ	〃			3.1	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
74	1住フク土	〃			3.2	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
75	1住アゼ上方	〃	5.1			(内)灰褐色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
76	1住	〃	4.4	4.4	2.7	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	底部一部黒斑有り
77	1住アゼ上方	〃			4.1	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm以下の砂粒を含む	
78	1住	〃	4.4			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm前後の砂粒を含む	
79	1住アゼ上方	〃	5.0			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
80	〃	〃			3.7	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm以下の砂粒を含む	
81	1住フク土	〃			3.8	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
82	1住アゼ上方	〃			3.0	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm前後の砂粒を含む	
83	1住フク土	〃			4.0	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)圧痕残る	〃	
84	〃	〃			3.4	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm以下の砂粒を含む	
85	1住アゼ上方	〃			4.6	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
86	1住フク土	〃			4.7	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm前後の砂粒を含む	
87	1住アゼ上方	〃			4.6	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
88	1住フク土	〃			4.0	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)摩耗の為不明	〃	
89	〃	〃			3.6	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)圧痕残る	〃	
90	〃	〃			5.1	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1mm以下の砂粒を含む	

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	調整(内)(外)(上位より)	胎土	備考
			口径	器高	底径					
91	1住フク土	土・手づくね			4.3	(内)灰黒色 (外)灰褐色	良	(内)ナデ (外)	1㎜前後の砂粒を少量含む	
92	〃	〃			4.8	(内)灰黒色 (外)橙色	〃	(内)ナデ (外)	1㎜前後の砂粒を含む	
93	〃	〃			3.8	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
94	1住東西アゼ	〃			3.6	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1㎜以下の砂粒を含む	
95	1住アゼ上方	〃	3.4	3.8	3.1	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1㎜前後の砂粒を含む	
96	〃	〃	3.9			(内)黄灰色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
97	〃	〃	3.8	3.6		(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内) (外)	1㎜以下の砂粒を含む	
98	〃	〃	7.0	3.1		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1㎜前後の砂粒を含む	外、一部黒斑有り
99	1住	〃	5.3	3.1		(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
100	1住アゼ上方	〃	5.0	2.7		(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1㎜以下の砂粒を含む	底部一部黒斑有り
101	1住フク土	〃	5.8			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	1㎜前後の砂粒を含む	
102	〃	〃	5.2			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	
103	〃	〃	4.6			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)	〃	

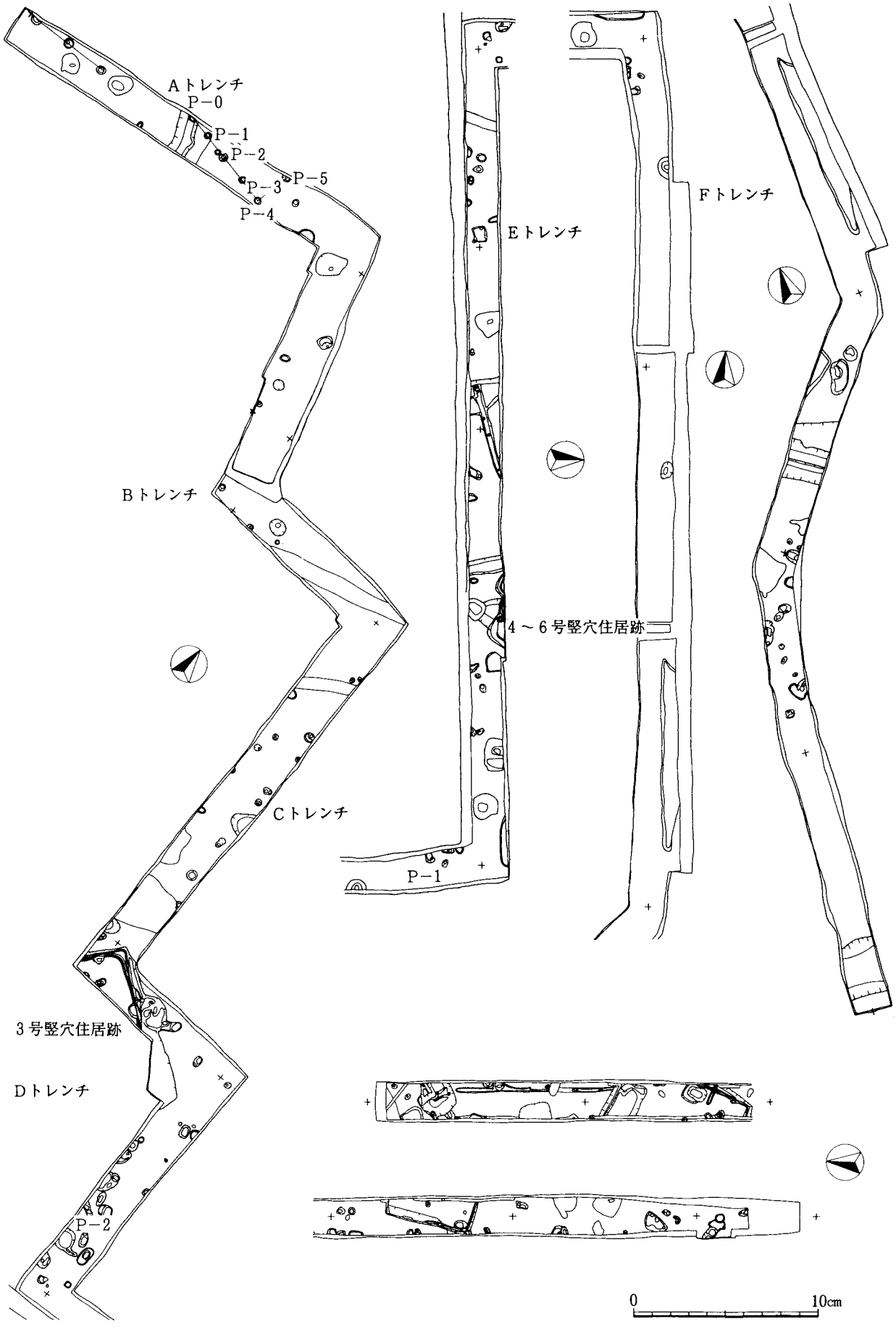
3号竪穴住居跡

3号竪穴住居跡はDトレンチ西端で確認された。重複の関係から、大形の住居跡をa、小形の住居跡をb、コーナー部のみの住居跡をcとした。新旧はaが一番古くbが一番新しい。bの覆土には地山質のブロックが多く含まれることより、当初はaを新しいと誤認していたため、aとbの遺物が混じってしまった。aは掘り込みが浅く、東コーナーに寄って長方形気味の土坑が掘られている。床面から高坏が、壁溝直上から小形壺が出土している。bは北コーナーで須恵器杯身を椀に重ね、床面からやや浮いた状態で出土している。また、主柱穴からはこれとは別器形の椀が出土している。硬化した床面は確認されなかったが、2㎝ほどの薄層を剥ぐと旧住居跡の柱穴が確認できた。整地土層の存在を示すものであり興味深い。cはコーナー部だけだが、ここに床面から浮いた状態で高坏の破片などがあり、この下位に赤色顔料が見られた。第34図に遺構図、第38図に遺物実測図を載せた。

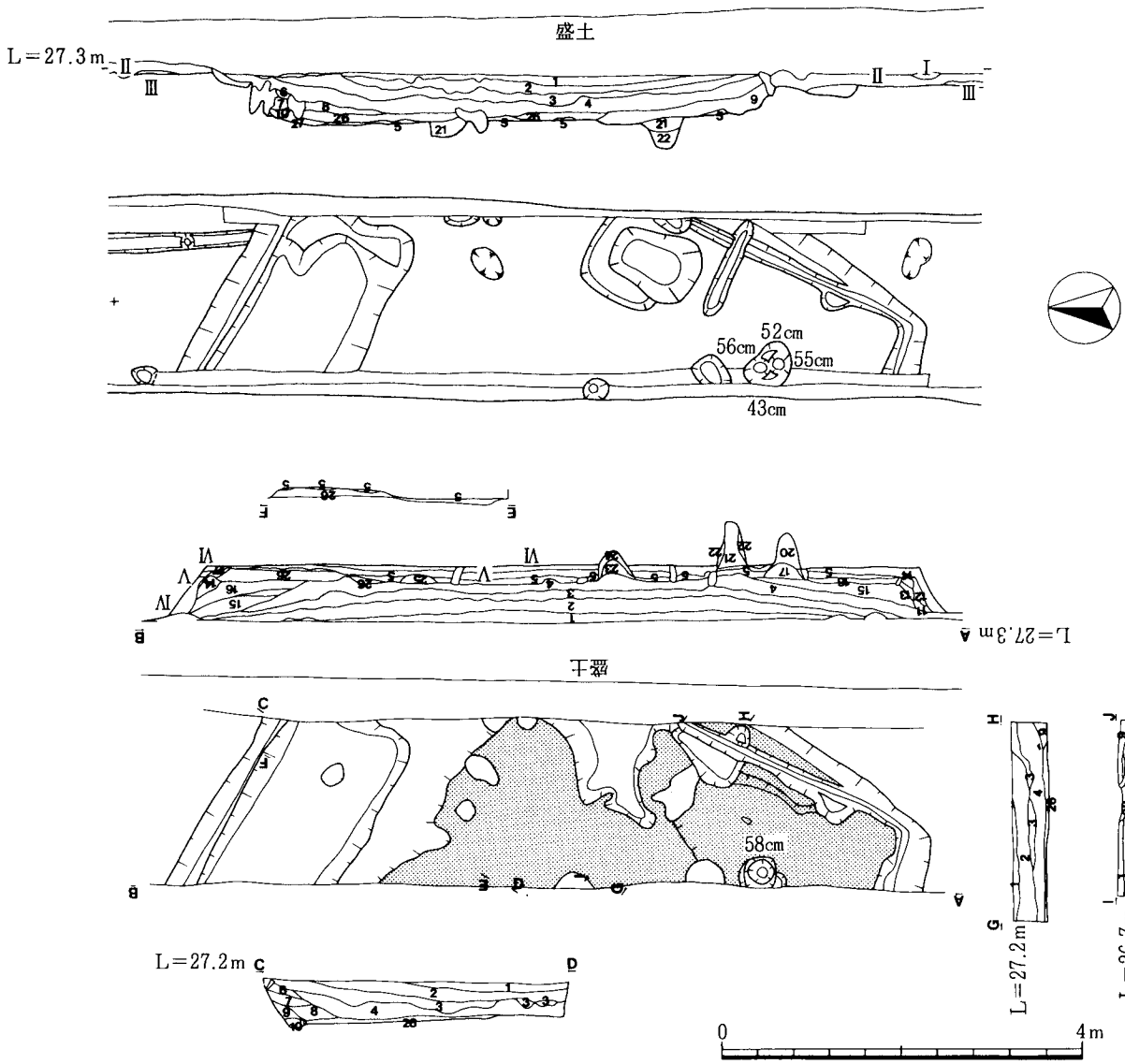
4・5・6号竪穴住居跡

4・5・6号住居跡はEトレンチのやや東よりで確認された。コーナー部のみの確認ではっきりしたことがわからない。4号竪穴住居跡の壁溝上から小形壺が出土している。この他、Eトレンチのコーナー部付近の柱穴から小形壺が出土している。第36図に遺構図を、第38図に遺物実測図を載せた。

この他、第39図には潮津出村遺跡と金場遺跡間の開析谷斜面から採集した遺物を載せた。出村B遺跡の遺構は'93年度調査区をのぞき、その遺物から5世紀後半と考えられる。



第32図　潮津出村B遺跡'94年度調査区（A～Fトレンチ）全体図（S＝1/300）



1	茶灰色砂質土（旧耕土）	7	茶褐色砂質土	13	暗茶褐色砂質土	19	暗茶灰色砂質土	25	暗茶褐色砂質土
2	黒色砂質土	8	暗茶褐色砂質土	14	暗茶褐色砂質土	20	暗茶灰色砂質土	26	暗茶灰色砂質土
3	茶褐色砂質土	9	暗茶褐色砂質土	15	暗茶灰色砂質土	21	暗茶灰色砂質土	27	黄褐色砂質土
4	暗茶褐色砂質土	10	暗黄褐色砂質土	16	暗茶灰色砂質土	22	黄褐色砂質土	28	暗黄茶褐色砂質土
5	黄褐色砂質土	11	暗茶褐色砂質土	17	暗黄褐色砂質土	23	暗茶褐色砂質土	29	暗黄褐色砂質土
6	茶褐色砂質土	12	暗茶褐色砂質土	18	暗茶灰色砂質土	24	暗茶褐色砂質土		

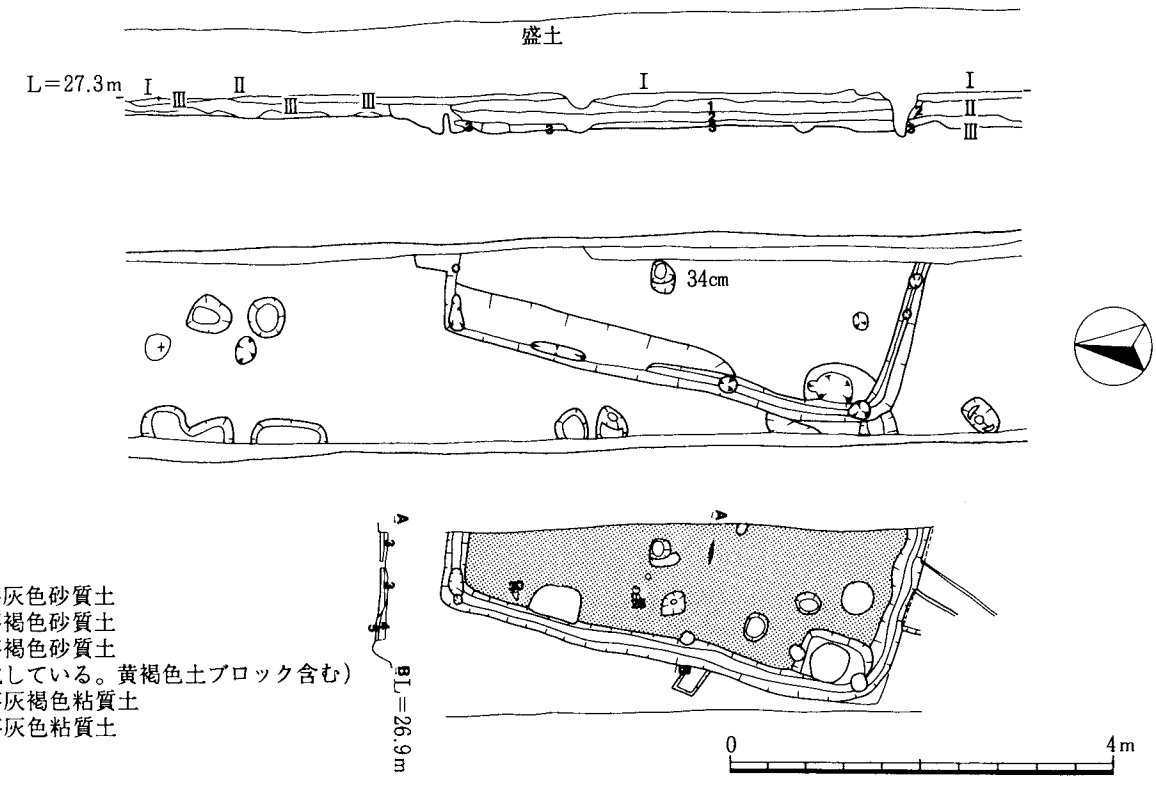
形　態　方形
規　模　7.5m×（7.5m）
主柱穴　4本か（2本のみ検出）
床　黄褐色の硬化した土層あり。下層ははっきりしない部分あり。
炉　地床炉　住居中央やや南寄り
壁　溝　全周か。部分的に壁から離れる。

住居内土坑　北壁下に1基　長方形　1.5m×2m以上×0.15m
東壁下床面下に2基　方　形　1m×1m×0.05m
長方形　1m×0.7m×0.1m

遺　物　小片が多い。覆土中より多く出土。
古墳時代後期5C後半

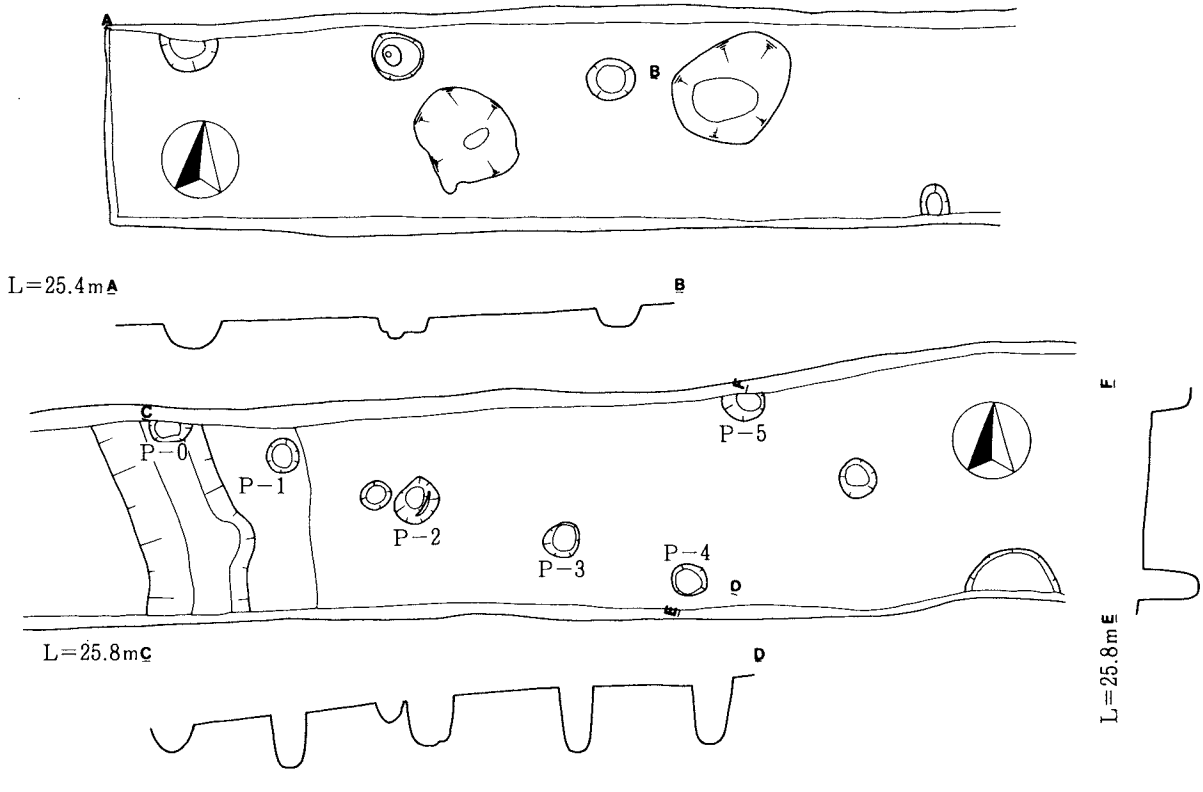
備　考　床面の状況、柱穴、壁溝、住居内土坑のあり方より3回程度の建て替えが想定できる。

第33図　潮津出村B遺跡Aトレンチ1号竪穴住居跡（上段は床面除去後）（S＝1/80）

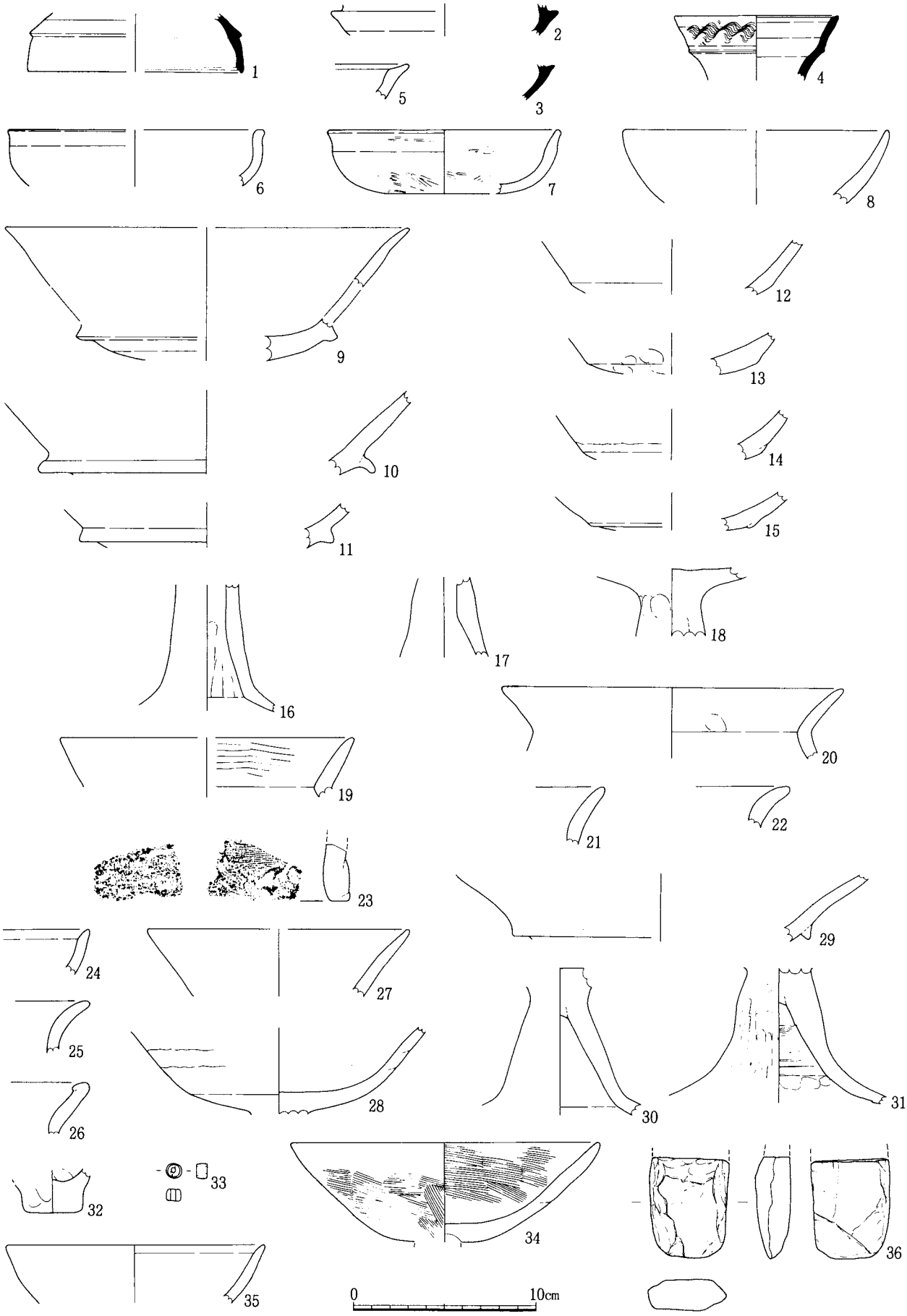


1　暗茶灰色砂質土
2　暗茶褐色砂質土
3　暗茶褐色砂質土
（硬化している。黄褐色土ブロック含む）
4　暗茶灰褐色粘質土
5　暗茶灰色粘質土

形　態	方形	壁　溝	全周か
規　模	5m×（5m）	住居内土坑	南西コーナー部、長方形　0.7m×0.5m×0.1m
主柱穴	2本か（1本のみ検出）	遺　物	小片多い。覆土から少量出土
床	暗茶褐色の硬化した土層。		古墳時代後期5C後半
炉	未検出（調査区外）		



第34図　潮津出村B遺跡Aトレンチ2号竪穴住居跡（上段は床面除去後）（S=1/80）
Bトレンチ1号掘立柱建物（上）・2号掘立柱建物（下）（S=1/80）



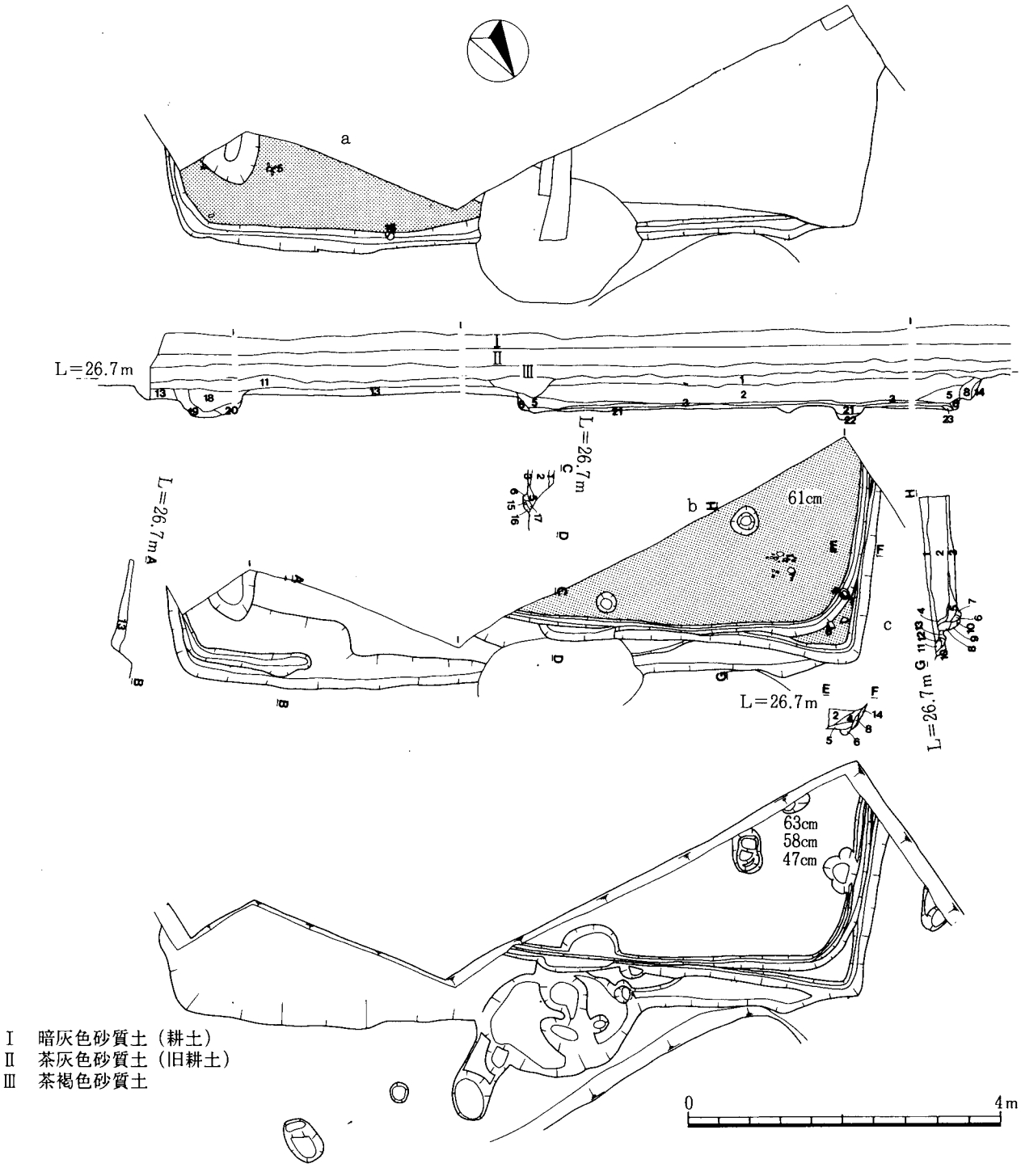
第35図　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ出土遺物（S＝１/３）（33はS＝１/２）

表13　潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ出土土器観察表・石器計測表

図版No.第図	出土地点	器種	法量（cm）			色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)（上位より）	胎土	備考
			口径	器高	底径					
1	1住フク土	須・坏蓋	11.8			(内)灰色 (外)〃	良	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	2㎜程度の白い礫1個含む、わずかに空気含む	
2	〃	須・坏身				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	微砂粒含む	
3	旧表土包含層（1住含む）	須・坏蓋				(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	〃	
4	1住フク土	須・甕	8.8			(内)暗オリーブ色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ (外)〃	〃	櫛歯状工具による波状文
5	1住	土・椀				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
6	1住フク土	〃	(14.0)			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)摩耗の為不明	1㎜以下の砂粒含む	
7	1住フク土上面付近	〃	12.6	3.5		(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ (外)〃	〃	一部黒斑有り
8	1住フク土住居内土坑（古）	〃	14.0			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
9	1住フク土	土・高坏	(21.9)			(内)にぶい黄褐色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ハケ、ナデ (外)摩耗の為不明	〃	内面赤彩痕？
10	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	〃	
11	1住土層断面壁	〃				(内)にぶい黄褐色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃	〃	
12	1住フク土	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
13	〃	〃				(内)浅黄橙色 (外)橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ナデ	〃	指頭痕
14	〃	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
15	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	〃	
16	〃	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	〃	
17	1住フク土	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ？ (外)〃	〃	
18	1住フク土	〃				(内)橙色 (外)浅黄色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ナデ	〃	指頭痕
19	〃	土・甕	16.0			(内)にぶい橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)摩耗の為不明	〃	
20	〃	〃	18.2			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	微砂粒含む	指頭痕
21	〃	〃				(内)にぶい橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ	0.5㎜以下の砂粒少し含む	
22	〃	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃	微砂粒含む	外面化粧土か？
23	〃					(内)黒褐色 (外)浅黄橙色		(内) (外)		
24	2住フク土	土・椀				(内)橙色 (外)〃	良	(内)摩耗の為不明 (外)ロクロナデ	1㎜以下の砂粒少し含む	
25	2住フク土	土・甕				(内)淡黄橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)ヨコナデ	〃	
26	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)ヨコナデ	2㎜以下の砂粒含む	
27	〃	土・高坏	14.0			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ていねいなヨコ方向のナデ	1㎜以下の砂粒含む	
28	〃	〃				(内)橙色 (外)浅黄橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
29	〃	土・高坏（坏部）				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1.5㎜以下の砂粒含む	
30	〃	土・高坏				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)〃 (外)〃	1㎜以下の砂粒含む	

図版No.第図	出土地点	器種	法量（cm）			色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)（上位より）	胎土	備考
			口径	器高	底径					
31	旧表土包含層（2住含む）	土・高坏				(内)にぶい黄橙色 (外)〃		(内)ヨコナデ (外)工具による強いナデ		指おさえの痕わずかに残る
32	2住フク土	土・手づくね			3.2	(内)にぶい黄褐色 (外)〃	良	(内)指調整 (外)〃		
34	1土坑	土・高坏	16.8			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)〃	1mm以下の砂粒多く含む	
35	表土包含層（2住含む）	土・椀	14.0			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm以下の砂粒含む	

図版No.第図	出土地点	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（cm）	備考
33	Aトレンチ3区	小玉	0.55	0.55	0.4	0.2	
35	〃	打製石斧	残存 5.7	残存 4.2	1.9	57.2	



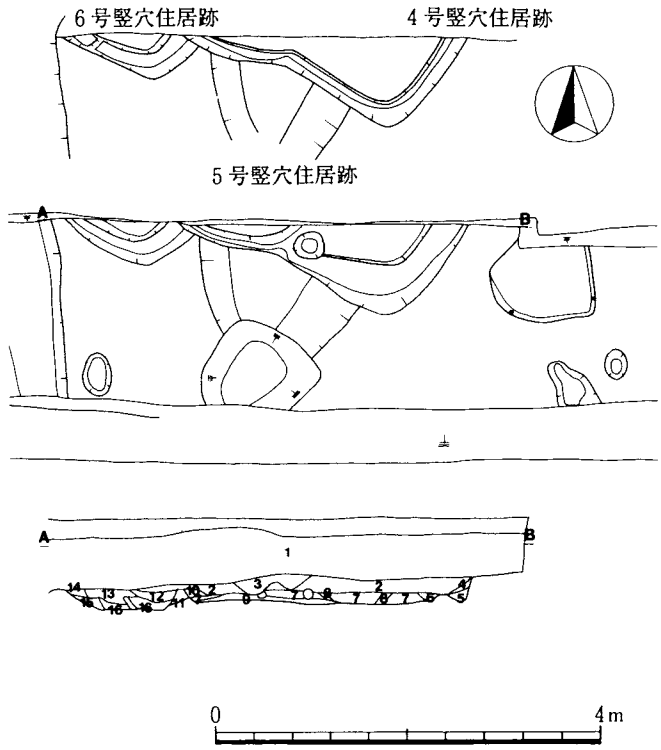
Ⅰ　暗灰色砂質土（耕土）
Ⅱ　茶灰色砂質土（旧耕土）
Ⅲ　茶褐色砂質土

1　茶灰色砂質土
2　暗茶灰色砂質土
3　茶褐色砂質土
4　暗茶灰色粘質土
5　暗茶灰色砂質土
（黄褐色土ブロック含む）
6　暗茶灰色砂質土
7　暗黄褐色砂質土
8　暗茶褐色粘質土
9　暗茶灰色砂質土
10　暗茶褐色砂質土
11　暗茶褐色砂質土
12　暗茶褐色砂質土
13　濁暗黄茶褐色砂質土
14　黄褐色砂質土
15　暗茶褐色砂質土
（黄褐色土ブロック含む）
16　暗茶褐色砂質土
（黄褐色土ブロック多量に含む）
17　暗茶褐色砂質土
（かたくしまっている）
18　暗茶褐色砂質土
19　茶褐色砂質土
（黄褐色土ブロック含む）
20　黄灰色砂質土
21　濁黄褐色砂質土
22　茶灰色砂質土
23　暗茶灰色砂質土

1～7、15～17、21、23はb住居跡、8～10、14はc住居跡、11～13、18～20はa住居跡

第36図　潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡
（上段は３号竪穴住居跡ａ、中段は３号竪穴住居跡ｂ・ｃとａの床面除去後）
（下段は３号竪穴住居跡ｂ・ｃの床面除去後）（S＝１/80）

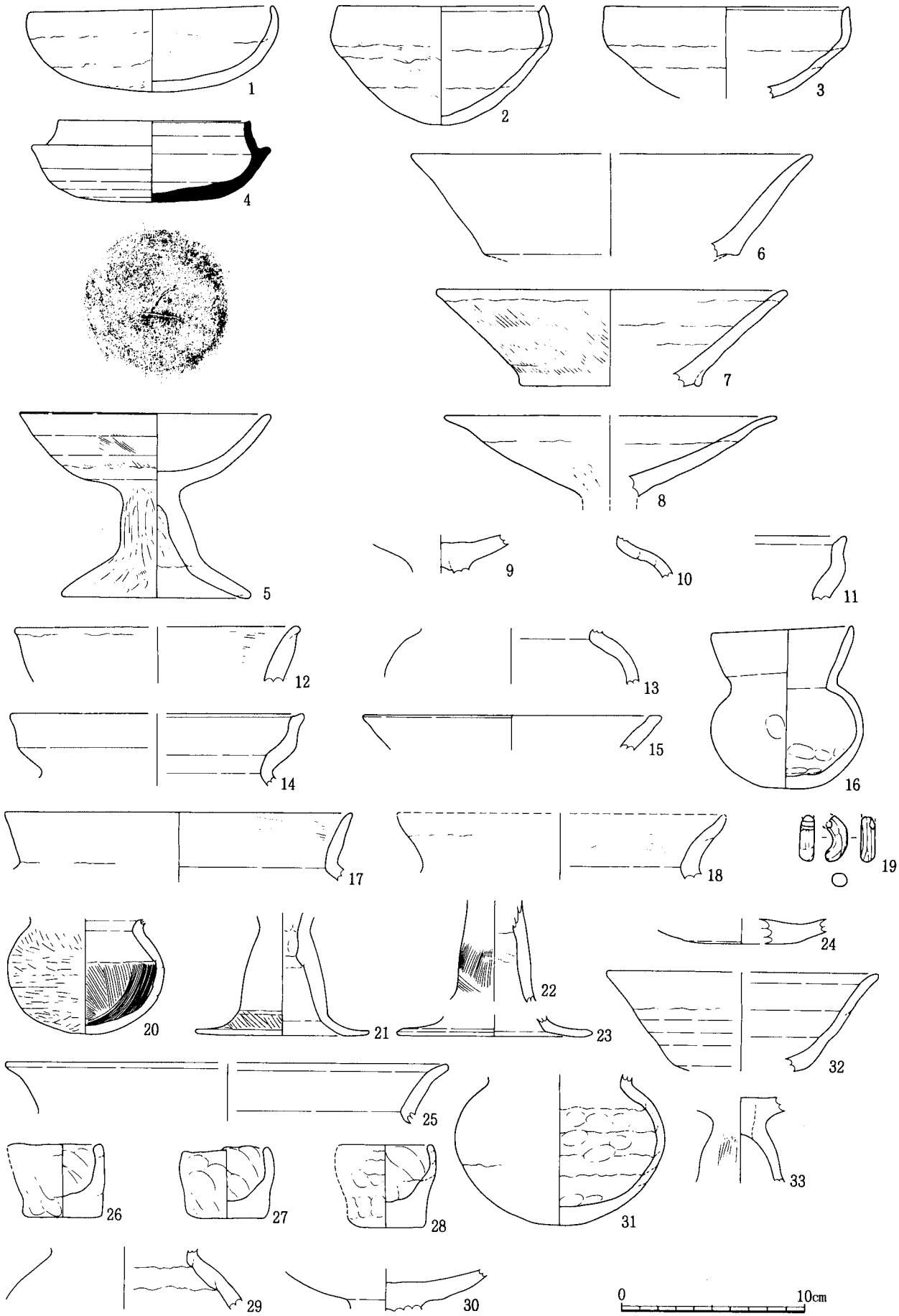
形　態　　4号、6号は方形か。
　　5号は不明。
規　模　　不明
主柱穴　　不明
　床　　黄褐色土の土層。
　炉　　不明
壁　溝　　4号、6号は確認。
　　5号は不明。
住居内土坑　不明
遺　物　　少量出土　古墳時代後期5ｃ後半
備　考　　いずれもコーナー部を確認したにとどまる。



1　暗灰色砂質土（耕土）
2　暗茶褐色砂質土
3　暗茶褐色砂質土（黄褐色土混じる）
4　暗茶褐色砂質土（黄褐色土混じる。3層より暗い）
5　暗茶褐色砂質土（黄褐色土ブロック含む）
6　黒灰色砂質土
7　褐色砂質土
8　褐色粘質土
9　黄褐色砂質土
10　黄褐色土
11　濁褐色土
12　濁黄褐色土
13　暗褐色土
14　暗褐色土（13層より暗い）
15　濁黄褐色土（黒色土混じる）
16　黒褐色土

第37図　潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ４・５・６号竪穴住居跡（下段は床面除去後）（S＝１/80）

形　態　　いづれも方形か。ａ、ｂはコーナー部が若干丸みをおびる。
規　模　　ａ　9.2m×（9.2m）
　　ｂ（6.4m）×（6.4m）
　　ｃ（6.5m）×（6.5m）
主柱穴　　ａは未確認。ｂ、ｃは４本か。
　床　　ａ、ｂは黄褐色土、ｃはやや暗い黄褐色土の土層他の住居跡の様に硬化していない。
　炉　　未確認（調査区外か）
壁　溝　　全周か
住居内土坑　ａは北東コーナー部で確認。規模は深さ0.4m。ｂ、ｃは未確認。
遺　物　　ａは床面で高坏、壁溝直上で壺など出土。ｂは床面で甕、壁溝の上面でやや床面から浮いて、須恵器杯身と土師器椀が入れ子状で出土。ｃは床面から高杯出土。古墳時代後期５Ｃ後半
備　考　　当初ａ、ｂ、ｃの切り合いを誤認遺物の多くはｂの覆土中からの出土と思われるかａのものと混じってしまった。
床面は硬化しておらず、ｂの床面でベース土と思われたが、剥がして見ると上面では確認できなかった。
柱穴を検出、21層は床面の整地土と考えられる。



第38図　潮津出村Ｂ遺跡Ｂ～Ｅトレンチ出土遺物（S＝１/３）（19はS＝１/２）

表14　潮津出村Ｂ遺跡Ｂ～Ｅトレンチ出土土器観察表・石器計測表

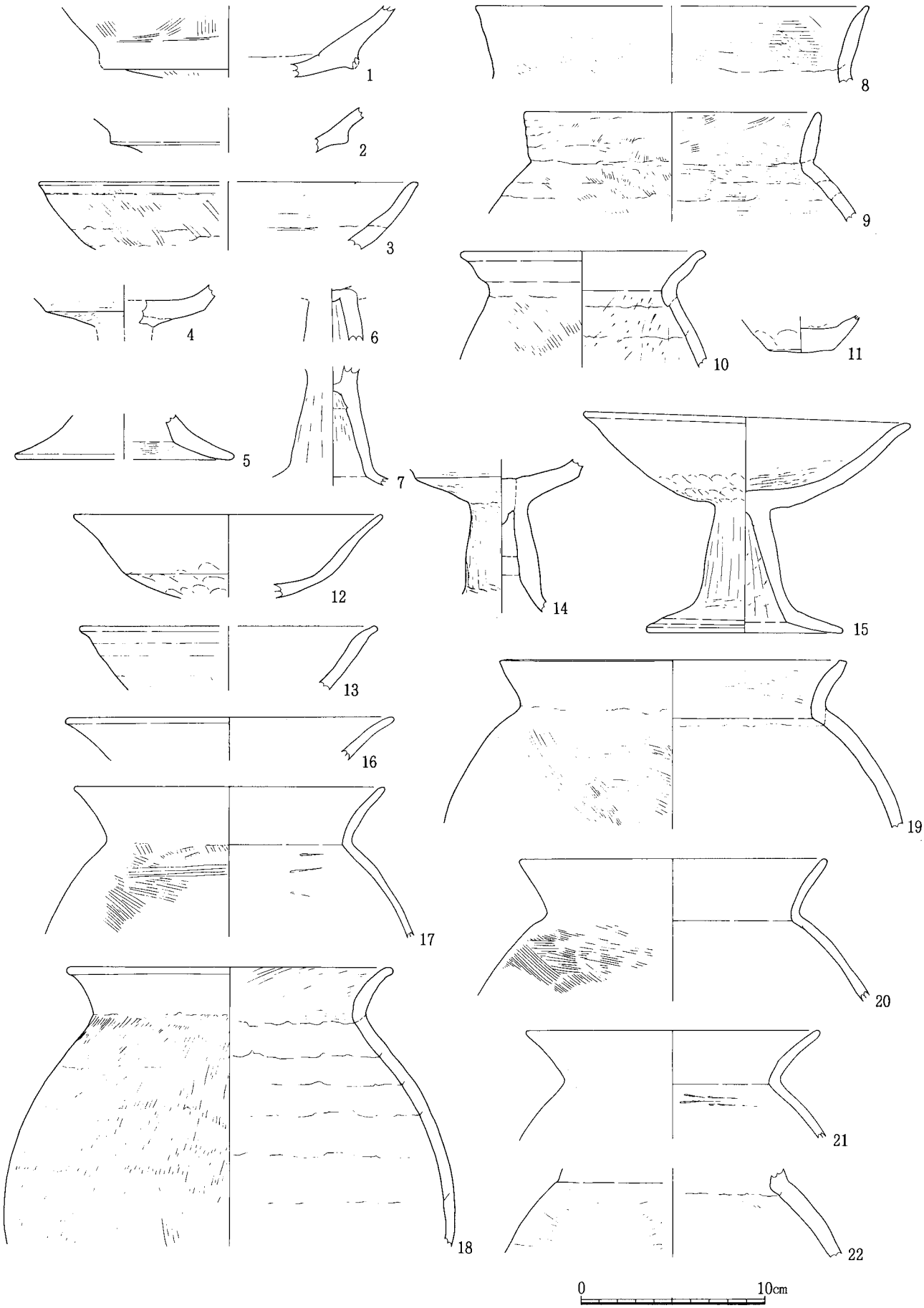
図版No.第図	出土地点	器種	法量（cm）			色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)（上位より）	胎土	備考
			口径	器高	底径					
1	3住bフク土下層	土・椀	13.2	4.6		(内)橙色 (外)〃	良	(内)ミガキ (外)ミガキ、ケズリ痕	1㎜程度の砂粒少量含む	指頭圧痕
2	3住b柱穴	〃	11.4	6.6		(内)黄橙色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ヨコナデ (外)ハケ	2㎜程度の砂粒多く含む	すす付着
3	〃	〃	13.2			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ、ナデ	1㎜程度の砂粒少量含む	〃
4	3住bフク土下層	須・坏身	10.5	4.5		(内)灰色 (外)〃	〃	(内)ロクロナデ、ナデ (外)ロクロナデ、ロクロケズリ	1㎜以下の砂粒含む	ヘラ記号
5	3住a床面土器	土・高坏	13.8	10.2	10.4	(内)にぶい橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ナデ (外)ヨコナデ、ナデ、ハケ、ミガキ	1㎜程度の砂粒含む	
6	3住bフク土上層	土・高坏（坏部）	21.8			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	2.3㎜以下の砂粒含む	
7	3住b	土・高坏	19.0			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ハケ	0.5～1㎜程度の砂粒多く含む	
8	3住b上層	〃	(18.2)			(内)淡黄色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ	1㎜程度の砂粒多く含む	ケズリ痕
9	3住a	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1㎜程度の砂粒含む	
10	3住bフク土中層	土・壺				(内)にぶい橙色 (外)〃	〃	(内) (外)	1㎜程度の砂粒少量含む	
11	3住b上層	〃				(内)淡黄色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
12	3住b床面	土・甕	(15.4)			(内)褐灰色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ハケ (外)摩耗の為不明	〃	
13	3住bフク土中層	土・壺				(内)橙色 (外)〃	〃	(内) (外)	1㎜以下の砂粒含む	
14	3住a	〃	(16.0)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
15	3住a内土坑	土・甕	16.4			(内)にぶい橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)〃	0.5㎜以下の砂粒含む	
16	3住a	土・小壺	7.5	8.8	丸底	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、指ナデ、指頭痕 (外)ヨコナデ、指頭痕、ナデ	1㎜以下の砂粒含む	
17	3住b上層	土・甕	19.0			(内)にぶい橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ハケ (外)ヨコナデ	0.5㎜程度の砂粒少量含む	
18	3住b床面	〃	(18.0)			(内)褐灰色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)ヨコナデ	1㎜程度の砂粒少量含む	
20	4住フク土	土・小型壺				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)ミガキ	1㎜前後の砂粒含む	
21	〃	土・高坏			9.6	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)工具によるナデ？ (外)摩耗、ハケ	〃	
22	〃	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)摩耗、ハケ	〃	
23	〃	高坏・土（脚部）			10.8	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	〃	
24	〃	土・甕（底部）			6.0	(内)黒色 (外)〃	〃	(内) (外)	〃	指頭痕
25	5住pit	土・甕	(24.0)			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗、ヨコナデ？ (外)〃	〃	
26	P－4	土・手づくね	5.3	4.1	4.4	(内)にぶい橙色 (外)〃	〃	(内) (外)	1㎜以下の砂粒含む	
27	P－0	〃	4.7	4.0	4.4	(内)にぶい褐色 (外)にぶい橙色	〃	(内) (外)	〃	
28	〃	〃	5.1	4.6	4.3	(内)にぶい褐色 (外)〃	〃	(内) (外)	〃	
29	包含層	土・壺				(内)明赤褐色 (外)〃	〃	(内)ナデ (外)〃	〃	
30	P－2	土・高坏				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)指による調整痕		

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
31	P－1	土・小型壺				(内)浅黄色 (外)〃	良	(内)ナデ (外)〃	1mm以下の砂粒多く含む	一部黒斑有り
32	P－2	土・高坏	14.8			(内)橙色 (外)赤橙色	〃	(内)摩耗の為不明 (外)ヨコナデ	〃	
33	包含層	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ミガキ、ナデ (外)ナデ	1mm以下の砂粒含む	

図版No.第図	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	備考
19	3住b	勾玉	1.7	0.6	0.5	0.8	

表15　潮津出村B遺跡Fトレンチ道路斜面出土土器観察表・石器計測表

図版No.第図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 (内)(外)	焼成	調整 (内)(外)(上位より)	胎土	備考
1	南壁谷埋土	土・高坏	20.7			(内)橙色 (外)〃	良	(内)ハケ、ミガキ (外)ヨコナデ、ハケ	1mm程度の砂粒少量含む	
2	包含層	〃				(内)橙色 (外)〃	〃	(内) (外)ハケ、ヨコナデ	1mm前後の砂粒を含む	(内)ハクリ
3	谷埋土道路壁	〃					〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
4	西壁谷埋土	〃				(内)にぶい橙色 (外)橙色	〃	(内)ミガキ (外)〃	0.2mm程度の砂粒多く含む	
5	谷埋土道路壁	土・高坏(脚部)			(11.9)	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ目、ナデ (外)ナデ	粒子の細かいもろい土	
6	〃	土・高坏				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)工具によるナデ (外)摩耗の為不明	1mm前後の砂粒含む	
7	〃	〃				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)工具によるナデ (外)摩耗の為不明	〃	
8	南壁谷埋土	土・甕	(21.4)			(内)淡黄色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)〃	0.5mm程度の砂粒多く含む	
9	〃	土・壺	15.9			(内)褐灰色 (外)〃	〃	(内)ハケ (外)〃	1mm程度の砂粒少量含む	
10	谷埋土道路壁	土・甕	13.0			(内)淡黄橙色 (外)黄橙色	〃	(内)ヨコナデ、ケズリ (外)ヨコナデ、ナデ	〃	
11	〃	土・手づくね			3.6	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm前後の砂粒を含む	
12	北壁谷埋土住居跡	土・高坏(坏部)	16.8			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ミガキ (外)ヨコナデ、ナデ	〃	指頭圧痕残る
13	北壁谷埋土	土・椀	(16.2)			(内)にぶい黄橙色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ミガキ？ (外)ハケ	1mm程度の砂粒多く含む	
14	北壁谷埋土	土・高坏				(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ナデ？ (外)ミガキ	1mm程度の砂粒少量含む	
15	北壁谷埋土住居跡	〃	17.7	12.0	10.6	(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ、ナデ、ミガキ？	1mm前後の砂粒を含む	内面工具によるケズリ 外指頭圧痕
16	〃	〃			18.0	(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ、ヨコナデ (外)ヨコナデ	〃	
17	〃	土・甕				(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ？、ハケ (外)ヨコナデ、ケズリ、ナデ	〃	
18	〃	〃	17.6			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ハケ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	1～1.5mm程度の砂粒多く含む	すす付着
19	北壁谷埋土	〃	18.1			(内)浅黄橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ、ハケ、ナデ (外)ヨコナデ、ハケ	1.5～2mm程度の砂粒少量含む	
20	北壁谷埋土住居跡	〃	16.4			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)摩耗の為不明 (外)〃	1mm前後の砂粒を含む	
21	〃	〃	15.6			(内)橙色 (外)〃	〃	(内)ヨコナデ？、ケズリ、ナデ (外)摩耗の為不明	〃	
22	北壁谷埋土	〃				(内)にぶい橙色 (外)浅黄橙色	〃	(内)ナデ (外)ハケ	0.2～0.5mm程度の砂粒多く含む	



第39図　潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ（１、２）・道路南側斜面（３～11）・北側斜面（12～22）出土土器（S＝１/３）

第4章　まとめ

今回の報告では時間的余裕がなく、また、筆者に力量もないことから著しく不備な報告となってしまったことをまずお詫びしたい。特に石川県立埋蔵文化財センターを退出したにもかかわらず、報告原稿を書いていただいた福海貴子氏には申し訳ない。今回の調査で気づいたことを上げまとめに代えたい。

今回の調査では14棟の竪穴住居跡を確認し、内11棟を発掘調査した。全体が調査可能であったのは1棟のみであり、また内1棟は時代が異なる。形態については不明な点が多いものの、方形あるいは、隅円方形と思われる。主柱穴が2本以上確認でき壁面までの距離が計測、或いは想定可能な住居跡は4例あるが、いずれも、柱穴間の距離のほぼ2分の1の長さが主柱穴と壁面までの距離となっている。重複を含めれば30棟前後となる内の4例であるから、企画性というにはほど遠いかもしれないが、これは、他遺跡の例を集成するとともに尺度の問題とも合わせ今後の検討課題としておきたい。

今回調査可能であった住居跡全てにおいて床面の整地土が確認された。硬化したものもあればそうでないものもある。金場遺跡1号竪穴住居跡では新旧の柱穴の上面から覆土上部までに黄褐色の土が認められた。出村B遺跡Dトレンチ3号竪穴住居跡では、一番新しいbの床面の床を剥いで古い段階の柱穴が確認された。この床面は通常貼り床と呼んでいる硬化したものとは異なり、ふつうなら調査されないベース面がやや汚れていると入った程度の土であった。他遺跡の事例では壁溝上面を板痕跡を残して貼り床が覆っている例があり(註1)、これらからすると床面の整形は、柱穴設置や板壁設置の後と考えて良いだろう。今回の調査では硬化した整地土の下端が地山と区別できにくい状態になっている例や、断ち割ってみると硬化していない床面でも上部が汚れている例が多かった。小松市教育委員会の望月精司氏に拠れば、小松市額見町遺跡の7世紀の竪穴住居跡には湿気抜きのために床面下に土坑が掘られ、この上を貼り床が覆っているという(2)。また、鹿西町谷内ブンガヤチ遺跡では弥生時代終末の例だが整地土を入れ床面を形成する例が幾つか見られる（栃木他1995)。金沢市梅田遺跡ではこの整地土上面に更に薄い層が確認でき、この上面に土器が散らばっていたという(3)。これらの例からすると、掘り方の深さや整地土層の厚さは、その地点により様々であるが、一旦掘り方を作り上屋構造などを設置した後に床面を整形・構築するといった行為が行われていたといえる。金場遺跡や出村B遺跡では大きく掘り込むような掘り方は持っていなかった。また、前述の額見遺跡では床面下部の地層により床の構築方法を変えているという。床面形成や構築順序の問題は、現在の筆者の力量では発掘調査の技量を含めおよばない点が多いため、1つの考え方として呈示し、今後の事例増加を待ちたい。

この付近の考古学的研究としては故中口　祐氏のすばらしい業績がある（中口　1952　1953　1973等)。この調査を終えたときにはこれらに追いつくよう切磋琢磨するつもりであったが出来なかった。今回の調査は中口が「石川県江沼郡旧潮津潟周辺の遺跡」などで報告した地点の一部を発掘調査したことになり、潮津上出遺跡（片山津中学校社会科クラブ　1968)、潮津スワンヤブ遺跡（片山津中学校社会科クラブ　1970)、潮津金場遺跡、潮津出村B遺跡の4つの集落遺跡の様相が少し見えるようになった。潮津出村B遺跡ではその出土遺物からTK23式期（5世紀後半)、潮津金場遺跡ではTK47式期（5世紀末）潮津スワンヤブ遺跡では弥生時代末から古墳時代初め、潮津上出遺跡では縄文時代後期後半から晩期の時期があたえられ、潮津スワンヤブ、潮津上出ではこれ以外の遺物も確認されている。中口の業績を辿り想像を逞しくすれば旧潮津潟の南岸には、各時期ごとに地点をかえながら、連綿と続く集落の姿が浮かび上がってくる。

註

1）　自分が経験した例としては宿東山遺跡10号住（北野他1987)、東小室ボガヤチ遺跡1号竪穴住居跡　1995年発掘調査　現在整理中）等がある。

2) 現地説明会の際にお話をうかがった。同様な例は土蔵の床の構築方法にもあるらしい。この土蔵の話は額見遺跡の現地説明会に来られていた方や、加賀市在住の伊藤常次郎氏からうかがった。関東の古墳・古代の竪穴住居に見られる床下土坑も同様な目的なのであろうか。

3) 調査担当者の一人である㈳埋蔵文化財保存協会柿田祐司氏の教示による。なお、柿田氏によれば整地土を入れる行為は、竪穴住居構築時だけではなく、以後繰り返し行われるのではないかということであった。

引用・参考文献

片山津中学校社会科クラブ　1970　『潮津土師遺跡の研究』

片山津中学校社会科クラブ　1968　『潮津上出遺跡の研究』

北野博司他　1987　『宿東山遺跡』石川県立埋蔵文化財センター

栃木英道他　1995　『谷内・杉谷遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター

中口　祐　1952　「江沼郡片山津町字宮地にある大塔礎石と関係ある上代大聚落遺跡について」『石川考古学研究会会誌』第4号

〃　1953　「スワトン山の石鏃について」『石川考古学研究会会誌』第5号

〃　1973　「石川県江沼郡旧潮津潟周辺遺跡の研究」『石川考古学研究会会誌』第6号石川考古学研究会

報告書抄録

ふりがな	うしおづいせきぐん
書名	潮津遺跡群
副書名	県営ほ場整備事業潮津地区にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	本田秀生　福海貴子
編集機関	石川県立埋蔵文化センター
所在地	〒921　石川県金沢市米泉4丁目133番地（TEL 0762－43－7692）
発行年月日	1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
潮津スワンヤブ下遺跡	加賀市潮津町	17206	340	36度21分18秒	136度21分33秒	1993. 7. 1～1993. 7. 20	80m²	県営ほ場整備事業
潮津ドウダン遺跡	〃	〃	342	36度21分10秒	136度21分34秒	1993. 7.21～1993. 7.28	120m²	〃
潮津金場遺跡	〃	〃	新発見	36度21分5秒	136度21分23秒	1993. 7.21～1993.10.18	1,770m²	〃
潮津出村B遺跡	〃	〃	343	36度21分1秒	136度21分34秒	1993. 9. 7～1993.10.17 1994. 5.25～1994. 7.29	650m²	〃

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
潮津スワンヤブ下遺跡	集落跡	縄文・弥生 古代・中世	竪穴住居跡（古代） 溝、土坑	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器	縄文時代の包含層は弥生時代以降の検出面下へ深く潜るため部分調査
潮津ドウダン遺跡	〃	縄文～古代	溝	縄文土器、須恵器、土師器	削平が著しい
潮津金場遺跡	〃	古墳時代	竪穴住居跡　3棟 土坑	須恵器、土師器	5世紀末の集落跡
潮津出村B遺跡	〃	古墳時代	竪穴住居跡　7棟	須恵器、土師器	5世紀後半の集落跡

図　　版

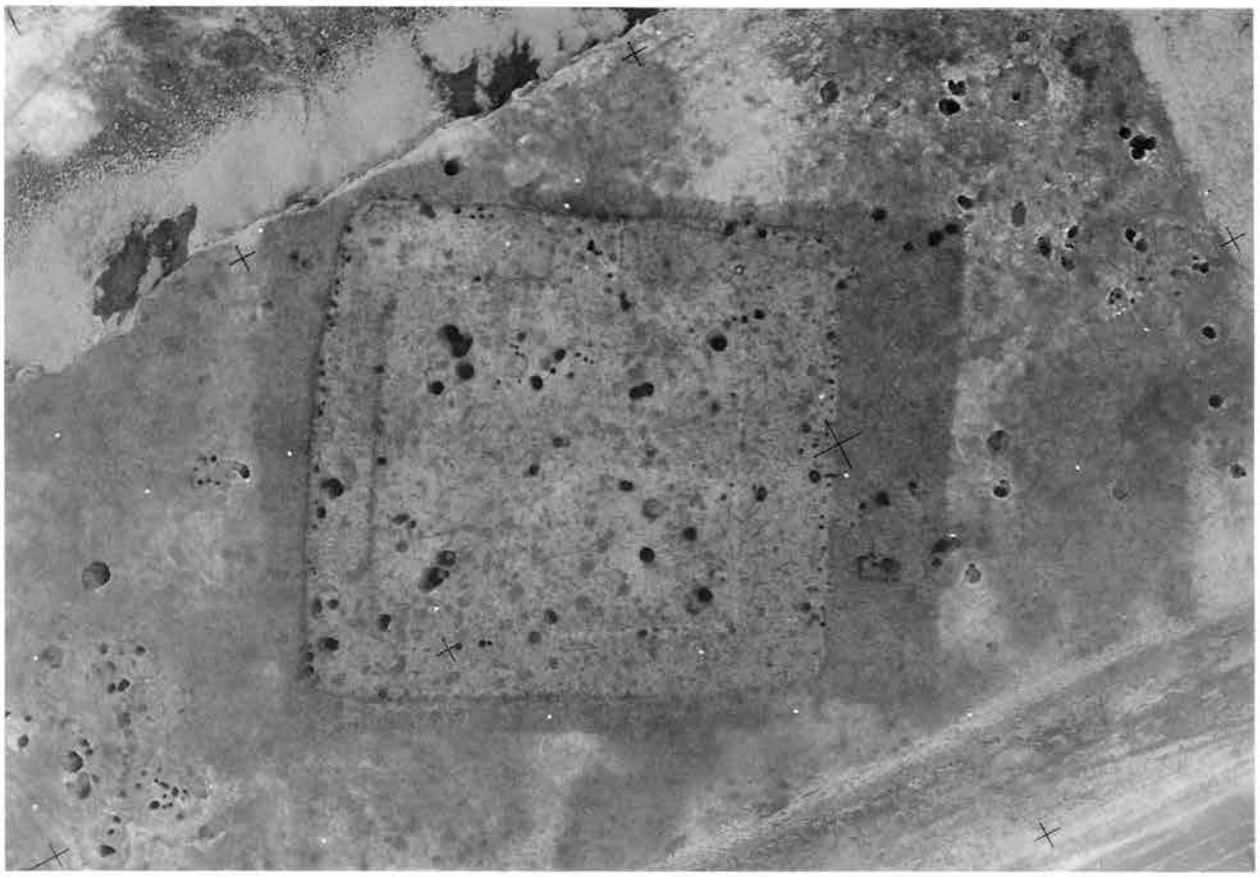
図版1

潮津金場遺跡全景

図版2

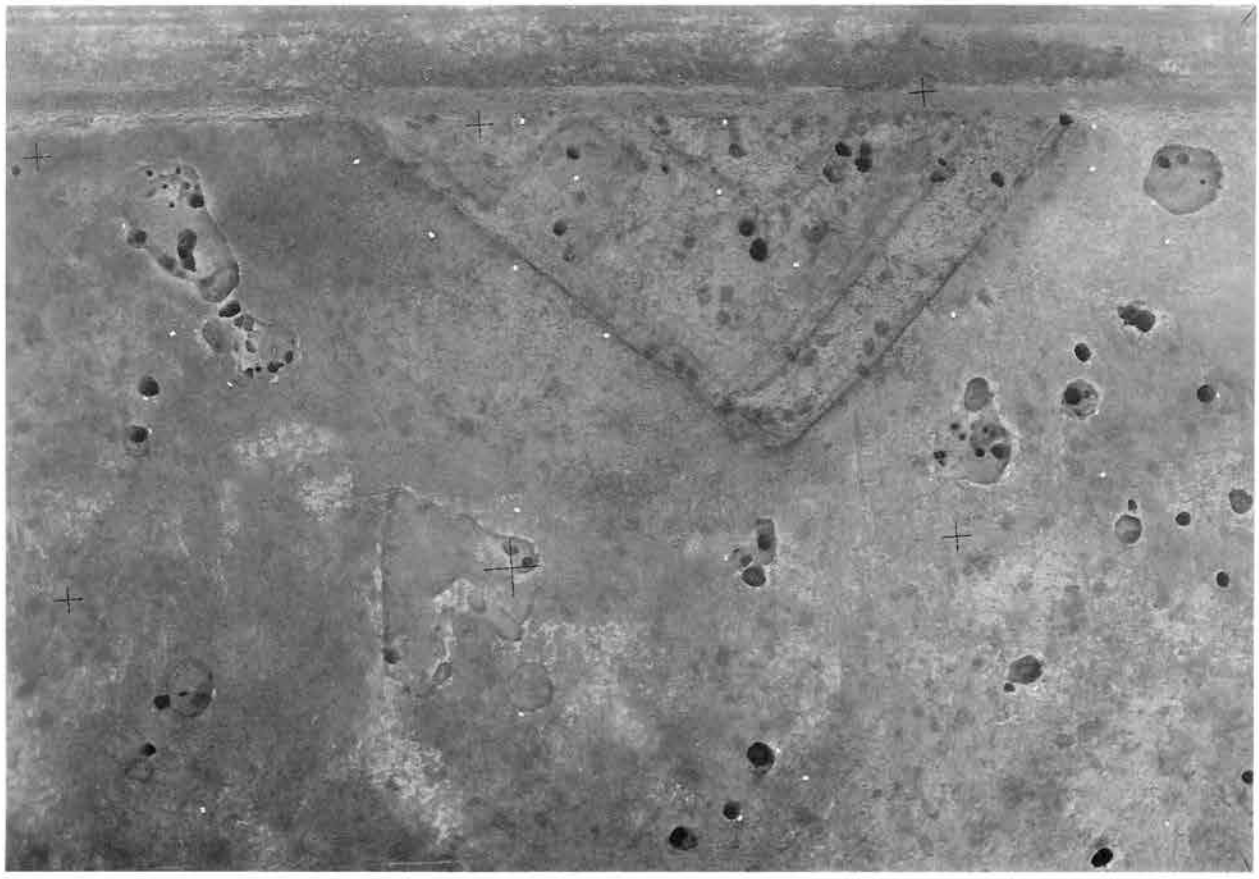
潮津金場遺跡B区全景

図版3



潮津金場遺跡 1 号竪穴住居跡全景

図版4



潮津金場遺跡 2 号竪穴住居跡全景

図版5

潮津金場遺跡３号竪穴住居跡・３号土坑・１号掘立柱建物全景

図版6

潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡全景

図版7

潮津スワンヤブ下遺跡全景（西から）

図版8

潮津スワンヤブ下遺跡全景（東から）

図版9

潮津スワンヤブ下遺跡1号竪穴住居跡完掘状態（南東から）

図版10

潮津スワンヤブ下遺跡4区土層断面（南東から）

図版11

潮津スワンヤブ下遺跡2区遺構完掘状態（南東から）

図版12

潮津スワンヤブ下遺跡2号土坑土器出土状況（南から）

図版13

潮津スワンヤブ下遺跡3号溝完掘状態（南西から）

図版14

潮津スワンヤブ下遺跡3区遺構完掘状態（南西から）

図版15

潮津ドウダン遺跡全景（南から）

図版16

潮津ドウダン遺跡５区土層断面（南西から）

図版17

潮津ドウダン遺跡２区遺構完掘状態（南東から）

図版18

潮津ドウダン遺跡３区遺構完掘状態（南東から）

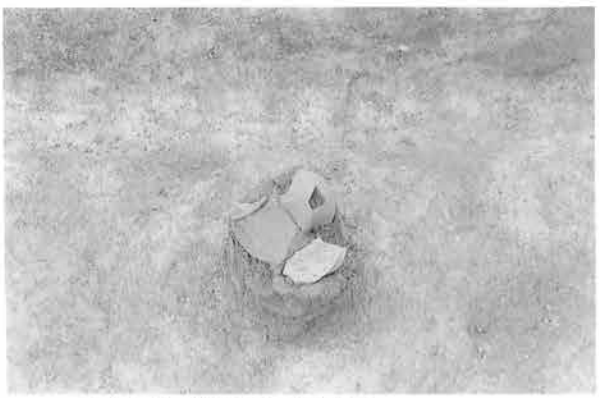
図版19

潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区
１号竪穴住居跡完掘状態（東から）

図版20

潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区
１号竪穴住居跡遺物出土状況

図版21



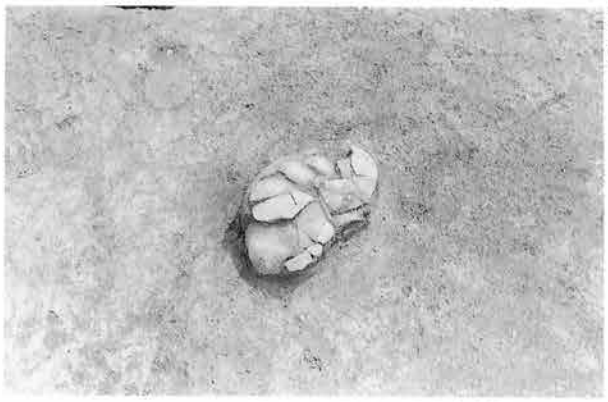
潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区
１号竪穴住居跡遺物出土状況

図版22

潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区
１号竪穴住居跡遺物出土状況

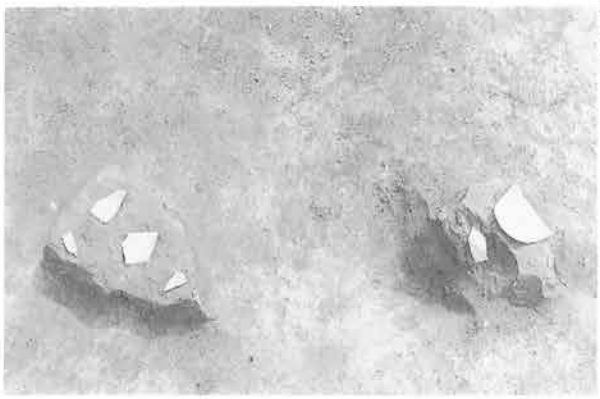
図版23

潮津金場遺跡１号竪穴住居跡完掘状態（南西から）



図版24

潮津金場遺跡１号竪穴住居跡遺物出土状況



図版25

潮津金場遺跡１号竪穴住居跡遺物出土状況

図版26

潮津金場遺跡１号竪穴住居跡遺物出土状況

図版27

潮津金場遺跡１号竪穴住居跡遺物出土状況

図版28

潮津金場遺跡２号竪穴住居跡完掘状態（北東から）

図版29

潮津金場遺跡２号竪穴住居跡床面除去後状態（北東から）

図版30

潮津金場遺跡２号竪穴住居跡遺物出土状況

図版31

潮津金場遺跡３号竪穴住居跡完掘状態（南東から）

図版32

潮津金場遺跡３号竪穴住居跡床面除去後状態（南東から）

図版33

潮津金場遺跡２号土坑遺物出土状況

図版34

潮津金場遺跡３号土坑遺物出土状況

図版35

潮津金場遺跡３号土坑遺物出土状況

図版36

潮津金場遺跡３号土坑完掘状態（南東から）

図版37

潮津金場遺跡Ａ区調査状況（西から）

図版38

潮津金場遺跡基本層序

図版39

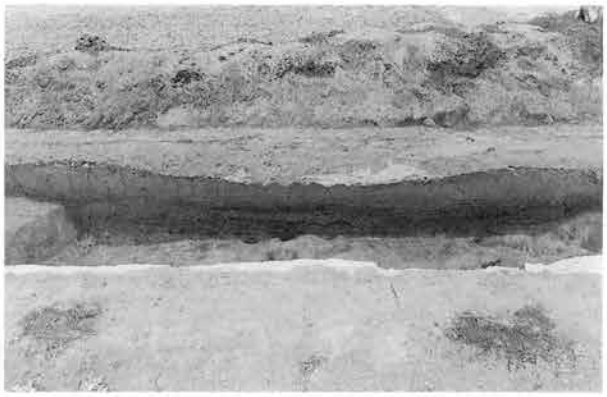
潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ全景（南から）

図版40

潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号竪穴住居跡完掘状態（南から）

図版41

潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号竪穴住居跡床面除去後状態（北から）



図版42

潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号竪穴住居跡土層断面（西から）

図版43

潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ２号竪穴住居跡完掘状態（北から）

図版44

潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ２号竪穴住居跡土層断面（西から）

図版45

潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号土坑遺物出土状況

図版46

潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ１号土坑完掘状態（南東から）

図版47

潮津出村Ｂ遺跡Ｂトレンチ１号掘立柱建物全景（南東から）

図版48

潮津出村Ｂ遺跡Ｂトレンチ完掘状態（北から）

図版49

潮津出村Ｂ遺跡Ｃトレンチ完掘状態（西から）

図版50

潮津出村Ｂ遺跡Ｃトレンチ完掘状態（北から）

図版51

潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡完掘状態
（北西から）

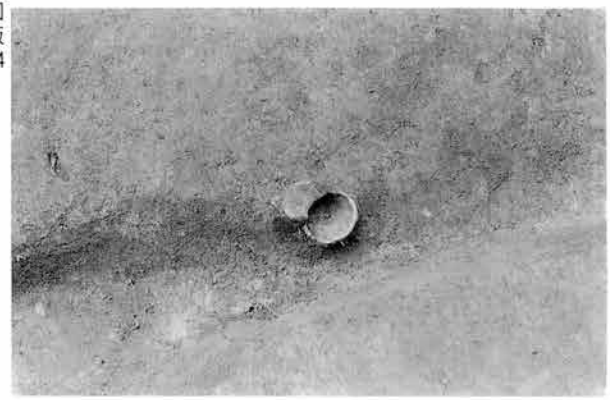
図版52

潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡完掘状態
（西から）

図版53

潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡土層断面
（北から）

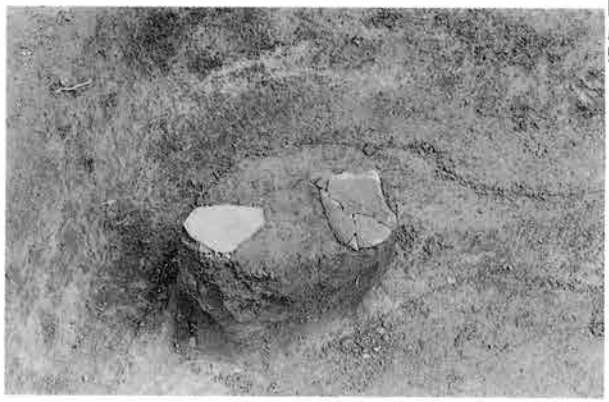
図版54



潮津出村Ｂ遺跡Ｄトレンチ３号竪穴住居跡ａ遺物出土状況

図版55

潮津出村B遺跡Dトレンチ3号竪穴住居跡a遺物出土状況



図版56

潮津出村B遺跡Dトレンチ3号竪穴住居跡c遺物出土状況

図版57

潮津出村B遺跡Dトレンチ3号竪穴住居跡b遺物出土状況

図版58

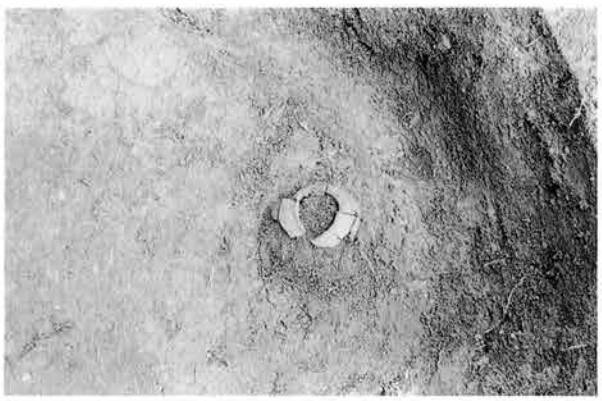
潮津出村B遺跡Dトレンチ3号竪穴住居跡b遺物出土状況

図版59

潮津出村B遺跡Eトレンチ完掘状態（西から）

図版60

潮津出村B遺跡Eトレンチ4号竪穴住居跡完掘状態
（南東から）



図版61

潮津出村B遺跡Eトレンチ4号竪穴住居跡遺物出土状況

図版62

潮津出村B遺跡Eトレンチ4～6号竪穴住居跡完掘状態
（南東から）

図版63

潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ Ｐ－１遺物出土状況

図版64

潮津出村Ｂ遺跡Ｅトレンチ完掘状態（南から）

図版65

潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ完掘状態（北から）

図版66

潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ完掘状態

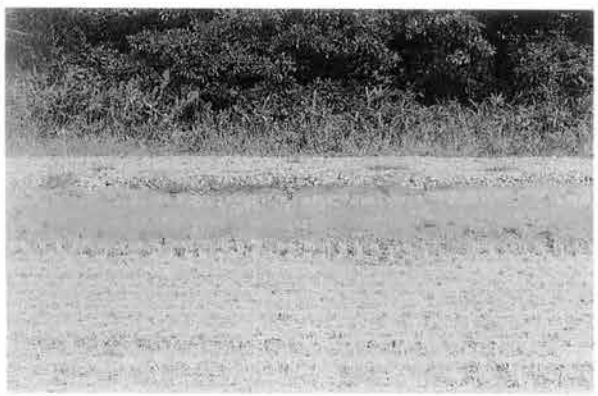
図版67

潮津出村Ｂ遺跡道路南側斜面

図版68

潮津出村Ｂ遺跡道路北側斜面

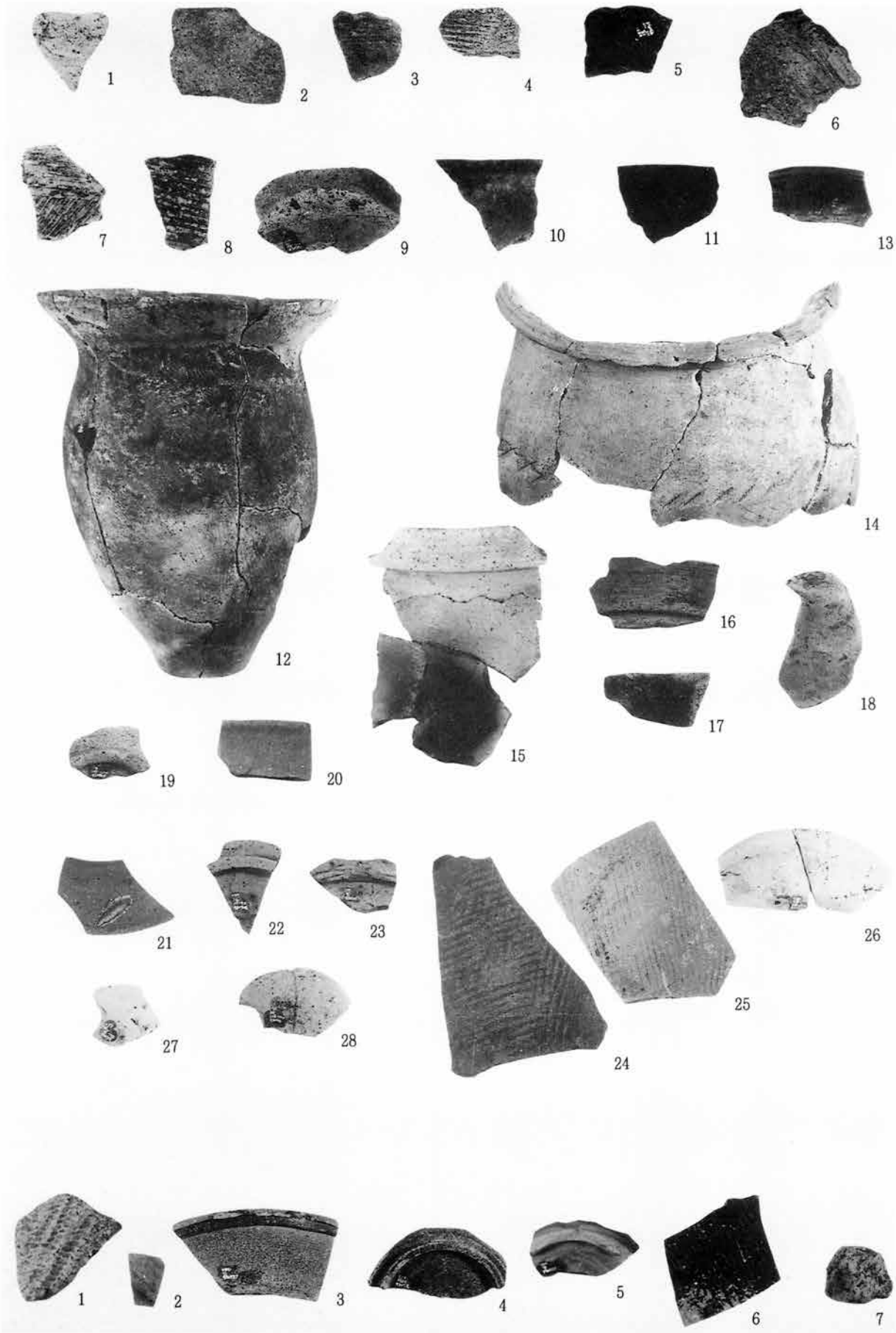
図版69



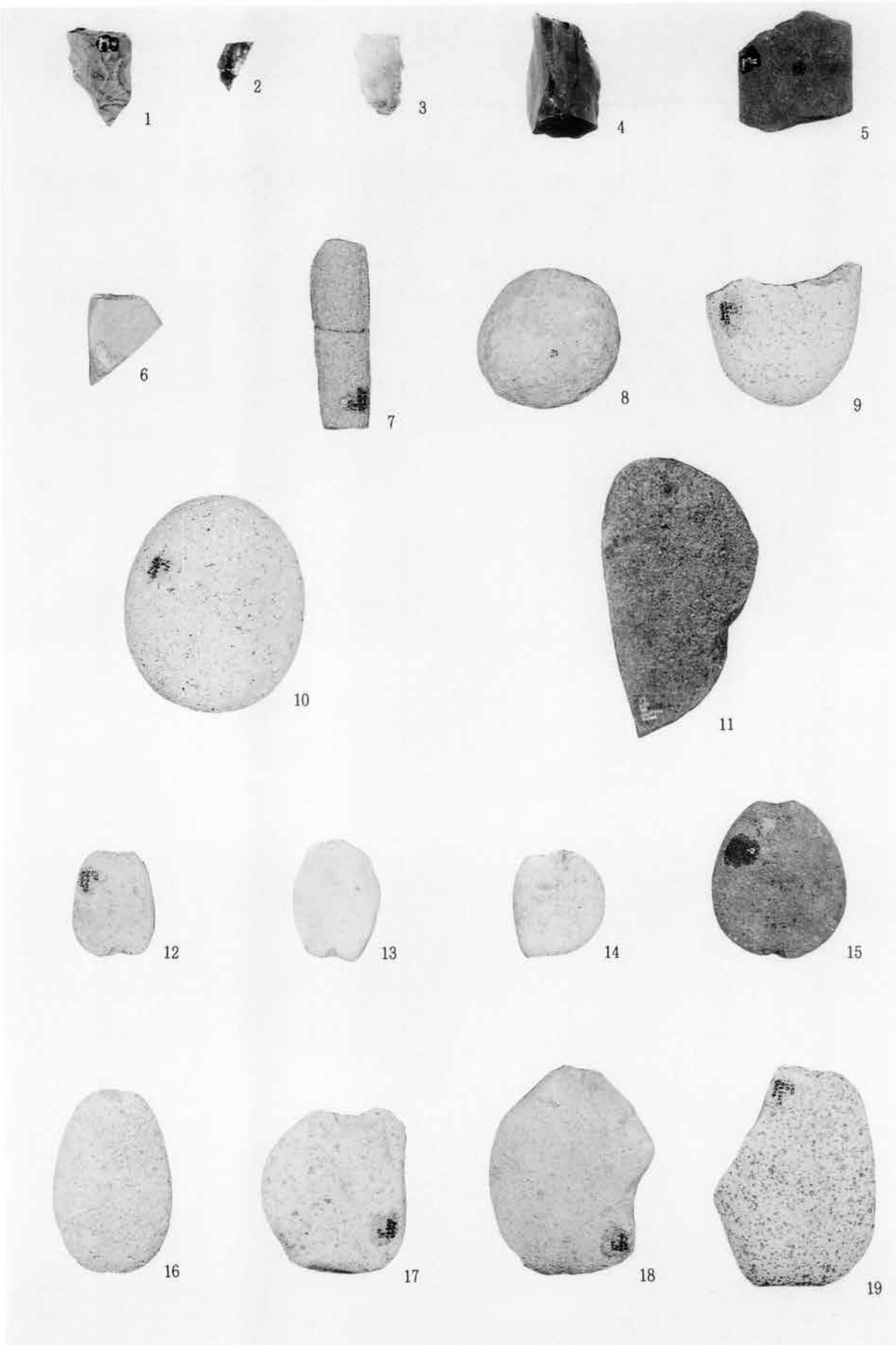
潮津金場遺跡調査区外竪穴住居跡ａ

図版70

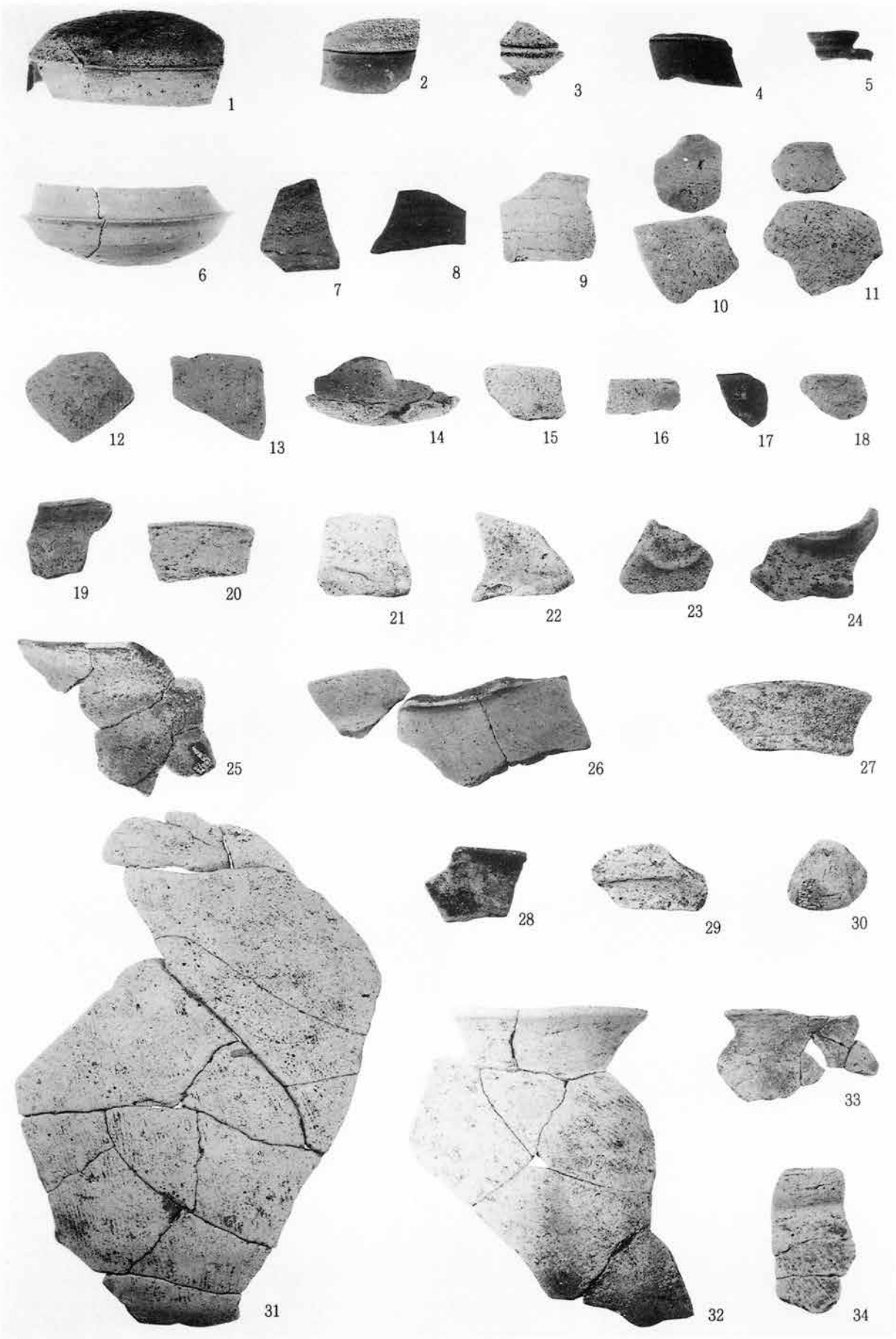
潮津金場遺跡調査区外竪穴住居跡ｂ



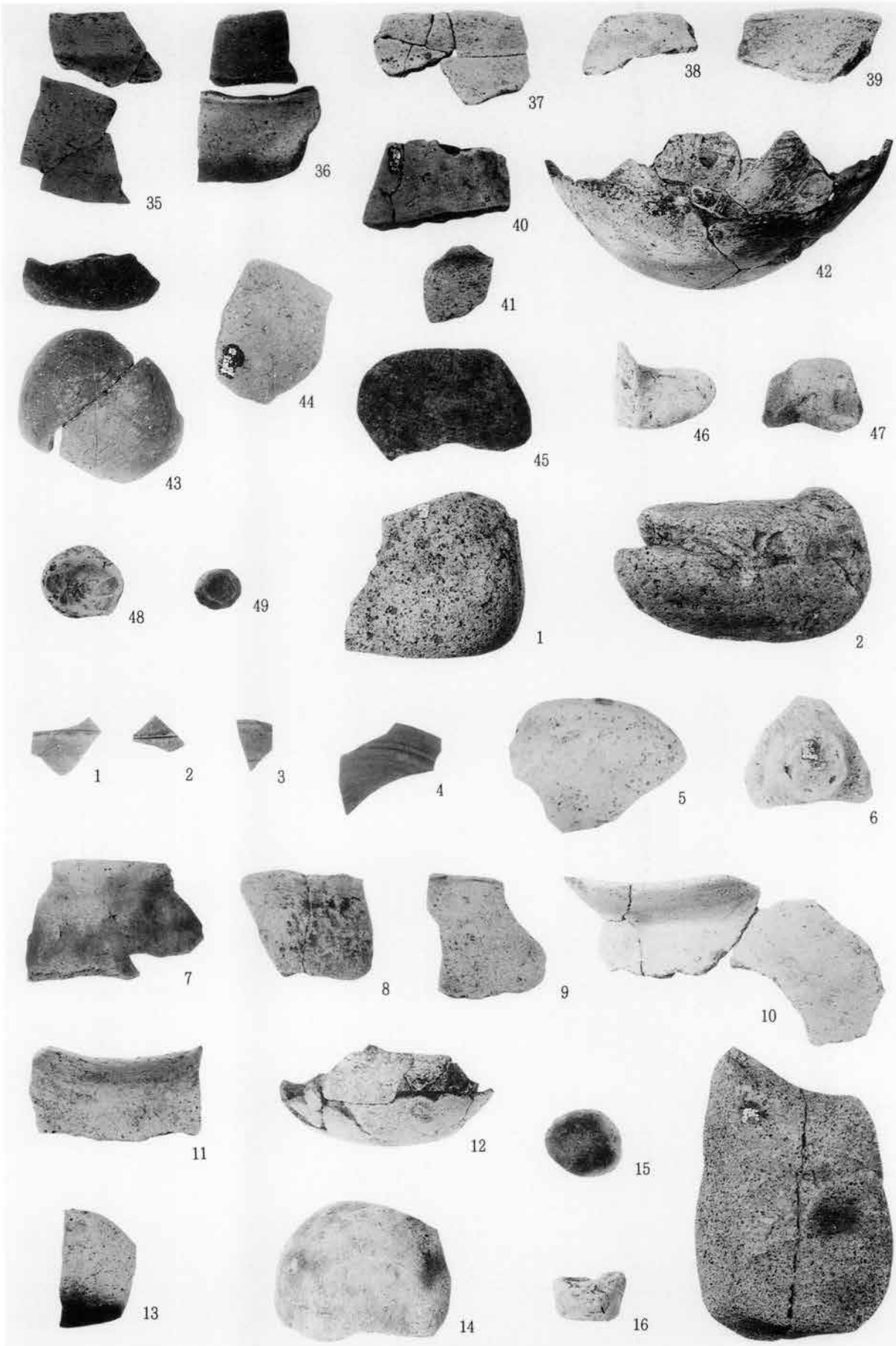
潮津スワンヤブ下遺跡出土土器
潮津ドウダン遺跡出土土器



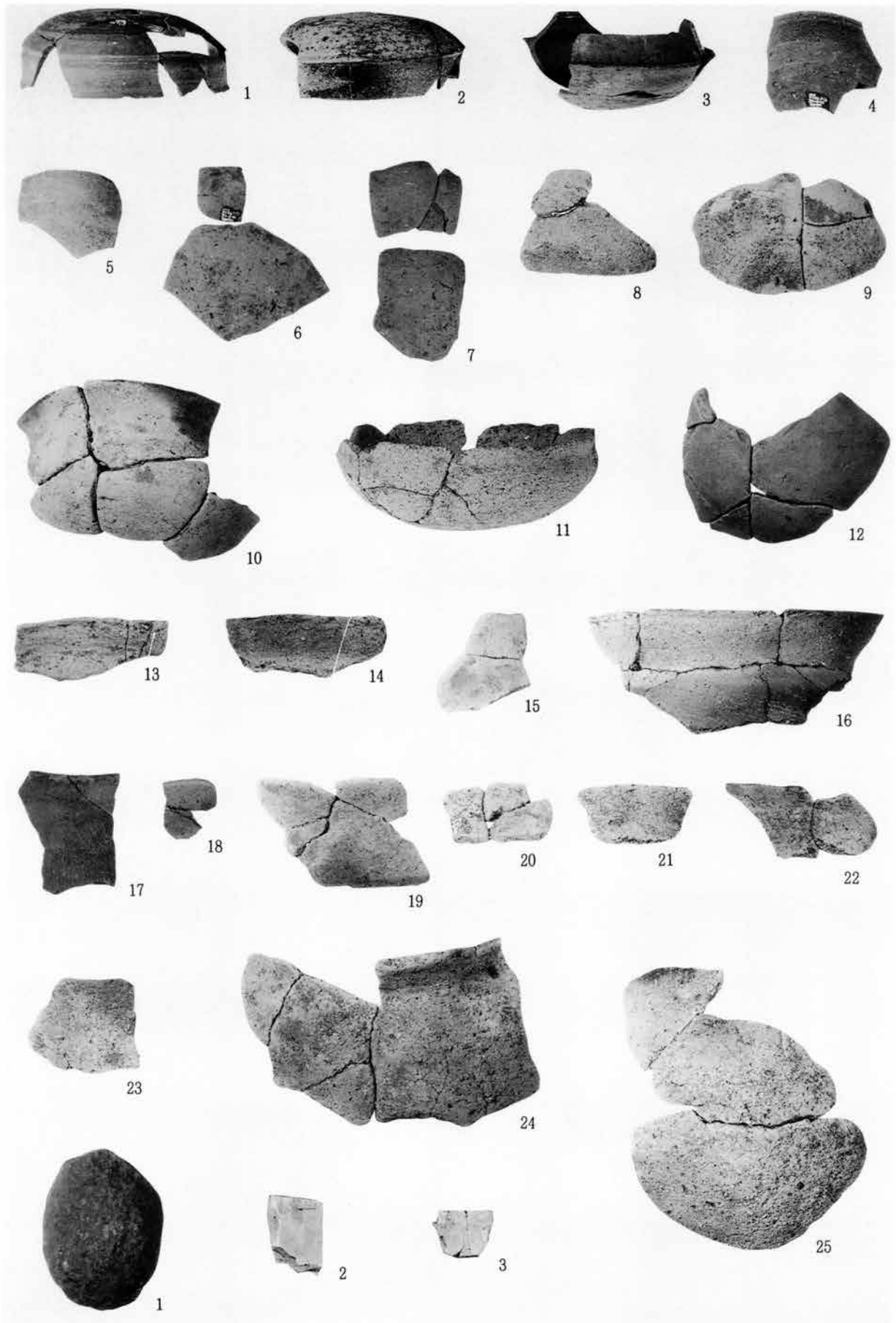
潮津スワンヤブ下遺跡出土石器



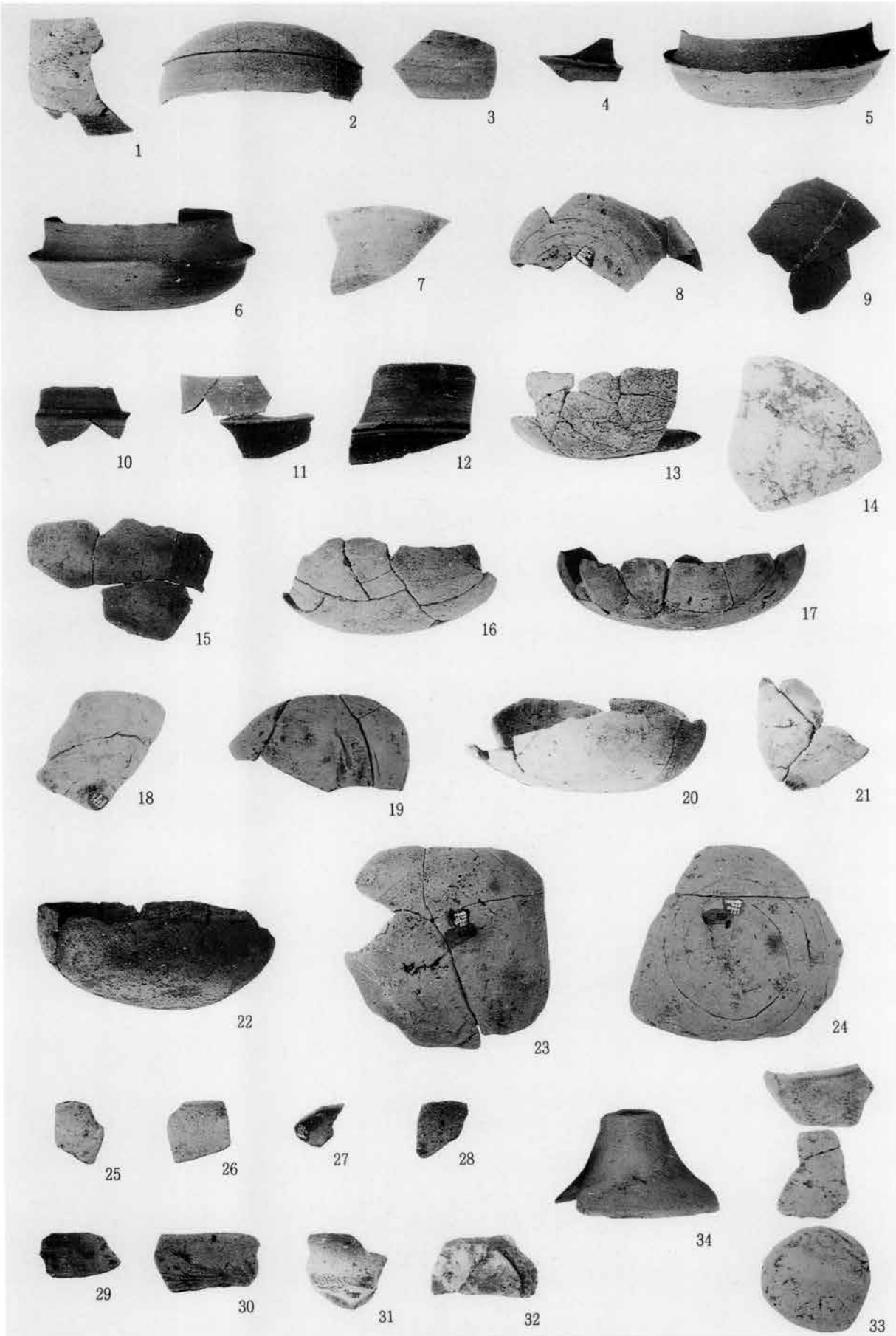
潮津金場遺跡１号竪穴住居跡出土土器



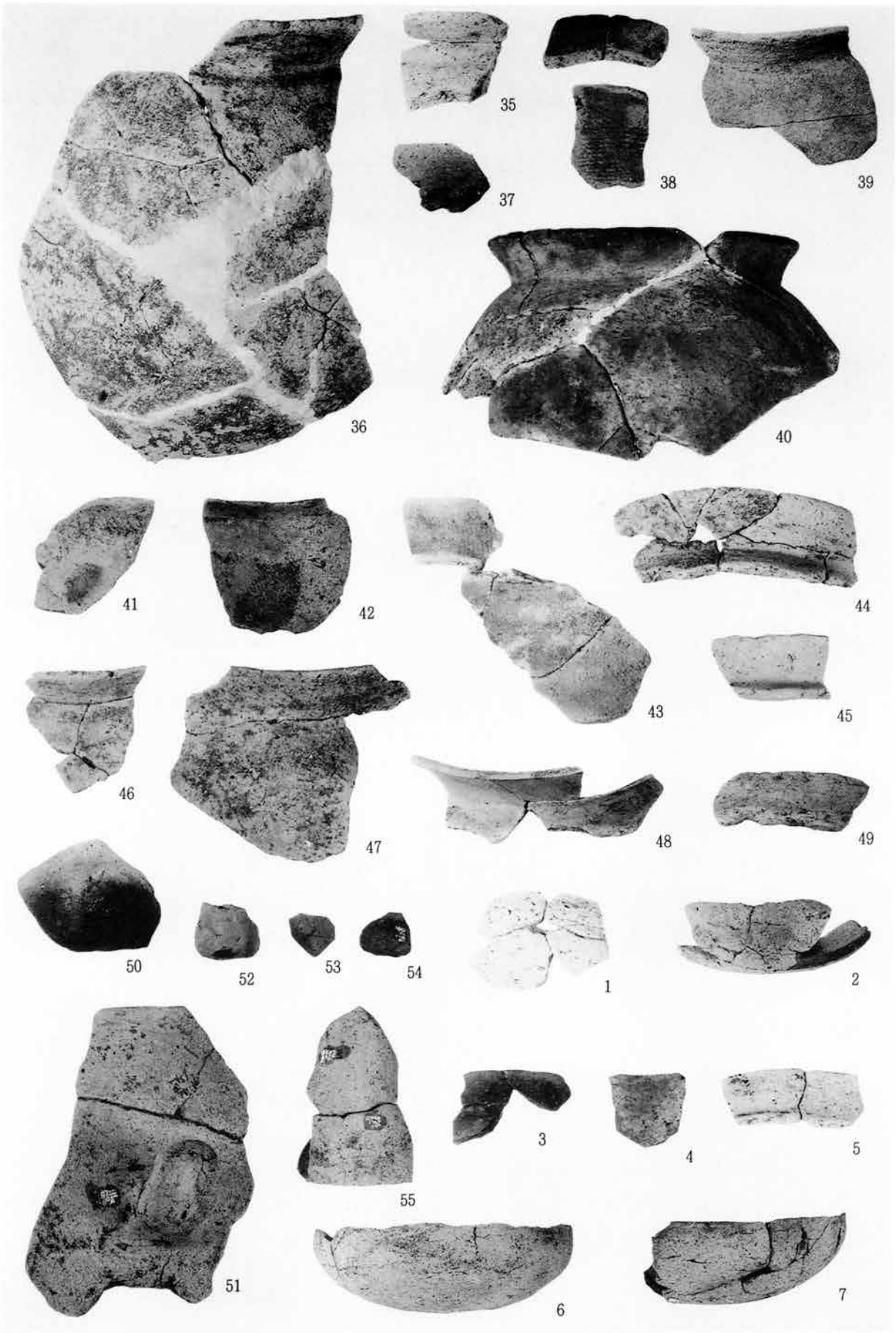
潮津金場遺跡１号竪穴住居跡・２号竪穴住居跡出土遺物



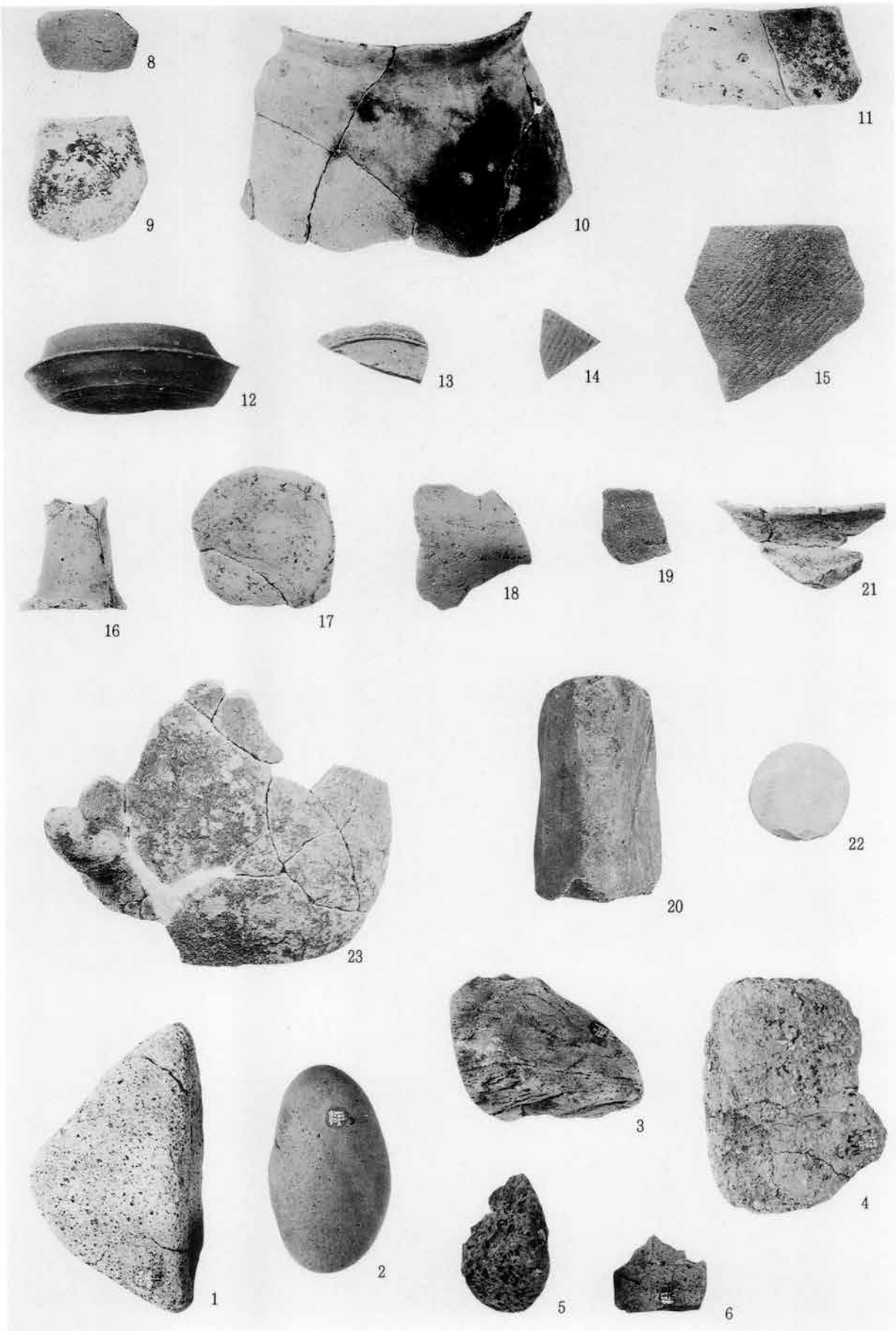
潮津金場遺跡３号竪穴住居跡出土遺物



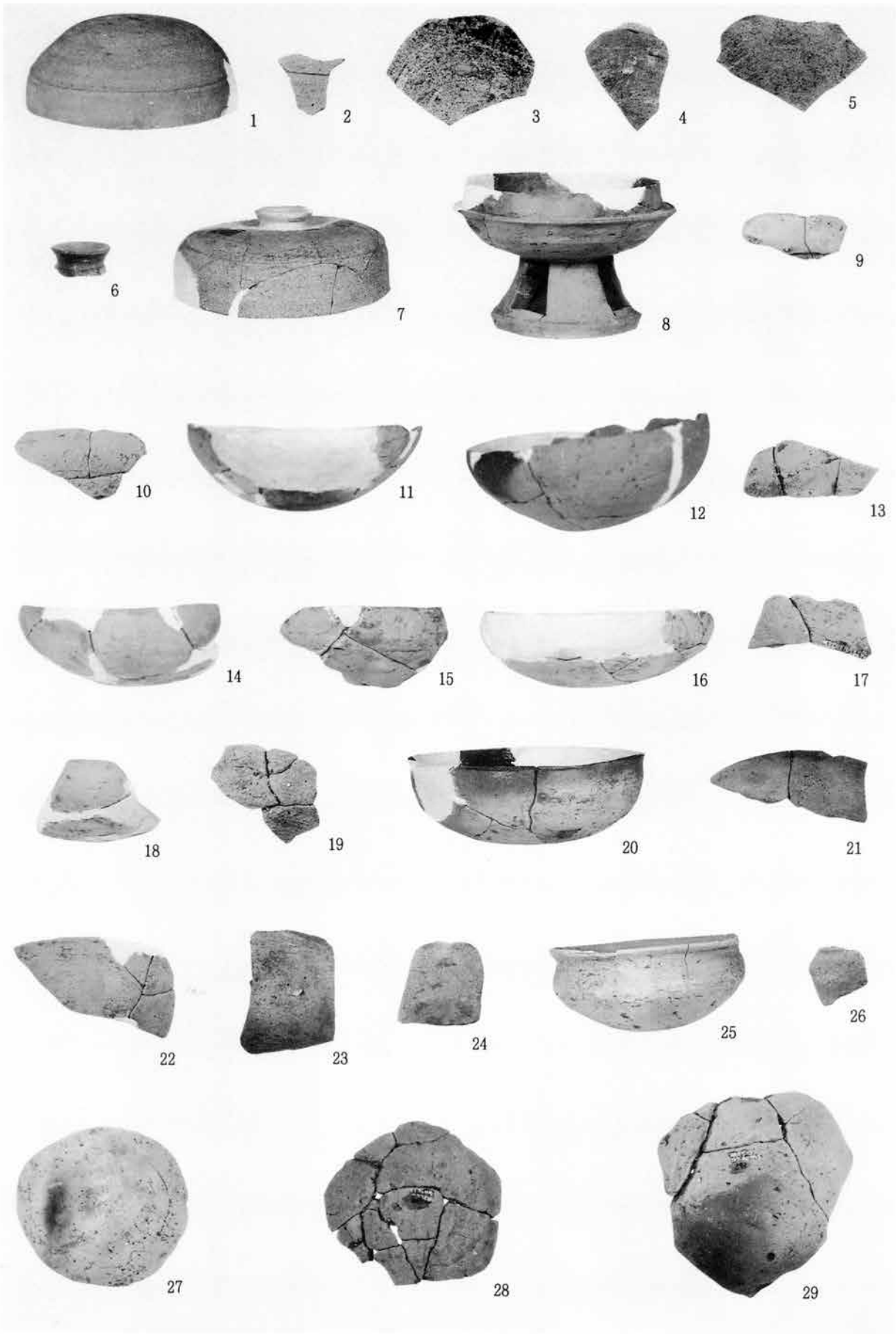
潮津金場遺跡3号土坑出土土器



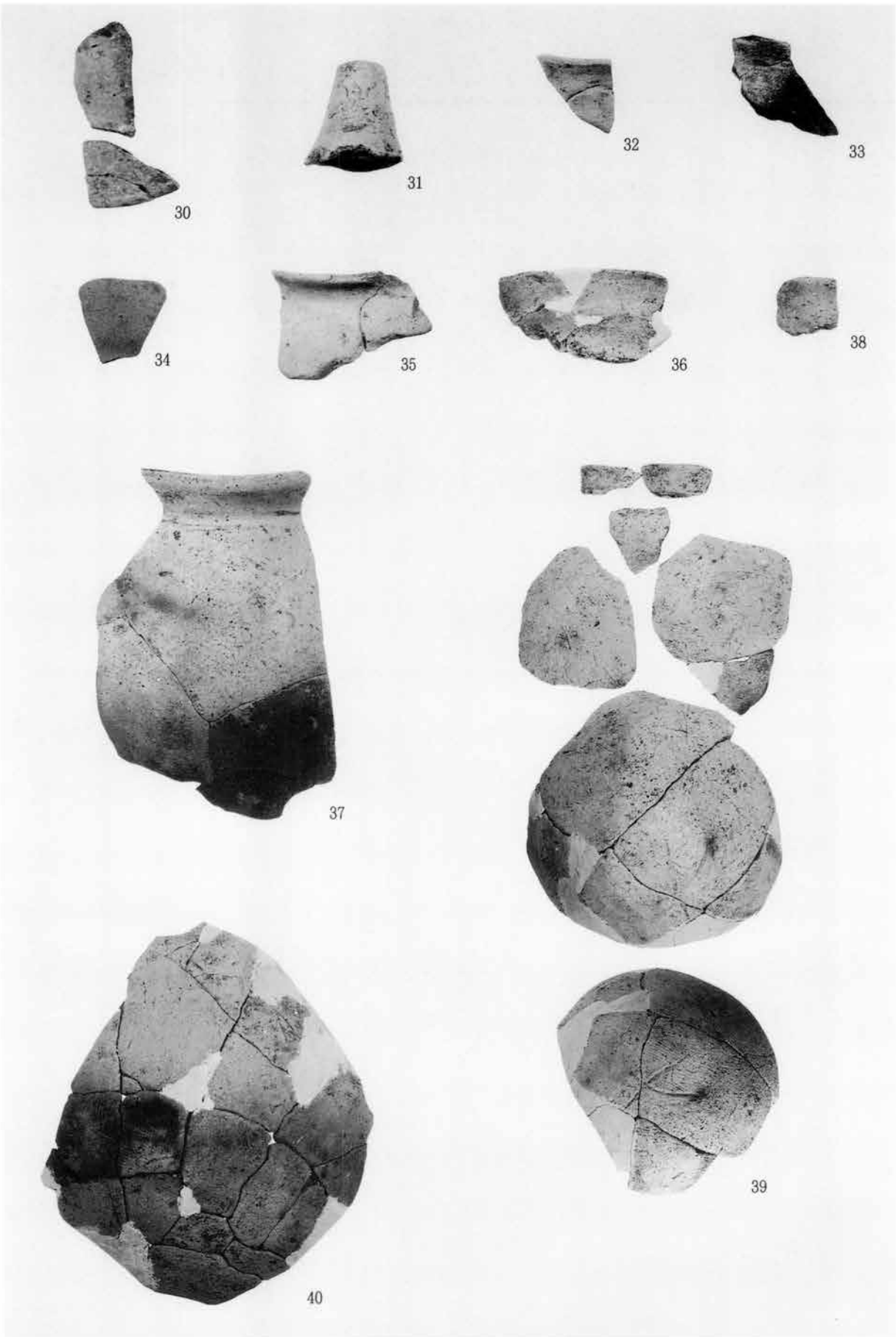
潮津金場遺跡 1 ～ 3 号土坑出土遺物



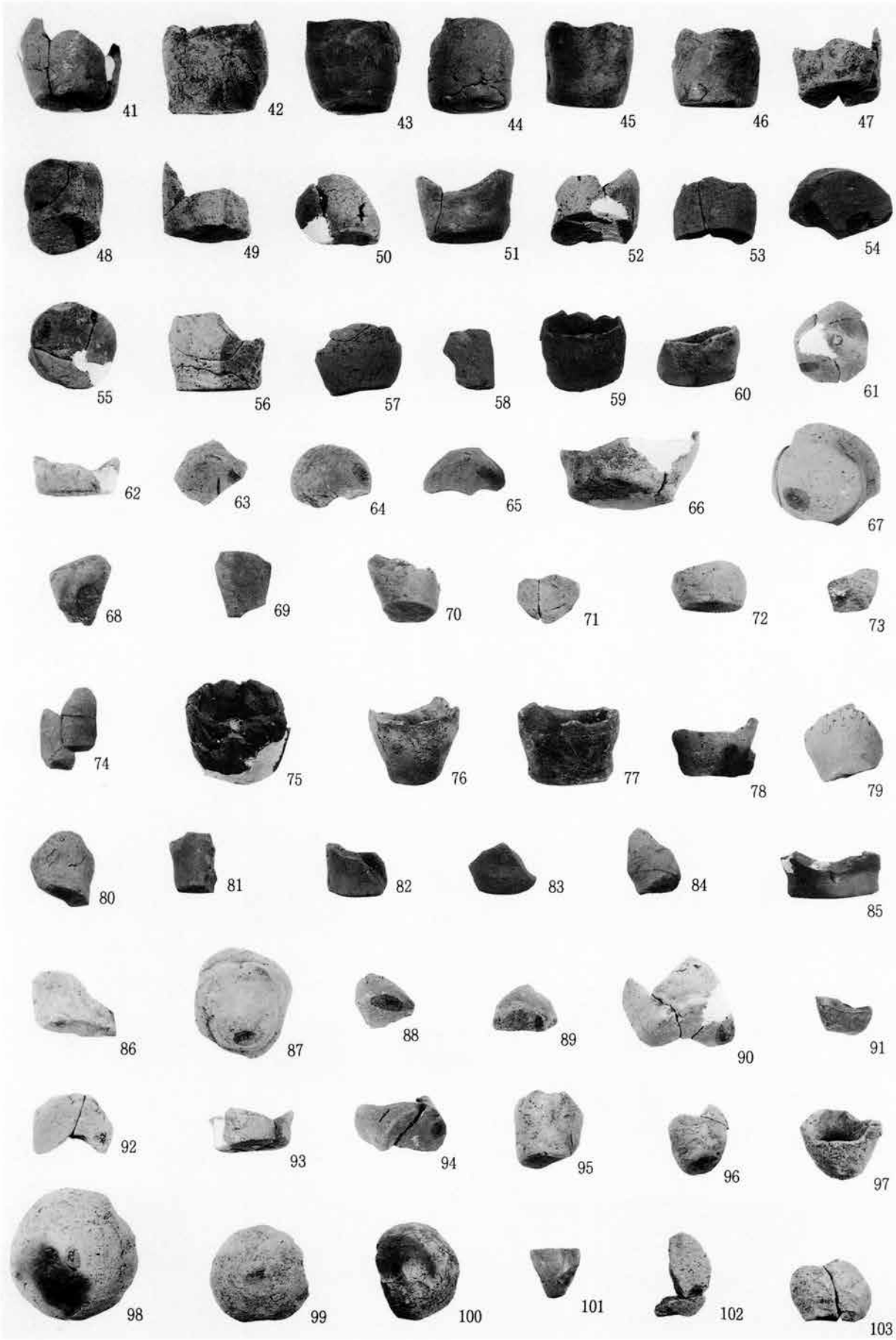
潮津金場遺跡２～５号土坑出土遺物、その他出土遺物



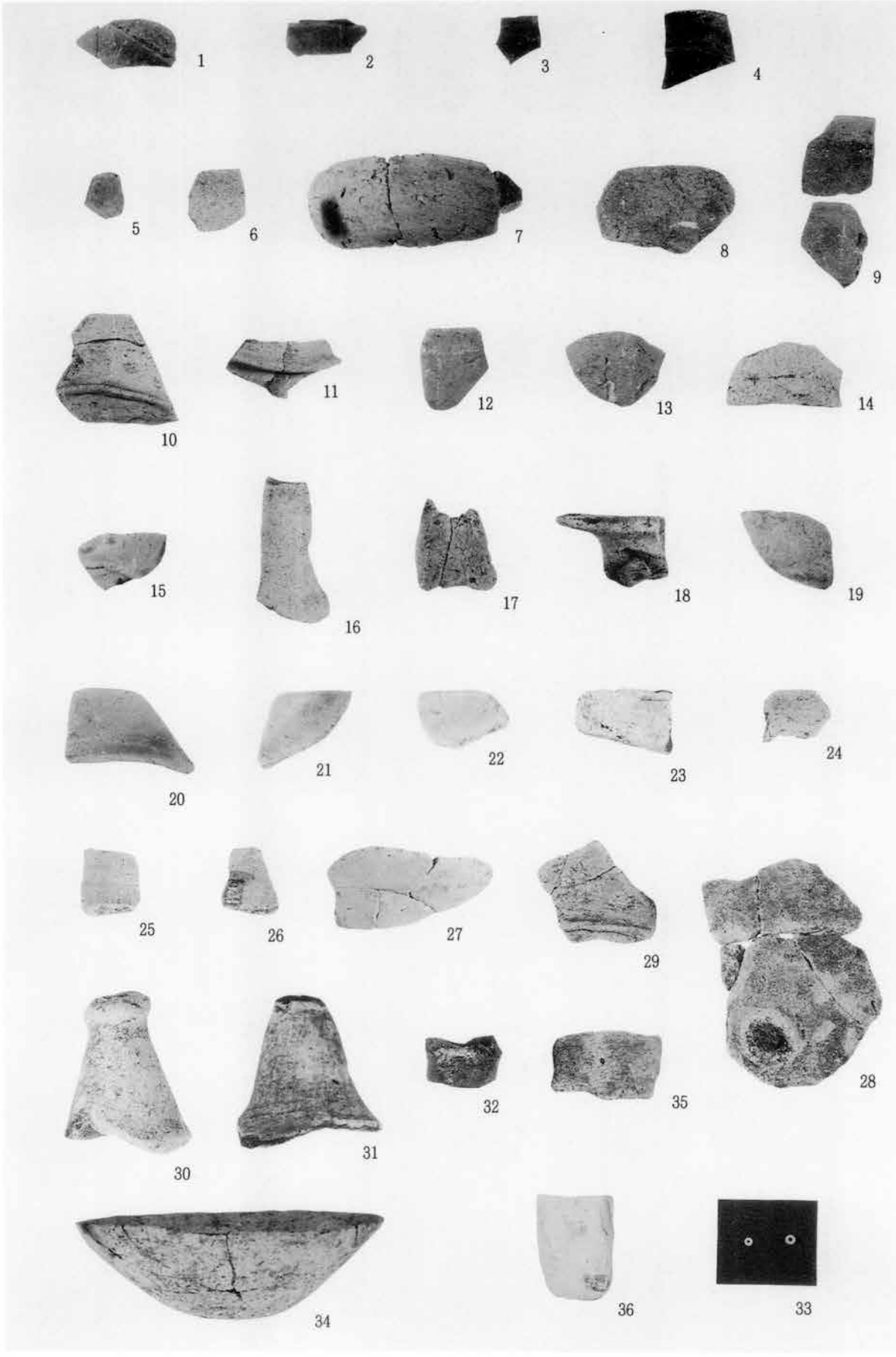
潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器



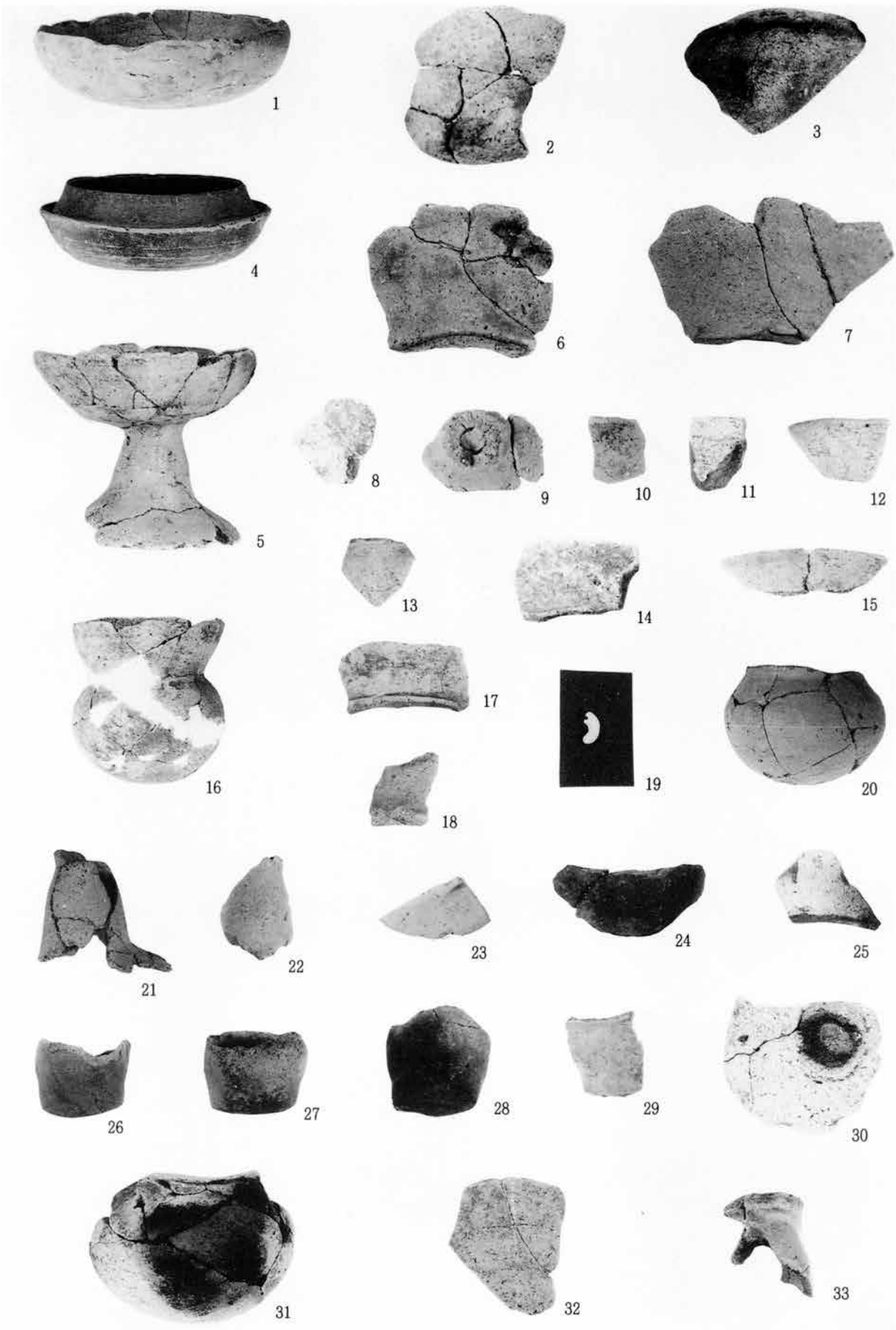
潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器



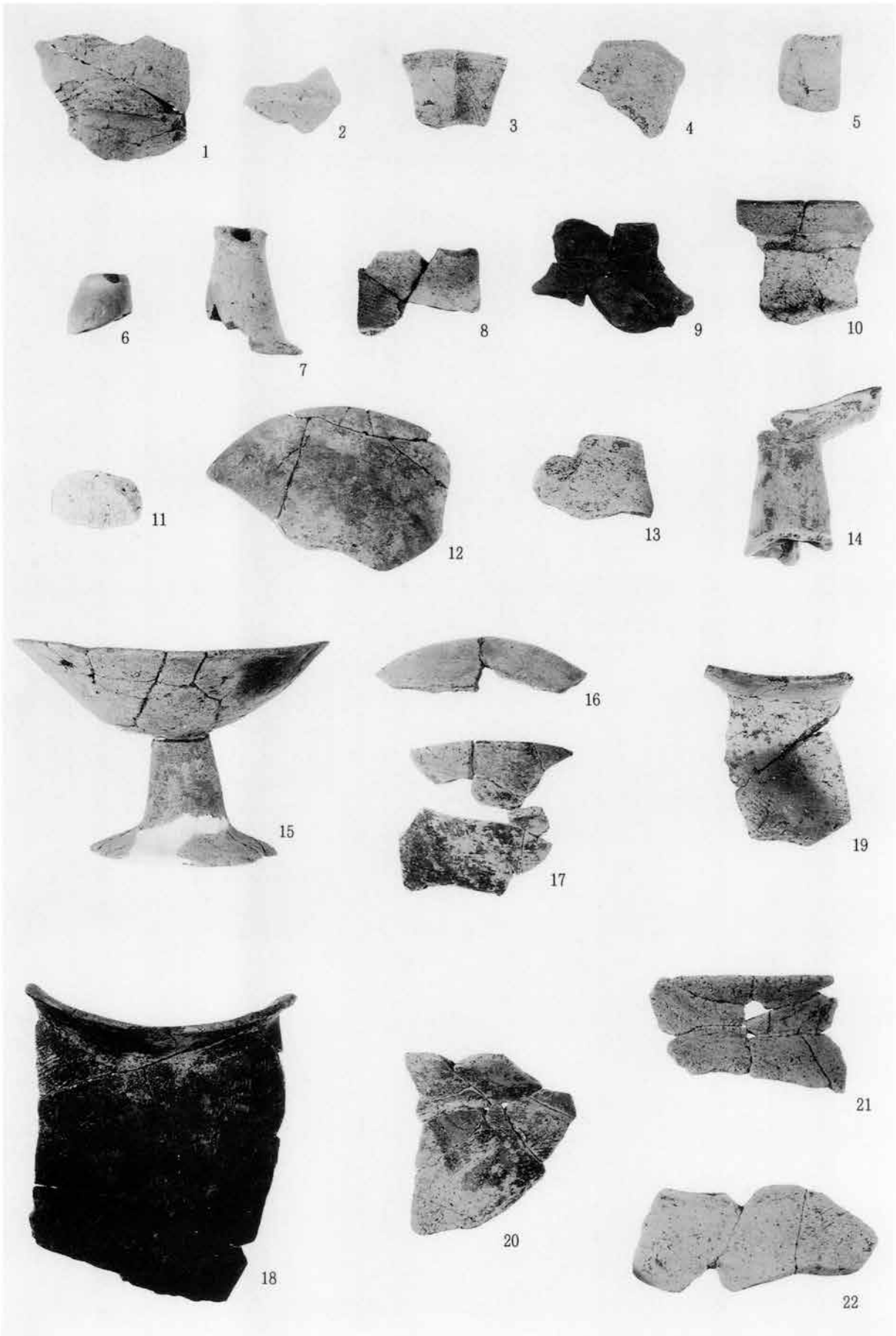
潮津出村Ｂ遺跡'93年度調査区１号竪穴住居跡出土土器



潮津出村Ｂ遺跡Ａトレンチ出土遺物



潮津出村Ｂ遺跡Ｂ～Ｅトレンチ出土遺物



潮津出村Ｂ遺跡Ｆトレンチ（１、２）・道跡南側斜面（３～11）・北側斜面（12～22）出土土器

潮 津 遺 跡 群

―県営ほ場整備事業（潮津地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

発 行 日　平成９年３月31日

編集・発行　石川県立埋蔵文化財センター
〒921 金沢市米泉町４丁目133番地
TEL（0762）43－7692

印　　刷　前田印刷株式会社
金沢市金市町ホ34番地１